

**2020年度  
大学院社会学研究科  
講義概要 (シラバス)**



**法政大学**

# 科目一覧

[発行日: 2020/5/1] 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

[X6000]	社会学基礎演習 1 [佐藤 成基] 春学期授業/Spring	1
[X6001]	社会学基礎演習 2 [鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	2
[X6002]	社会学基礎演習 3 [佐藤 成基] 春学期授業/Spring	3
[X6003]	理論社会学 2 (生活史の社会学) [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	4
[X6004]	理論社会学 4 (ベーシックインカムの社会理論) [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	5
[X6005]	理論社会学基礎 1 [徳安 彰] 春学期授業/Spring	6
[X6006]	理論社会学基礎 2 [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	7
[X6007]	社会学特殊研究 1 (国際移住の社会学) [田嶋 淳子] 秋学期授業/Fall	8
[X6008]	社会学特殊研究 2 (若者問題の現状と課題) [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	9
[X6009]	社会学特殊研究 2 (批判的社会政策論) [堅田 香緒里] 秋学期授業/Fall	10
[X6010]	社会学特殊研究 3 (社会変化/不変化の社会学) [堀川 三郎] 春学期授業/Spring	11
[X6011]	社会学特殊研究 3 (家族社会学) [菊澤 佐江子] 春学期授業/Spring	12
[X6012]	社会学特殊研究 4 (歴史社会学) [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	13
[X6013]	社会学特殊研究 4 (社会運動としての成人教育運動) [荒井 容子] 春学期授業/Spring	14
[X6014]	社会学特殊研究 5 [多田 光宏] 春学期集中/Intensive(Spring)	15
[X6015]	社会学特殊研究 6 [飯田 豊] 春学期集中/Intensive(Spring)	16
[X6016]	統計分析法 [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	17
[X6017]	調査研究法 [中筋 直哉] 春学期前半/Spring(1st half)	18
[X6018]	質的資料分析法 [田嶋 淳子] 春学期後半/Spring(2nd half)	19
[X6019]	メディア社会学基礎演習 1 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	20
[X6020]	メディア社会学基礎演習 2 [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	21
[X6021]	メディア社会学基礎演習 3 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	22
[X6022]	メディア理論 1 (メディアの歴史と思想) [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	23
[X6023]	メディア理論 3 (ジャーナリズム思想史) [別府 三奈子] 秋学期授業/Fall	24
[X6024]	メディア理論 4 (メディア・コミュニケーションの諸相～現状と今後～) [北原 利行] 春学期授業/Spring	25
[X6025]	メディア理論 5 (メディア・ナショナリズム研究) [津田 正太郎] 秋学期授業/Fall	26
[X6026]	メディア特殊研究 1 (ブランド広告の意味研究) [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	27
[X6027]	メディア特殊研究 2 (メディアとデータリテラシー) [萩原 雅之] 春学期授業/Spring	28
[X6028]	メディア社会学特殊研究 1 (消費者行動分析) [諸上 茂光] 秋学期授業/Fall	29
[X6029]	メディア社会学特殊研究 2 (Youtuber 研究) [稲増 龍夫] 秋学期授業/Fall	30
[X6030]	取材文章実習 [高瀬 文人] 秋学期授業/Fall	31
[X6031]	調査報道実習 2 [川島 浩誉] 春学期集中/Intensive(Spring)	32
[X6032]	オーディエンス調査実習 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	33
[X6033]	学際研究 3 (歴史学の方法とその歴史・現在) [慎 蒼宇] 春学期授業/Spring	34
[X6034]	学際研究 4 (社会ネットワークと組織) [宇野 斉] 春学期授業/Spring	35
[X6035]	学際研究 5 (場の質的心理学) [土倉 英志] 春学期授業/Spring	36
[X6036]	社会科学研究法 1 [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	37
[X6037]	社会科学研究法 2 [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	38
[X6038]	外国書講読 1 (英語) [関口 浩] 春学期授業/Spring	39
[X6039]	外国書講読 2 (英語) [関口 浩] 秋学期授業/Fall	40
[X6040]	外国書講読 1 (英語) [武田 俊輔] 春学期授業/Spring	41
[X6041]	外国書講読 2 (英語) [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	42
[X6042]	外国書講読 1 (英語) [鈴木 宗徳] 春学期授業/Spring	43
[X6043]	外国書講読 2 (英語) [鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	44
[X6044]	外国書講読 1 (仏語) [高橋 愛] 春学期授業/Spring	45
[X6045]	外国書講読 2 (仏語) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	46
[X6046]	外国書講読 1 (独語) [三浦 美紀子] 春学期授業/Spring	47
[X6047]	外国書講読 2 (独語) [三浦 美紀子] 秋学期授業/Fall	48
[X6048]	外国書講読 1 (中国語) [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	49
[X6049]	外国書講読 2 (中国語) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	50
[X6050]	社会学原典講読 [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	51
[X6051]	社会学原典講読 [小林 直毅] 春学期授業/Spring	52
[X6052]	論文指導 1 [社会学専攻専任教員] 年間授業/Yearly	53

【X6053】	論文指導1	〔荒井 容子〕	年間授業/Yearly	54
【X6054】	論文指導1	〔大崎 雄二〕	年間授業/Yearly	55
【X6055】	論文指導1	〔岡野内 正〕	年間授業/Yearly	56
【X6057】	論文指導1	〔愼 蒼宇〕	年間授業/Yearly	57
【X6058】	論文指導1	〔鈴木 智之〕	年間授業/Yearly	58
【X6059】	論文指導1	〔田嶋 淳子〕	年間授業/Yearly	59
【X6060】	論文指導1	〔徳安 彰〕	年間授業/Yearly	60
【X6062】	論文指導1	〔藤田 真文〕	年間授業/Yearly	61
【X6063】	論文指導1	〔別府 三奈子〕	年間授業/Yearly	62
【X6064】	論文指導1	〔鈴木 智道〕	年間授業/Yearly	63
【X6065】	論文指導1	〔稲増 龍夫〕	年間授業/Yearly	64
【X6071】	論文指導2	〔社会学専攻専任教員〕	年間授業/Yearly	65
【X6072】	論文指導2	〔小林 直毅〕	年間授業/Yearly	66
【X6073】	論文指導2	〔愼 蒼宇〕	年間授業/Yearly	67
【X6074】	論文指導2	〔鈴木 智之〕	年間授業/Yearly	68
【X6075】	論文指導2	〔田嶋 淳子〕	年間授業/Yearly	69
【X6076】	論文指導2	〔藤代 裕之〕	年間授業/Yearly	70
【X6077】	論文指導2	〔藤田 真文〕	年間授業/Yearly	71
【X6078】	論文指導2	〔堅田 香緒里〕	年間授業/Yearly	72
【X6079】	論文指導2	〔土橋 臣吾〕	年間授業/Yearly	73
【X6080】	論文指導2	〔宇野 齊〕	年間授業/Yearly	74
【X6300】	博士論文指導I A	〔社会学専攻専任教員〕	春学期授業/Spring	75
【X6301】	博士論文指導I A	〔津田 正太郎〕	春学期授業/Spring	76
【X6302】	博士論文指導I A	〔諸上 茂光〕	春学期授業/Spring	77
【X6305】	博士論文指導I B	〔社会学専攻専任教員〕	秋学期授業/Fall	78
【X6306】	博士論文指導I B	〔津田 正太郎〕	秋学期授業/Fall	79
【X6307】	博士論文指導I B	〔諸上 茂光〕	秋学期授業/Fall	80
【X6310】	博士論文指導II A	〔社会学専攻専任教員〕	春学期授業/Spring	81
【X6311】	博士論文指導II A	〔鈴木 智之〕	春学期授業/Spring	82
【X6315】	博士論文指導II B	〔社会学専攻専任教員〕	秋学期授業/Fall	83
【X6316】	博士論文指導II B	〔鈴木 智之〕	秋学期授業/Fall	84
【X6320】	博士論文指導III A	〔社会学専攻専任教員〕	春学期授業/Spring	85
【X6321】	博士論文指導III A	〔岡野内 正〕	春学期授業/Spring	86
【X6323】	博士論文指導III A	〔愼 蒼宇〕	春学期授業/Spring	87
【X6324】	博士論文指導III A	〔鈴木 智道〕	春学期授業/Spring	88
【X6325】	博士論文指導III A	〔鈴木 智之〕	春学期授業/Spring	89
【X6326】	博士論文指導III A	〔徳安 彰〕	春学期授業/Spring	90
【X6330】	博士論文指導III B	〔社会学専攻専任教員〕	秋学期授業/Fall	91
【X6331】	博士論文指導III B	〔岡野内 正〕	秋学期授業/Fall	92
【X6333】	博士論文指導III B	〔愼 蒼宇〕	秋学期授業/Fall	93
【X6334】	博士論文指導III B	〔鈴木 智道〕	秋学期授業/Fall	94
【X6335】	博士論文指導III B	〔鈴木 智之〕	秋学期授業/Fall	95
【X6336】	博士論文指導III B	〔徳安 彰〕	秋学期授業/Fall	96
【X6340】	社会学総合演習A	〔専任教員〕	春学期集中/Intensive(Spring)	97
【X6341】	社会学総合演習B	〔専任教員〕	秋学期集中/Intensive(Fall)	98
【X6342】	社会学研究1	〔ジョージ・ハン〕	秋学期授業/Fall	99
【X6343】	社会学研究2	〔多田 光宏〕	春学期集中/Intensive(Spring)	100
【X6344】	社会学研究3	〔飯田 豊〕	春学期集中/Intensive(Spring)	101
【X6345】	社会調査法1	〔中筋 直哉〕	春学期前半/Spring(1st half)	102
【X6346】	社会調査法2	〔斎藤 友里子〕	春学期授業/Spring	103
【X6347】	社会調査法3	〔田嶋 淳子〕	春学期後半/Spring(2nd half)	104
【X6348】	社会学原典研究1	〔徳安 彰〕	秋学期授業/Fall	105
【X6349】	社会学原典研究2	〔小林 直毅〕	春学期授業/Spring	106

SOC600E1 - 1100

**社会学基礎演習 1**

佐藤 成基

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「社会学基礎演習 1」は、社会学コースの修士課程 1 年生を対象とした必修科目である。ここでは、修士論文における問題の設定、分析の枠組、説明の論理構造の明確にするための支援を行うとともに、学術論文作成に必要な文章の書き方のスキルを学ぶ。

**【到達目標】**

①修士論文の完成をめざし、修士論文における論文の問題設定の仕方、分析のための枠組、仮説の設定、論証方法などを明確にしていく。  
②学術論文のための論理的な文章の書き方をマスターする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

6 月に行われる「総合演習」での報告を目安に、自分の論文の問題設定・分析枠組・説明の論法を明確にしていく。また、学術論文のための論文作法について書いたテキスト（下記参照）を全員で講読し、自分の文章の書き方について点検する。受講者は、単に自分の報告をするだけでなく、演習内での討論に参加し、積極的な貢献をすることが求められる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	学術的な文章の書き方について
第 2 回	修士論文の構想報告（1）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（1）。
第 3 回	修士論文の構想報告（2）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（2）。
第 4 回	修士論文の構想報告（3）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（3）。
第 5 回	修士論文の構想報告（4）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（4）。
第 6 回	修士論文の構想報告（5）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（5）。
第 7 回	修士論文の構想報告（6）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（6）。
第 8 回	修士論文の構想報告（7）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（7）。
第 9 回	修士論文の構想報告（8）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（8）。
第 10 回	学術論文のための文章作法（1）	学術論文に相応しい文章を書くスキルを検討する（1）。
第 11 回	学術論文のための文章作法（2）	学術論文に相応しい文章を書くスキルを検討する（2）。
第 12 回	学術論文のための文章作法（3）	学術論文に相応しい文章を書くスキルを検討する（3）。
第 13 回	学術論文のための文章作法（4）	学術論文に相応しい文章を書くスキルを検討する（4）。
第 14 回	学術論文のための文章作法（5）	学術論文に相応しい文章を書くスキルを検討する（5）。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

①修士論文のための構想を練る、②テキスト講読

**【テキスト（教科書）】**

石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）

**【参考書】**

授業内で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

演習での報告（50%）、議論への参加（50%）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>社会学

<研究テーマ>国家とナショナリズムの比較研究、社会学理論、ドイツの移民統合と排外主義

<主要研究業績>

「重国籍に抵抗するドイツ人「国民の自己理解」の観点から」『社会志林』第 66 巻第 4 号、2020 年

（共編著）宮島喬・佐藤成基編『包摂・共生の政治か、排除の政治か——移民・難民と向き合えるヨーロッパ』明石書店、2019 年

（共著）高谷幸福『移民政策とは何か 日本の実現から考える』人文書院、2019 年（『国籍・シティズンシップ』を担当）

"The *nihonjinron* in daily practices: Yoshino's "bottom-up" approach to nationalism," *Nations and Nationalism* 25 (4), 2019.

**【Outline and objectives】**

This class is required for the first year student of the master course. The aim of e class is to guide the students to complete a M.A. thesis as an independent piece of academic work.

SOC600E1 - 1101

## 社会学基礎演習2

鈴木 宗徳

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、社会学コースの修士課程1年生を対象とした必修科目である。ここでは、修士論文の作成・執筆に向けて、研究主題の明確化と、これに伴う方法論の選択に照準化して、研究デザインの構築をめざす。併せて、学術論文作成に必要な文章の書き方を学ぶことも目標とする。

### 【到達目標】

それぞれが執筆する修士論文の「主題」を明確化し、これを具体的に回答可能な「問い」として定式化する。同時に、その研究目的に照らして適切な方法と研究対象（素材・データ）を選択し、先行研究の整理を行う。最終的に、修士論文の序章に相当する文章を作成する。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

はじめに、過去の修士論文の中から数編を選んで、その「序論」を読む。序論として必要な条件とは何かを確認した後、受講生各自の報告を行う。授業計画は概ね以下を予定している（ただし、受講者の人数や授業の展開等により、若干の変更があり得る）。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	演習の狙い	演習の目的と進め方を説明する
第2回	論文の主題と方法 (1)	過去の修士論文に学ぶ(1)
第3回	論文の主題と方法 (2)	過去の修士論文に学ぶ(2)
第4回	論文の主題と方法 (3)	過去の修士論文に学ぶ(3)
第5回	論文の主題と方法 (4)	過去の修士論文に学ぶ(4)
第6回	修士論文の構想報告 (1)	論文構想の報告と検討(1)
第7回	修士論文の構想報告 (2)	論文構想の報告と検討(2)
第8回	修士論文の構想報告 (3)	論文構想の報告と検討(3)
第9回	修士論文の構想報告 (4)	論文構想の報告と検討(4)
第10回	修士論文序章の作成 (1)	論文序章の文章化と検討(1)
第11回	修士論文序章の作成 (2)	論文序章の文章化と検討(2)
第12回	修士論文序章の作成 (3)	論文序章の文章化と検討(3)
第13回	修士論文序章の作成 (4)	論文序章の文章化と検討(4)
第14回	まとめ	レポートの提出と総評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する

### 【参考書】

適宜、授業内で指示する

### 【成績評価の方法と基準】

演習での報告(30%)、議論への参加(30%)、レポート(40%)

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜指示する

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学理論

<研究テーマ>現代における批判的社会理論の課題

<主要研究業績>

『危機に対峙する思考』（共編著、梓出版社、2016）

『個人化するリスクと社会——ベック理論と現代日本』（編著、勁草書房、2015）

『〈私〉をひらく社会学——若者のための社会学入門』（共著、大月書店、2014）

『リスク化する日本社会——ウルリッヒ・ベックとの対話』（共編、岩波書店、2011）

### 【Outline and objectives】

This is a required course for first-year Master's degree students of sociology. This course helps students to design study plan for writing a master thesis.

SOC600E1 - 1102

**社会学基礎演習3**

佐藤 成基

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「社会学基礎演習3」は、社会学コースの修士課程2年生を対象とした必修科目である。ここでは、修士論文における問題の設定、分析の枠組、説明の論理構造の明確にするための支援を行うとともに、学術論文作成に必要な文章の書き方のスキルを学ぶ。

**【到達目標】**

①修士論文の完成をめざし、修士論文における論文の問題設定の仕方、分析のための枠組、仮説の設定、論証方法などを明確にしていく。  
②学術論文のための論理的な文章の書き方をマスターする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

11月に行われる「総合演習」での報告を目安に、自分の論文の問題設定・分析枠組・説明の論法を明確にしていく。また、学術論文のための論文作法について書いたテキスト（下記参照）を全員で講読し、自分の文章の書き方について点検する。受講者は、単に自分の報告をするだけでなく、演習内での討論に参加し、積極的な貢献をすることが求められる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	学術的な文章の書き方について
第2回	修士論文の構想報告（1）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（1）。
第3回	修士論文の構想報告（2）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（2）。
第4回	修士論文の構想報告（3）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（3）。
第5回	修士論文の構想報告（4）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（4）。
第6回	修士論文の構想報告（5）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（5）。
第7回	修士論文の構想報告（6）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（6）。
第8回	修士論文の構想報告（7）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（7）。
第9回	修士論文の構想報告（8）	各自の修士論文の構想を報告し、問題設定・分析枠組・説明方法について全員で点検する（8）。
第10回	学術論文のための文章作法（1）	学術論文に相応しい文章を書くスキルを検討する（1）。
第11回	学術論文のための文章作法（2）	学術論文に相応しい文章を書くスキルを検討する（2）。
第12回	学術論文のための文章作法（3）	学術論文に相応しい文章を書くスキルを検討する（3）。
第13回	学術論文のための文章作法（4）	学術論文に相応しい文章を書くスキルを検討する（4）。
第14回	学術論文のための文章作法（5）	学術論文に相応しい文章を書くスキルを検討する（5）。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

①修士論文のための構想を練る、②テキスト講読、③修士論文の一部を書いてみる。

**【テキスト（教科書）】**

石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）

**【参考書】**

授業内で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

演習での報告（50%）、議論への参加（50%）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>社会学

<研究テーマ>国家とナショナリズムの比較研究、社会学理論、ドイツの移民統合と排外主義

<主要研究業績>

「重国籍に抵抗するドイツ人「国民の自己理解」の観点から」『社会志林』第66巻第4号、2020年

（共編著）宮島喬・佐藤成基編『包摂・共生の政治か、排除の政治か——移民・難民と向き合えるヨーロッパ』明石書店、2019年

（共著）高谷幸福『移民政策とは何か 日本の実現から考える』人文書院、2019年（『国籍・シティズンシップ』を担当）

"The *nihonjinron* in daily practices: Yoshino's "bottom-up" approach to nationalism," *Nations and Nationalism* 25 (4), 2019.

**【Outline and objectives】**

This class is required for the second year student of the master course. The aim of this class is to guide the students to complete a M.A.thesis as an independent academic work,

## 理論社会学2（生活史の社会学）

鈴木 智之

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生活史の社会学」その方法論的基礎を再考する

### 【到達目標】

「生活史の社会学」。社会的諸現象の当事者に出会い、その生活の歴史を聞き取るという方法に基づく社会学的研究は、どのような認識論的基礎の上に可能となるのか。「代表性」や「法則性」、「一般化可能性」を基準として、しばしば「科学的研究」としての正当性に疑義が示される「生活史研究」の可能性と限界を、基本テキストの輪読を通じて検討していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各回の「課題図書」を指示し、その内容の要約の報告をもとに、議論を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	問いの設定	「生活史の社会学」に何ができるか？
第2回	「実証主義」と「解釈主義」	社会学の基本的なパラダイムを再確認する
第3回	「語り（narrative）」という認識形態	J. プルーナー『可能世界の心理』を読む
第4回	生活史の社会学（1）	中野卓『生活史の研究』を読む
第5回	生活史の社会学（2）	桜井厚『ライフストーリー論』を読む
第6回	生活史の社会学（3）	D. ベルトー『ライフストーリー』を読む
第7回	生活史の社会学（4）	岸政彦『同化と他者化』を読む
第8回	生活史の社会学の方法論争（1）	事実と構築、構築と実在
第9回	生活史の社会学の方法論争（2）	個別事例と法則性、代表性
第10回	生活史の社会学の方法論争（3）	社会構造と因果連関
第11回	生活史の社会学 事例の考察（1）	「生活史データ」を読む（1）
第12回	生活史の社会学 事例の考察（2）	「生活史データ」を読む（2）
第13回	生活史の社会学 事例の考察（3）	「生活史データ」を読む（3）
第14回	まとめ	生活史の社会学はいかにして可能になるか

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習とともに、次週の課題図書を読んでくること。  
(各回2時間以上の予習・復習が求められます)

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

そのつと指示する

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の講義への参加。課題図書の要約と報告。討論への参加を総合的に評価する（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

がんばります。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 文化社会学

<研究テーマ> 語りと記憶と文学の社会学

<主要研究業績> 『文学雑誌「ワロニー」における地域主義的企図の生成と展開』2015年度提出博士論文

### 【Outline and objectives】

Aim of this lecture is to reconsider the methodological basis of Sociology of Biography

SOC500E1 - 1203

**理論社会学4（ベーシックインカムの社会理論）**

岡野内 正

**【Outline and objectives】**

A seminar class on Basic Income from the perspective of Critical Social Theory. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

資本主義の社会システムについての古典的な分析であるカール・マルクスの『資本論』の概要をつかむとともに、現代社会分析にとっての理論的意義についても見通しを得ることができるようにする。

**【到達目標】**

カール・マルクスの『資本論』の概要をつかむとともに、現代の批判的社会理論の視点からのベーシックインカム論についても理論的見通しを得る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。>

いわゆる読書会形式で、カール・マルクス著『資本論』を読む。受講生には、テキストの担当部分について、要約と問題提起をしてもらい、議論しながら読み進める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	ベーシックインカム研究の現状と批判的社会理論の課題	授業説明と顔合わせ。年間計画、報告の順番などの決定。
2	商品論	報告と討論：社会的分業について。
3	貨幣論と資本論	報告と討論：物神性について。
4	労働過程論	報告と議論：人間と自然、人間と人間とのかわり。
5	価値増殖過程論	報告と議論：システムによる生活世界の植民地化。
6	絶対的剰余価値論	報告と討論：搾取への欲望。
7	労働日論	報告と討論：生活世界からみたシステムの論理。
8	相対的剰余価値論	報告と討論：生産力と搾取への欲望。
9	労賃論	報告と討論：システムと生活世界の交錯。
10	単純再生産論	報告と討論：歴史への視点。
11	領有法則の転回論	報告と討論：規範理論。
12	蓄積論	報告と討論：資本家による資本家からの奪い取りの論理。
13	本源的蓄積論	報告と議論：歴史的不正義と正義回復論。
14	資本循環論	報告と議論：資本の流れを見る場合の生産、商品、貨幣という視点のちがいとその帰結。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストを読み、報告のための準備をし、担当部分の要約、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）についての報告レジュメを作成する。

**【テキスト（教科書）】**

カール・マルクス『資本論』（数種類の翻訳があり、インターネットからも入手できます。どれでも大丈夫です。ただし、新しい訳のほうが読みやすく、岩波文庫などの古い訳は読みにくいので古本購入の場合は注意のこと）

**【参考書】**

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価 2000 円プラス税）。

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2020年、9 月刊行予定）

ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016年、3000 円プラス税）

ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008 年、定価 777 円）

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の報告内容および議論について 60%および 40%の割合で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

古典的な著作を読む機会がほしいという要望に応じてテキストを選定しました。

**【その他の重要事項】**

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験と観察を踏まえて、教室での討論を展開します。



**理論社会学基礎 1**

徳安 彰

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 19 世紀から 20 世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、大学院で研究を進めるための素養として古典的諸理論を知るとともに、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

**【到達目標】**

この授業の到達目標は、主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念をしり、かつ原典を通して理解できるようになること、さらに「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

授業の開始日は 4 月 22 日（水）とする。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19 世紀から 20 世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	マルクス (1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
4	マルクス (2)	疎外、使用価値と交換価値
5	ヴェーバー (1)	合理化、合理性の諸類型
6	ヴェーバー (2)	資本主義の精神、鉄の檻
7	ヴェーバー (3)	支配の諸類型、官僚制
8	デュルケム (1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
9	デュルケム (2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
10	デュルケム (3)	聖と俗、集合的沸騰
11	ジンメル (1)	社会化の形式、社会圏
12	ジンメル (2)	支配と従属の諸類型
13	ジンメル (3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性
14	まとめ	扱った主要な社会学者の理論の共通の問題意識をふり返る

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

**【参考書】**

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未來社  
ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣

那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣

新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末試験は論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の 2 つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを通して資料を配付する。

**【その他の重要事項】**

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>社会システム理論

<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム

<主要研究業績>学術研究データベースを参照

**【Outline and objectives】**

We study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. We focus especially on the social background of that time to understand the major sociological theories.

SOC500E1 - 1301

**理論社会学基礎2**

徳安 彰

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに20世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、大学院での研究を進めるための基本的素養として、社会学の現代的諸理論を知るとともに、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

**【到達目標】**

この授業の到達目標は、主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念をしり、かつ原典を通して理解できるようになること、さらに「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	Iとme、一般化された他者、役割
4	シュッツ	日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	バーガー／ルックマン	社会的世界の複数か、聖なる天蓋
6	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
7	ゴッフマン	ドラマトウルギー、印象操作
8	パーソンズ	ダブル・コンティンジェンシー、社会進化
9	ルーマン	ダブル・コンティンジェンシー、社会分化
10	ハーバーマス	コミュニケーション的行為
11	ギデンズ	モダニティ
12	フーコー	規律化、主体、生権力
13	ブルデュー	文化資本、再生産
14	まとめ	扱った主要な社会学者の理論の共通の問題意識をふり返る

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学須臾支援システムをとおして配布する。

**【参考書】**

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣

那須壽（編）『クロニクル社会学』 有斐閣

新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣

新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末試験は論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性的の2つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを通して資料を配付する。

**【その他の重要事項】**

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>社会システム理論

<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム

<主要研究業績>学術研究データベースを参照

**【Outline and objectives】**

We study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. We focus especially on the social background of that time to understand the major sociological theories.

## 社会学特殊研究 1 (国際移住の社会学)

田嶋 淳子

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化の中での国際移住に関わる諸問題を考える

### 【到達目標】

国際移住の現状を把握し、その問題について、日本社会あるいは東アジア諸地域を対象に社会調査を実施することが可能となること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義を以下の項目について各3～4回程度で学んでいく。

- ① 国際移住研究の現状と課題
- ② 国際移住研究に関する概念の検討
- ③ 国際移住研究の方法
- ④ 日本における国際移住の現状と課題

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1講	国際移住研究の現在(1)	本講義の進め方と取り上げる文献や資料についての説明。
第2講	国際移住研究の現在(2)	Castles & Miller, 2009 を読み、1990年代までの国際移住研究の現状を学ぶ。
第3講	国際移住研究の現在(3)	Castles らの研究から 2000 年代以降の研究の展開を学ぶ。
第4講	国際移住研究の課題	国際移住研究の現状を踏まえ、その後の理論的展開について、いくつかの論文を参照する。
第5講	国際移住研究における概念の検討(1)	アメリカにおける国際移住研究の中の transnationalism (Smith & Guarnizo, 1998)
第6講	国際移住研究における概念の検討(2)	ヨーロッパにおける国際移住研究の中の transnationalism, (Faist, 2004)
第7講	国際移住研究における概念の検討(3)	Diaspora 概念の検討
第8講	国際移住研究の方法(1)	事例研究1: 日本における中国系移住者(田嶋, 2010)
第9講	国際移住研究の方法(2)	事例研究2: 日本における韓国系移住者(田嶋, 2010)
第10講	国際移住研究の方法(3)	事例研究3: 東アジアにおける中国系移住者(田嶋, 2010)
第11講	日本における国際移住研究の現状(1)	フィールドワーク(実際にフィールドに出て、課題をこなす)
第12講	日本における国際移住研究の現状(2)	これまでに学んだことと、フィールドでの知見をあわせて、各自がレポートを作成し、報告する。
第13講	国際移住研究(調査研究事例)	アメリカにおける中国系移住者研究の現在(Zhou, 2009)
第14講	国際移住研究(調査研究事例)	韓国系移住者研究の現在(高, 2007)

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

次回までに指定された文献の講読と関連論文の講読

### 【テキスト(教科書)】

1. カースルズ, S. & ミラー, M. J. 2011 『国際移民の時代(第4版)』名古屋大学出版会。

1. 田嶋淳子, 2010 『国際移住の社会学』明石書店。その他は講義の中で指示する。

### 【参考書】

1. Castles, S. & M. J. Miller, 2009 *The Age of Migration* (4th edition), Palgrave Macmillan, London.

2. M. P. Smith & L. E. Guarnizo (eds.), 1998, *Transnationalism From Below (Comparative Urban & Community Research Vol. 6)* New Brunswick, New Jersey, Transaction Publishers.

3. T. Faist ed. 2004 *Transnational Social Spaces: Agents, Networks and Institutions*, Aldershot, Ashgate.

4. Zhou, M. 2009 *The Contemporary Chinese American*, Temple University Press.

5. 高全恵星監修・柏崎千佳子訳, 2007 『ディアスポラとしてのコリアン』新幹社。

6. 栗田和明編 2018 『移民と移住』昭和堂。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表(40%)とコメント20%、レポート課題40%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際社会学、移住・エスニシティ研究、東アジア地域研究

<研究テーマ> グローバル化と社会変容、中国系移住者の比較社会学的研究

<主要研究業績>

1. 『国際移住の社会学』明石書店、2010年。
2. 「移住と境界をめぐる一考察—受け入れ社会の比較の視点から—」森千香子・エレン・ルバイ編『国境管理のパラドクス』勁草書房(2014年)
3. 「中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容」栗田和明編 n

### 【Outline and objectives】

Graduate students will study main concepts and perspectives of international migration in the age of globalization.

SOC500E1 - 1206

**社会学特殊研究2（若者問題の現状と課題）**

樋口 明彦

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

1990年代半ば以降、雇用の不安定化は、若者の社会的地位に大きな影響を及ぼすことになった。そのような変化に応じて、日本においても、教育・雇用・社会保障を視野に入れた若者政策の整備が本格的に進展するようになる。本科目では、日本語文献を丹念に読みながら、若者政策の現状と課題を検討する。

**【到達目標】**

日本とヨーロッパにおける若者政策について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教科書から6本のテキストを選び、日本語文献の講読を行う。適宜、テキストに関する補足説明、およびディスカッションを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	若者政策について
2	『就労支援を問い直す』①	第1論文の講読
3	同上②	第1論文についてディスカッション
4	同上③	第2論文の講読
5	同上④	第2論文についてディスカッション
6	『すべての若者が生きられる未来を』①	第1論文の講読
7	同上②	第1論文についてディスカッション
8	同上③	第2論文の講読
9	同上④	第2論文についてディスカッション
10	『危機のなかの若者たち』①	第1論文の講読
11	同上②	第1論文についてディスカッション
12	同上③	第2論文の講読
13	同上④	第2論文についてディスカッション
14	まとめ	若者政策の課題

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編、2014、『就労支援を問い直す』勁草書房。  
宮本みち子編、2015、『すべての若者が生きられる未来を』岩波書店。  
乾彰夫・本田由紀・中村高康編、2017、『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

※授業開始後の指示があるまで、購入しないこと

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

①平常点（50%）

②日本語文献講読の貢献度（50%）

**【学生の意見等からの気づき】**

なし。

**【担当教員の専門分野等】**

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001979/profile.html>

**【Outline and objectives】**

The lecture on youth policy

## 社会学特殊研究2（批判的社会政策論）

堅田 香緒里

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「批判的社会政策論」(Critical Social Policy) と呼ばれる潮流が何を問い直すうとしていたのかを学ぶ。批判的社会政策論は、戦後福祉国家体制が、実際には差異や分断に基づく構造的な不平等の維持・強化に寄与していることを明らかにしてきた。マルクス主義のみならず、フェミニズムやアンチ・レイシズム（反人種差別主義）、エコロジズム、障害学等の批判的視座から、福祉国家体制を改めて問い直していく。

### 【到達目標】

「批判的社会政策論」の基本的な内容を理解すること。また、授業を通して得たさまざまな「批判的視座」を各々の研究においても活かせるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

演習形式で行う（指定されたテキストの輪読と、各自の研究との連結）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明
第2回	批判的社会政策論とは	Critical Social Policy の基本的テキストの紹介と、輪読担当論文の決定
第3回	各自の研究報告(1)	各自の研究内容に関する報告
第4回	各自の研究報告(2)	各自の研究内容に関する相互批評
第5回	入門的テキストの輪読(1)	『社会政策の視点』1～4章
第6回	入門的テキストの輪読(2)	『社会政策の視点』5～8章
第7回	入門的テキストの輪読(3)	『社会政策の視点』9章～12章
第8回	基本的テキストの輪読(1)	『Social Policy』Introduction
第9回	基本的テキストの輪読(2)	『Social Policy』Ch.1
第10回	基本的テキストの輪読(3)	『Social Policy』Ch.2
第11回	基本的テキストの輪読(4)	『Social Policy』Ch.3
第12回	基本的テキストの輪読(5)	『Social Policy』Ch.4
第13回	基本的テキストの輪読(6)	『Social Policy』Ch.5
第14回	受講者のレポート相互批評	レポートの相互批評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習（文献を事前に読む等）・復習時間（授業内で提示された課題に取り組む等）は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

洋一・堅田香緒里・金子充・西村貴直・畑本裕介（2011）『社会政策の視点—現代社会と福祉を考える』法律文化社

Williams, Fiona (1989) "Social Policy: a Critical Introduction" Polity Press, Cambridge.

### 【参考書】

必要に応じて、適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（輪読の報告内容・積極的発言等）50%、期末レポート50%

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会政策、福祉社会学

<研究テーマ> 貧困/対貧困政策/批判的社会政策論

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic theory of "Critical Social Policy".

SOC500E1 - 1207

## 社会学特殊研究3（社会変化／不変化の社会学）

堀川 三郎

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学はその創始から、社会の変化を「A から B へ」「○○化」という図式で記述してきた。例えば「ゲメインシャフトからゲゼルシャフトへ」（テニエス）や「脱呪術化」（ウェーバー）が有名である。こうした図式的理解の根幹は、「変化の把握」である。「変化」を「変動」と言い換えてもよいが、いずれにせよここで重要なことは、こうした把握方法では変化することは当然のことと見なされ、それがどこへ向かうのかその見通しを立てることこそが主要な関心であった、ということだ。

しかし、この授業では変化することを自明視せず、「変化しないこと」へと視野を拡大していこうと思う。換言すれば、社会学の知的伝統に則って「変化をどのようにとらえるか」を検討するのみならず、その変化の仕方や変化の制御過程、さらには「変化しないもの」をも把握しようと試みる。具体的には、いくつかの文献を「変化／不変化」という観点から精読して議論の土台を共有してから、受講者それぞれの研究テーマ・素材を持ち寄り、変化／不変化をいかに語りうるのか、方法的拡張を意識しながら検討を加えていくことにする。人数にもよるが、持ち寄る素材は、受講者の修士論文、博士論文、学会報告、投稿論文などの草稿で構わない。それらの完成・洗練に役立つような授業にしていくつもりである。担当教員の専門から、都市や地域、環境に関心を寄せる院生の参加を期待しているが、それ以外の領域でも受講を歓迎する。自らの論文完成のために、本授業をおおいに「利用」して欲しい。

## 【到達目標】

自らの研究テーマを、「A から B へ」「○○化」という図式で記述し、具体的なデータに基づいて議論を展開できる能力の涵養を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

テキストの講読、院生による研究報告、全員での討論、などで構成する。

授業開始は 4 月 21 日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業への導入
第 2 回	文献講読 [1]	テーマ探究のための文献講読
第 3 回	文献講読 [2]	テーマ探究のための文献講読
第 4 回	文献講読 [3]	テーマ探究のための文献講読
第 5 回	文献講読 [4]	テーマ探究のための文献講読
第 6 回	文献講読 [5]	テーマ探究のための文献講読
第 7 回	文献講読 [6]	テーマ探究のための文献講読
第 8 回	文献講読 [7]	テーマ探究のための文献講読
第 9 回	受講者のテーマ報告および討論 [1]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第 10 回	受講者のテーマ報告および討論 [2]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第 11 回	受講者のテーマ報告および討論 [3]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第 12 回	受講者のテーマ報告および討論 [4]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第 13 回	受講者のテーマ報告および討論 [5]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第 14 回	まとめ	まとめと総括討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

履修者と相談のうえ、決定する。

## 【参考書】

講読文献は、受講者と相談したうえで決定するが、下記は候補文献の一部である。これに縛られず、履修者の関心領域とすり合わせながらフレキシブルに対応する予定である：

- [1] 堀川三郎 (2018) 『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会的分析』東京大学出版会。
- [2] 森久聡 (2016) 『<瀬の浦>の歴史保存とまちづくり：環境と記憶のローカル・ポリテクス』新曜社。
- [3] Page, Max (2016) *Why Preservation Matters* (Why X Matters Series). New Heaven, CT: Yale University Press.
- [4] 水村美苗 (2008) [2015] 『増補 日本語が亡びるとき：英語の世紀の中で』（ちくま文庫み-25-4）筑摩書房。
- [5] 藤田弘夫 (2003) 『都市と文明の比較社会学：環境・リスク・公共性』東京大学出版会。

[6] Holleran, Michael (1998) *Boston's "Changeful Times": Origins of Preservation and Planning in America* (Creating the North American Landscape). Baltimore, MD: Johns Hopkins University Press.

[7] Barthel, Diane (1996) *Historic Preservation: Collective Memory and Historical Identity*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

## 【成績評価の方法と基準】

討論での貢献度で評価する（100 %）。人数によってはレポートを課すが、その場合の成績評価は、討論への貢献 50%、レポート評価 50%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

定期的に院生の意見を聞きながら、運営する。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、都市社会学

<研究テーマ>歴史的環境保存の社会学、日米比較社会論

<主要研究業績>『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会的分析』（東京大学出版会、2018 年）など

## 【Outline and objectives】

Since its founding, sociology has described social change through formulaic expressions such as “from A to B” or in terms of “-cations” and “-zations”. Ferdinand Tönnies’ “from Gemeinschaft to Gesellschaft” and Max Weber’s “Disenchantment (Entzauberung)” are two well-known examples. At the heart of this formulaic understanding is understanding change. The words “change” and “transformation” may be interchangeable, but in any case, what is important here is that this method of understanding considers change as a natural process, and sociology’s major concern was to create insight as to where that change might lead.

In this course, however, we do not accept change as inevitable and will expand our horizons to that of “unchanging”, or not changing. To put it differently, not only do we examine how change should be interpreted in accordance with the intellectual traditions of sociology, but we also attempt to understand the ways in which changes occur, the control processes involved, and finally, what we refer to as “un/change.” Specifically, once we conduct a close reading of the literature from the perspective of un/change for a shared foundation for argumentation, students will bring materials for their research topics to class, where we will investigate how they can be discussed in terms of un/change, ever conscious of methodological expansion during our investigations. While it depends on the number of students, materials for research can be drafts of students’ master’s theses, doctoral dissertations, academic conference presentations, or articles for publishing. This course is intended to help students complete and refine their work. The instructor’s expertise lies in cities, communities, and the environment and expects graduate students with similar interests to join but welcomes students from other areas as well. The instructor wishes that students “use” this class to complete their theses and dissertations.

## 社会学特殊研究3（家族社会学）

菊澤 佐江子

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今年度は、家族をめぐる諸現象に関連する重要な社会的文脈の一つである福祉国家のあり方に着目し、「福祉レジーム」(Esping-Andersen)の視点から、近年の家族をめぐる諸現象と福祉国家のあり方との関連を検討する。

### 【到達目標】

「福祉レジーム」という概念を理解する  
近年の家族をめぐる諸現象と福祉国家のあり方との関連について考察を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明
第2回	講読1	福祉レジームとは
第3回	講読2	テキストの講読（序章）
第4回	講読3	テキストの講読（1章）
第5回	講読4	テキストの講読（2章）
第6回	講読5	テキストの講読（3章）
第7回	講読6	テキストの講読（4章）
第8回	講読7	テキストの講読（5章）
第9回	講読8	関連文献の講読（1）
第10回	講読9	関連文献の講読（2）
第11回	講読10	関連文献の講読（3）
第12回	講読11	関連文献の講読（4）
第13回	講読12	関連文献の講読（5）
第14回	レポート提出	レポート内容の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は毎回必ず、事前に指定された文献を読み、読書メモを作成したうえで参加する。報告者は担当箇所について事前に論点を整理し、レジюмеを準備して報告にのぞむ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

イエスタ・エスピン＝アンデルセン、2011、『平等と効率の福祉革命』（岩波書店）および関連文献

### 【参考書】

適宜指示する

### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとまなない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

初回授業時に、今後の予定を相談するため、履修予定者は、必ず初回授業に参加すること。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>家族社会学、計量社会学

### 【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to understand contemporary family issues and how they are related to welfare regime types.

SOC500E1 - 1208

## 社会学特殊研究 4 (歴史社会学)

鈴木 智道

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

20 世紀後半を代表する思想家ミシェル・フーコーによる権力論の転回とその射程をテーマに、『狂気の歴史』(1961) から『監獄の誕生』(1975)、さらには『知への意志』(1976) へと至るなかで、とくに「規律権力」概念がいかなるかたちで浮上し、転回していったのかを探り、フーコーが「権力とは何か」という問いにいかに向き合おうとしていたのか、彼の思考の道筋と概念的な転変を辿りながら考えていく。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業とする。それにともなう各回の授業計画の変更については、その都度受講生に知らせる。また、本授業の開始日は 4 月 25 日とし、この日に今後の授業方法などを受講生に知らせる。

## 【到達目標】

フーコーの権力論について理解を深め、その理解を自身の研究に生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

今年度は、前期(1960 年代) から中期(1970 年代) への転回点を画す重要な著作である『監獄の誕生』を精読する。またあわせて、現代における監視社会の起源と規律社会の到来を系譜学的に探る 1972-73 年度のコレージュ・ド・フランス講義『処罰社会』を部分的に読む。

受講者には、事前に割り振られた担当部分について、レジメの作成と授業内での報告が求められる。担当者による報告の後、当該内容について参加者全員で議論をしていく。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～ 知-権力という問題系	概要説明・スケジュール確認
第 2 回	第 1 部 身体刑：第 1 章 受刑者の身体	当該箇所の精読と議論
第 3 回	同：第 2 章 身体刑の華々しさ	当該箇所の精読と議論
第 4 回	第 2 部 処罰：第 1 章 一般化される処罰	当該箇所の精読と議論
第 5 回	同：第 2 章 刑罰のおだやかさ	当該箇所の精読と議論
第 6 回	第 3 部 規律・訓練：第 1 章 従順な身体	当該箇所の精読と議論
第 7 回	同：第 2 章 良き訓育の手段	当該箇所の精読と議論
第 8 回	同：第 3 章 一望監視方式	当該箇所の精読と議論
第 9 回	第 4 部 監獄：第 1 章 「完全で厳格な制度」	当該箇所の精読と議論
第 10 回	同：第 2 章 違法行為と非行性	当該箇所の精読と議論
第 11 回	同：第 3 章 監禁的なもの	当該箇所の精読と議論
第 12 回	『処罰社会』第 1 講～第 4 講	当該箇所の概要把握と議論
第 13 回	『処罰社会』第 5 講～第 8 講	当該箇所の概要把握と議論
第 14 回	『処罰社会』第 9 講～第 13 講	当該箇所の概要把握と議論

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

全受講者が、文献の指定箇所をを事前に読了した上で授業にのぞむこと。報告者は、指定文献についての要約とコメント・問題提起をおこなうべく、レジメの準備をすること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

ミシェル・フーコー 『監獄の誕生- 監視と処罰-』新潮社、1975=1977。  
『ミシェル・フーコー講義集成 3・処罰社会：コレージュ・ド・フランス講義 1972-73 年度』筑摩書房、2017。

## 【参考書】

詳細については開講後に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (50%) と報告の水準 (50%) により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 歴史社会学、教育社会学

<研究テーマ> 家族表象の歴史政治学的分析、歴史の物語論

## 【Outline and objectives】

The main aim of this seminar is to read carefully M. Foucault's *Discipline & Punish* (1975) and 1972-73 lectures at the Collège de France, and to discuss how the relationship between power and knowledge was constructed in Western Europe, focusing on the birth of the prison.



## 社会学特殊研究 4 (社会運動としての成人教育運動)

荒井 容子

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

成人教育政策とは一線を画す、成人教育運動は社会運動としての性格をもって各国で発展してきた。とりわけラテンアメリカでは 1970 年代から、識字教育運動を基盤として、教育そのものの本質を問う民衆教育運動が豊かに展開してきた。このラテンアメリカでの民衆教育運動に焦点を当て、社会運動と成人教育運動の関係を考えていく。

## 【到達目標】

成人教育の運動が本質的にもつその社会運動としての性格を、具体的な運動の歴史に即して、考えることができるようになる。特に、ラテンアメリカで展開された成人教育運動としての民衆教育運動を素材として、成人教育運動の本質的特徴を具体的に把握することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講生が交代で、毎回、検討する箇所 (章) についてその内容のまとめ、分析した文書を用意し、発表する。この発表をもとに全員で議論していく。  
※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。授業開始日は 4 月 22 日で、実施方法はすでに学習支援システムの「お知らせ」等で提示済みである。またそれにとまなう各回の授業計画の変更もその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	成人教育運動をどうとらえるか (ガイダンス)	学習運動・成人教育運動と社会運動との関係
第 2 回	ラテンアメリカでの民衆教育運動の概要	第 1 章の検討 1 民衆教育の性格
第 3 回	ラテンアメリカでの民衆教育運動の概要	第 1 章の検討 2 民衆教育運動の実態
第 4 回	パブロ・フレイレの仕事	第 2 章の検討 民衆教育運動を支えるパブロ・フレイレの教育思想
第 5 回	民衆教育運動の手法	第 3 章の検討 参加、批判的思考、対話
第 6 回	ブラジルでの土地なし農民の運動と民衆教育	第 4 章の検討 土地なし農民の運動と民衆教育運動の関係
第 7 回	民衆教育運動とアイデンティティ・ポリテックとの関係	第 5 章の検討 女性運動、先住民の運動と民衆教育運動
第 8 回	民衆教育運動と思想	第 6 章の検討 民衆教育運動をめぐる思想的構造
第 9 回	民衆教育運動の成果 - 学習者にとっての意味	第 7 章の検討 民衆教育運動による人々の変化
第 10 回	民衆教育運動の成果 - 社会変革期における意味	第 8 章の検討 1 ニカラガ革命の中での民衆教育運動
第 11 回	民衆教育運動の成果 - 社会発展にとっての意味	第 8 章の検討 2 政治変動期以外の時期にとっての意味
第 12 回	民衆教育運動の基本 - 再考	第 9 章の検討 1 民衆教育運動が抱える課題
第 13 回	民衆教育運動の基本 - 再考	第 9 章の検討 2 民衆教育運動の新たな展開
第 14 回	ラテンアメリカにおける民衆教育運動の歴史をどうみるか。	まとめ - 総括討議 -

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前にテキストを読み込んでおく。  
報告者になった場合は、関連する資料も探索し、読み込んでおく。  
授業の準備学習・復習時間は受講生の力量によるが、平均すると各準備時間 4、復習 2 時間。

## 【テキスト (教科書)】

Liam Kane, *Popular Education and Social Change in Latin America*, Russel Press, Nottingham in UK, 2001.

## 【参考書】

国際成人教育協議会 (International Council for Adult Education) のホームページ <http://www.icae2.org/>  
ユネスコ生涯学習研究所 (The UNESCO Institute for Lifelong Learning) のホームページ <http://www.uil.unesco.org/>

## 【成績評価の方法と基準】

授業での討議への積極的参加の度合いを 30 %、報告担当時の報告の質 - 該当箇所の理解度、分析の質を 30 %、最終レポート (テーマに関しての理解度と独自の見解の存在及びその質) を 40 % で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

成人教育に関する事前の学習が不足している場合の配慮、対応の必要。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会教育学  
<研究テーマ> 成人教育運動、社会教育法制度、社会教育実践、公民館、社会教育職員  
<主要研究業績> ① 国際成人教育協議会 (ICAE) の課題意識発展の過程 - 成人教育運動の国際的展開に関する研究 (1) -  
『社会志林』(法政大学社会学部紀要) 第 54 巻 第 3 号 (2007 年 12 月) p.55-74  
② 「成人教育運動の国際的連帯 (4)」  
- 第 6 回国際成人教育会の本会議 (ベレン会議) の概要と日本国内の動き -

『月刊社会教育』No.655 2010 年 5 月号, pp.63-69  
③ 「社会教育法と国際的動向」社会教育推進全国協議会『社会教育法 60 年 - 権利としての社会教育を活かす』2010 年 8 月 28 日 pp.66-75  
④ 「『成人教育運動の国際的展開』を追い続けて気づかされたこと」  
教育実践検討会編『問い続けるわれら - 生涯学習人として生きる』第 2 集

「教育実践検討会」発行 2012 年 4 月 1 日 pp.320-346  
⑤ 「第 3 編 - 2 社会教育・生涯学習の国際的動向 (国際機関・欧米)」  
社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』  
第 8 版 エイデル研究所 2011 年 7 月 30 日 pp.202-217  
⑥ 解説 「成人教育の発展に関する勧告」 pp.350-351  
「カナダの成人教育・生涯学習」 pp.78-79  
「国際成人教育協議会」 p.162  
「ユネスコ『大衆の文化的な生活への参加及び寄与を促進する勧告』」

p.596

「ハンブルク宣言」 p.504  
「ユネスコ国際成人教育会議」 pp.595-596  
社会教育・生涯学習辞典編集委員会編『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012 年 11 月 30 日  
⑦ 「第 3 編 - 2 社会教育・生涯学習の国際的動向 (国際機関・組織)」  
社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』  
第 9 版 エイデル研究所 2017 年 10 月 10 日 pp.247-263  
⑧ 「ユネスコ第 6 回国際成人教育会議のための国内『草の根会議』編者  
『日本の社会教育・成人教育 最近 12 年の政策・実践・運動: 分析と

提言

- 第 6 回国際成人教育会議 (CONFINTEA VI) に向けた  
市民社会組織からの報告 - 』(デジタル版) 2009 年 11 月 23 日  
<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yarai/JDGMCON6/CSOsREPfinaljpcore100321.pdf>  
(英語版)  
*Social Education/Adult Education in Japan Policies, Practices and Movements during the last 12 years: Analysis and Recommendations*  
- A Report from Civil Society Organizations to the Sixth International Conference for Adult Education (CONFINTEA VI) - (CSOs report)  
written and edited by Japanese Domestic Grass-roots Meeting for CONFINTEA VI (digital), November 2009  
<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yarai/JDGMCON6/CSOsREPfinalencore100107.pdf>  
)

⑨ 「カナダの成人識字教育者たち

- 困難な中、実践のための研究運動を切り開く -  
『月刊社会教育』No.606 2006 年 4 月号 pp.64-70  
⑩ 「ユネスコ第 6 回国際成人教育会議中間総括会議 (スウォン) と  
コミュニティ・ラーニングセンターをめぐる議論  
- ドイツ成人教育協会国際部主催のサイドイベントに注目して -  
『日本公民館学会年報』第 15 号 2018 年 12 月 10 日 pp.68-74

## 【Outline and objectives】

This course reviews the history of adult education movements, especially from the perspective of the relation between adult education movements and social movements. We especially focus on the popular education movements in Latin America.

SOC500E1 - 1209

## 社会学特殊研究5

多田 光宏

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フェイクニュースやナショナリズム、エコロジー運動などに典型的に見られるような昨今の社会分裂を念頭に、社会システム理論などの文献（日本語および諸外国語）の精読を通じて、社会の創発特性（存在論）と、リアリティの社会的構築（認識論）との、双方の機制を理解することを目指します。さらにこれを通じて、付随的に、知識社会学的な分析視角も学びます。

## 【到達目標】

参加者が、難解で抽象的な社会学理論の文献でも正確かつ粘り強く読みこなせるようになり、それをもって、混迷する現実社会ならびに種々の具体的事象を複眼的・重層的に分析できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

演習形式による文献精読とそれを踏まえたディスカッションで授業を進めます。参加者全員でいっしょに指定の文献を読みますが、必要に応じて、参加者が各人の具体的関心にもとづいて授業内で発表をおこなってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期集中

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の趣旨や進め方などを説明します。
第2回	社会システムの創発特性の機制1	テキスト①の購読
第3回	社会システムの創発特性の機制2	テキスト①の購読
第4回	社会システムの創発特性の機制3	テキスト①の購読
第5回	リアリティの社会的構築の機制1	テキスト②の購読
第6回	リアリティの社会的構築の機制2	テキスト②の購読
第7回	リアリティの社会的構築の機制3	テキスト②の購読
第8回	リアリティの社会的構築の機制4	テキスト②の購読
第9回	リアリティの社会的構築の機制5	テキスト②の購読
第10回	社会的リアリティの分裂の機制1	テキスト③の購読
第11回	社会的リアリティの分裂の機制2	テキスト③の購読
第12回	社会的リアリティの分裂の機制3	テキスト③の購読
第13回	社会的リアリティの分裂の機制4	テキスト④の購読
第14回	総括討論	本授業で学んだ理論的知見を踏まえて各自の研究テーマを分析し、現代社会の構成と現状についての討論をおこないます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

なおとくにテキスト①については、初回授業までに各自で丁寧に読み通しておいてください（比較的平易かつ短い論文です。ドイツ語オリジナル版が英訳版かは各自で好きなほうを選んで構いません。授業時には外国語辞書も持参のこと）。

## 【テキスト（教科書）】

以下のテキストを予定します。各自で事前に入手して授業に持参してください（①については上の「授業時間外の学習」も参照してください）。

① Luhmann, Niklas, [1987] 1995, "Was ist Kommunikation?" *Soziologische Aufklärung Bd.6: Die Soziologie und der Mensch*, Opladen: Westdeutscher Verlag 1995, 113-124. (=1992, "What is Communication?" *Communication Theory*, 2(3): 251-259.)

②ニクラス・ルーマン『エコロジーのコミュニケーション——現代社会はエコロジーの危機に対応できるのか』新泉社（庄司信訳 2007年）。

③アルフレッド・シュッツ「平等と社会的世界の意味構造」『アルフレッド・シュッツ著作集 第3巻 社会理論の研究』マルジュ社（渡部光・那須壽・西原和久訳 1991年）、305-364頁。

④ジグムント・バウマン「移動する私たちの分断—健やかなるときも病めるときもつねとともに」『グローバリゼーション——人間への影響』法政大学出版局（澤田真治・中井愛子訳 2010年）、119-144頁。

## 【参考書】

1) 多田光宏, 2013, 『社会的世界の時間構成——社会学的現象学としての社会システム理論』ハーベスト社。

2) 多田光宏, 2016, 「リスク社会（U.ベック）」西村大志・松浦雄介編『映画は社会学する』法律文化社、231-242頁。

3) Tada, Mitsuhiro, [2018] 2019, "Time as Sociology's Basic Concept: A Perspective from Alfred Schutz's Phenomenological Sociology and Niklas Luhmann's Social Systems Theory," *Time & Society*, 28(3): 995 - 1012.

4) ニクラス・ルーマン『プロテスト——システム理論と社会運動』新泉社（徳安彰訳 2013年）。

5) エリック・ホブズボーム『20世紀の歴史——両極端の時代（上・下）』筑摩書房（大井由紀訳 2018年）。

ほか、適宜教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での発表、訳読とその予習復習の程度、ならびに討論への参加度などを総合して評価します（100%）。欠席が3回を超えた場合や、担当の発表などをおこなわなかった場合は、原則として単位は認定しません。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目（集中講義）につきアンケートを実施していません。

## 【その他の重要事項】

あらかじめ社会学の基礎知識を習得していることが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

社会学

## 【研究テーマ】

社会学理論、現代社会論、ナショナリズム問題、知識社会学、社会学史

## 【主要研究業績①】

多田光宏, 2020, 「無知の無知を超えて——社会学から見た国民国家と教育」(forth coming).

## 【主要研究業績②】

Tada, Mitsuhiro, 2018, "Language, Ethnicity, and the Nation-State: On Max Weber's Conception of 'Imagined Linguistic Community,'" *Theory and Society*, 47(4): 437-466.

## 【主要研究業績③】

多田光宏, 2016, 「東日本大震災と福島第一原発事故から遠く離れて——『自主避難者』に関する熊本大学文学部での社会調査実習」『社会と調査』一般社団法人社会調査協会、17: 97-103.

## 【Outline and objectives】

In this course, participants aim to improve their level of understanding about the emergent property of society and the social construction of reality through in-depth class-reading of sociological-theoretical works (e.g., social systems theory and sociology of knowledge). In this way, they will acquire the ability to adequately analyze today's social discrepancies, which are typically seen in social phenomena like fake news, nationalism, or the ecology movement.

## 社会学特殊研究6

飯田 豊

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「新しい〇〇が△△を変える」という言い回しが、世の中には色々ある。たとえば、ビッグデータが経済を変える、AI が仕事を変える、デジタル教科書が教育を変えるなど、特にデジタルメディアに関する事例は枚挙にいとまがない。だが、何か「新しいメディア」に興味があったとして、それを深く知ろうと思えば、既にある（＝相対的に古い）メディアの技術特性と比べながら考えざるをえない。したがって、メディアについて理解するうえで、技術史の思考法はきわめて有用である。電話やラジオ、テレビが日常生活と不可分に結びついた 20 世紀を経て、インターネットやスマートフォンが普及した現在、メディアと人間、あるいは技術と社会の関係はどのように変わってきたのだろうか。この授業では、われわれの日常に根ざしたさまざまなメディア技術の成り立ちに目を向け、その将来までを展望する。

## 【到達目標】

- ①近代社会におけるメディア・コミュニケーションの発展が、どのようにして技術的に実現されてきたのかを理解し、それを適切に説明できるようになる。
- ②「メディア」と「技術」の相互関係に対する理解を深め、それを適切に説明できるようになる。
- ③メディアの技術変容と不可分に関わりながら発展してきたメディア論、情報社会論の基礎的な思考法を理解し、それを適切に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

テキスト（教科書）に即して、下記のスケジュールにもとづいて講義をおこなうが、受講者によるスモールグループディスカッションや口頭発表を取り入れ、議論を深めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

## 春学期集中

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	メディア技術史とは何か
第 2 回	技術としての書物	紙の本 VS 電子本への古くて新しい回答
第 3 回	写真はどこにあるのか	イメージを複製するテクノロジー
第 4 回	映画の歴史を巻き戻す	現代のスクリーンから映像の幼年時代へ
第 5 回	音楽にとっての音響技術	歌声の主はどこにいるのか
第 6 回	声を伝える / 技術を楽しむ (1)	電話のメディア史
第 7 回	声を伝える / 技術を楽しむ (2)	ラジオのメディア史
第 8 回	テレビジョンの初期衝動 (1)	「遠く (tele) を視ること (vision)」の技術史 戦前・戦中期
第 9 回	テレビジョンの初期衝動 (2)	「遠く (tele) を視ること (vision)」の技術史 戦後期
第 10 回	ローカルメディアの技術変容 (1)	初期ケーブルテレビの考古学
第 11 回	ローカルメディアの技術変容 (2)	「ポストメディア」の考古学
第 12 回	文化としてのコンピューター	その「柔軟性」はどこからきたのか
第 13 回	開かれたネットワーク	インターネットをつくったのは誰か
第 14 回	誰のための技術史？	アマチュアリズムの行方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。テキスト（教科書）を事前に読んでおくこと。各自の関心に応じて、参考書に目を通しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

飯田豊編著『メディア技術史：デジタル社会の系譜と行方 [改訂版]』北樹出版、2017 年、2090 円

## 【参考書】

エルキ・フータモ『メディア考古学：過去・現在・未来の対話のために』太田純貴訳、NTT 出版、2015 年  
 キャロリン・マーヴイン『古いメディアが新しくなった時：19 世紀末社会と電気テクノロジー』新曜社、2003 年  
 佐藤俊樹『社会は情報化の夢を見る：[新世紀版] ノイマンの夢・近代の欲望』河出文庫、2010 年  
 佐藤卓己『現代メディア史 新版』岩波書店、2018 年

## 【成績評価の方法と基準】

レポートに加え、授業に対する参加の度合を考慮し、総合的に判断する。具体的な評価の配分は、レポート (50%)、授業に対する参加の度合い (50%) とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内でのディスカッションと授業後のコミュニケーション・ペーパーを通して、受講者の意見・問題関心を把握する。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア論、メディア技術史、文化社会学

<研究テーマ>

メディアの技術的な成り立ちを踏まえて、これからのあり方を構想することに関心があり、歴史的な分析と実践的な活動の両方に取り組んでいます。

<主要研究業績>

飯田豊『テレビが見世物だったころ：初期テレビジョンの考古学』青弓社、2016 年

飯田豊『メディア論の地層：1970 大阪万博から 2020 東京五輪まで』勁草書房、2020 年

飯田豊・立石祥子編著『現代メディア・イベント論：パブリック・ビューイングからゲーム実況まで』勁草書房、2017 年

水越伸・飯田豊・劉雪雁『メディア論』放送大学教育振興会、2018 年

高野光平・加島卓・飯田豊編著『現代文化への社会学：90 年代と「いま」を比較する』北樹出版、2018 年

神野由紀・辻泉・飯田豊編著『趣味とジェンダー：〈手づくり〉と〈自作〉の近代』青弓社、2019 年

## 【Outline and objectives】

If you are interested in a “new media” and want to learn more about it, you will have to compare it to the technical characteristics of the old media. How has the relationship between media and humans, or technology and society, changed? In this class, we will look at the formation of various media technologies that are rooted in our daily lives, and look into the future.

SOC500E1 - 1302

**統計分析法**

齋藤 友里子

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

分析結果（解釈ではない）は統計ソフトの扱い方を憶えれば「一応だせる」。ただし、分析手法や統計学に関する知識が欠如していれば、堂々と嘘をつくことになりかねない。また、データに基づき主張するには、実質的なテーマをどのように統計解析に落とし込むかが肝要となる。この授業では、モデルの基礎を数学的に学びつつ、実際にデータを用いて分析する。これにより、社会学的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。「発見すること」「理論を確かめること」と分析の関連——計量研究における分析視角がもつ重要性についても理解を深めたい。

**【到達目標】**

数理統計学の基礎をふまえながら、主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

多変量解析の基礎に関する講義と SPSS を用いた実習により、理解を深める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション-社会学と多変量解析	社会学と多変量解析
第 2 回	散らばりの指標と推測統計の基礎知識	散らばりの指標に関する学習を通して統計学の表記法に慣れるとともに推測統計の考え方について概説する
第 3 回	線形代数の基礎知識	線形代数の基礎について概説する
第 4 回	多変量データとベクトル・行列	多変量データと線形代数の関係について論じる
第 5 回	説明変数・目的変数と二変量重回帰モデル	二変量重回帰モデルの考え方について解説する
第 6 回	重回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線形代数を用い解説する
第 7 回	重回帰分析の導入	重回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第 8 回	最小二乗推定と多重共線性	重回帰モデルの推定方法の 1 つである OLS と、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第 9 回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第 10 回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第 11 回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第 12 回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第 13 回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第 14 回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

第 1 回～第 4 回 線形代数と統計学に基礎的な表記の予習・復習

第 5 回～第 14 回 教材の復習と出された実習課題の遂行。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。教材を配布するほか、授業中に適宜指示する。

**【参考書】**

ボンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990; ウォナコット & ウォナコット『統計学序説』培風館、1981; 他授業中に適宜指示。

**【成績評価の方法と基準】**

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用して執筆されたレポートにより評価する（100%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 数理社会学・理論社会学・社会意識論

<研究テーマ> 共同性とフェアネスの関係、ジャスティスの社会学、公平評価の数理モデル。

<主要研究業績>

2011『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』（齋藤友里子・三隅一人編）東京大学出版会。

2011『「新自由主義の受容」は何により促されたか—市場化と価値意識』齋藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』東京大学出版会。

2011『不公平感の構造—格差拡大と階層性』齋藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』東京大学出版会（大槻茂実との共著）。

**【Outline and objectives】**

You can get some "output" of a statistical application software once you learn how to use it. However, if you have no knowledge of statistical theory or method per se, there is quite a possibility that you end up lying about what you have found through the analysis. If you do not want this, you need to know how to fit your research question into the framework of statistical analysis. This course will offer an opportunity to learn how to pursue your research question, quantitatively.

## 調査研究法

## 中筋 直哉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学および政策科学の研究の実際場面で社会調査を活用するには、研究の目的および研究に適用する社会理論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを分析することが欠かせない。この科目では、社会学の調査研究の古典を複数講読することを通して、それら各々のユニークな問題関心とそこから導き出された独特の調査設計・データ分析法を学び、さらに履修者各自の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析法を構想し、相互討論を通して洗練することを試みる。

## 【到達目標】

受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づく修士論文の執筆計画を立案できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義と履修者による発表および討論。各回 2 時限の連続講義で、第 8 回のみ試験 1 時限。オンライン授業の第 1 回は 4 月 22 日（水）6 限の時間通りです。詳細は学習支援システムに仮登録し、「お知らせ」で確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期前半

回	テーマ	内容
1	総論 1	社会学・政策科学と社会調査
2	総論 2	社会調査の諸類型
3	総論 3	社会調査の倫理と真正性
4	フィールドワークの光と影 1	B. マリノフスキ『西太平洋の遠洋航海者』をめぐって 1
5	フィールドワークの光と影 2	同上 2
6	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる 1	A. クラインマン『八つの人生の物語』をめぐって 1
7	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる 2	同上 2
8	テキストデータの分解・再構築 1	小林直毅編『「水俣」の言説と表象』をめぐって 1
9	テキストデータの分解・再構築 2	同上 2
10	社会関係を計量する 1	C. フィッシャー『友人のあいだで暮らす』をめぐって 1
11	社会関係を計量する 2	同上 2
12	政策科学に貢献する社会調査 1	辻中豊ほか『現代日本の自治会・町内会』をめぐって 1
13	政策科学に貢献する社会調査 2	同上 2
14	総括的討論	各自の問題関心に基づく調査デザインの発表と相互討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自テキスト以外の関連文献を収集し、比較検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

上記授業計画の「内容」に記載

## 【参考書】

毎回ごとに授業中に指示

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 30 %、報告の内容評価 30 %、筆記試験 40 %。よく考えられた報告を行うことと、筆記試験において修士論文に相応しい調査計画を立案できていることが A の条件。オンライン授業の場合も従来の評価基準に沿って評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

入手しやすい、近年の文献を取り上げる

## 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉地域社会学  
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析  
〈主要研究業績〉『よくわかる都市社会学』（2013、ミネルヴァ書房）、『群衆の居場所』（2005、新曜社）

## 【Outline and objectives】

This lecture aims to study various relations sociological theory and method by reading and discussing classics of sociology.

SOC500E1 - 1305

## 質的資料分析法

田嶋 淳子

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査法の基本的理解と、その実践力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得るよう試みる。

### 【到達目標】

さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送、音楽などの質的データの分析法（内容分析等）を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義は6月17日より講義を開始します。詳細は学習支援システムのお知らせを参照してください。質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説する。その上で、受講生のデータ（あるいは自身の関心がある領域の質的資料を任意に選んでもらう）を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験させる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	質的調査とは何か	量的調査との違い／調査倫理の問題
第2回	質的調査法の歴史と到達点1	インタビュー／参与観察／ドキュメント分析／観察
第3回	質的調査法の歴史と到達点2	エスノグラフィー／ライフヒストリー／GTA／会話分析
第4回	実践的課題1（資料を集める）	質問とは何か／ラポールをめぐる論争／調査者の立ち位置
第5回	実践的課題2（資料を分析する）	記録をつくる／テーマをたてる／データの特性を整理する
第6回	実践的課題3（資料を記述する）	書くとはどういうことか／調査倫理ふたたび
第7回	ワークショップ1	データ・質的資料の持ち寄り
第8回	ワークショップ2	最初の感想とそこから見えるもの
第9回	ワークショップ3	どう記録をつくるのか
第10回	ワークショップ4	テーマをたてる
第11回	ワークショップ5	データの特性を理解する
第12回	ワークショップ6	改めてテーマをたてる
第13回	ワークショップ7	ふたたびデータの特性を考える
第14回	総合討論	質的調査法の意義

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を授業支援システムにアップします。

### 【参考書】

1. 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 2016『質的社会調査の方法』有斐閣

### 【成績評価の方法と基準】

討議への参加（40%）、演習課題への取り組み（60%）

### 【学生の意見等からの気づき】

非該当

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学

<研究テーマ>中国系移住者コミュニティの比較社会学的研究、移住第2世代問題

<主要研究業績> 2010『国際移住の社会学－東アジアのグローバル化を考える』明石書店、2019「イタリアにおける中国系ニューカマーズの定着とコミュニティ形成過程」『華僑華人研究』第16号、20 - 39ページ。「中国系ニューカマーズと地域社会における受容過程」

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative survey.

SOC600E1 - 2100

## メディア社会学基礎演習 1

藤田 真文

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回授業は4月25日（土）3限からオンライン授業を開始します。メディアコースでの研究プロセスの理解とメディア研究法の基礎の習得

## 【到達目標】

メディアコースに入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

M1 春学期は、それぞれの院生が研究計画を設定し、スムーズに大学院生活をスタートできるように指導していく。また同時開講の「メディア社会学基礎演習3」を受講するM2以上の院生に先輩としてのコメントをもらうなど、メディアコースのアカデミック・コミュニティ形成の場ともしたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	春学期の大学院プログラム	メディアコースの春学期進行への理解を深める
第2回	社会科学の認識論	社会科学の認識論を理解する（テキスト第1章）
第3回	M2以上の院生の研究テーマを学ぶ（第1回）	先輩院生の研究テーマを参考にする
第4回	M2以上の院生の研究テーマを学ぶ（第2回）	先輩院生の研究テーマを参考にする
第5回	マス・コミュニケーション調査法の基礎① 事例研究／研究テーマ設定のための基礎調査	事例研究の方法論を学ぶ（テキスト第2章）／研究テーマ設定の方法を学ぶ
第6回	M2院生の研究テーマ報告（総合演習）	先輩院生の報告を聴講する
第7回	M1院生の基礎調査報告（第1回）	テーマ設定のための基礎調査を報告する
第8回	M1院生の基礎調査報告（第2回）	テーマ設定のための基礎調査を報告する
第9回	マス・コミュニケーション調査法の基礎② インタビュー	インタビューの方法論を学ぶ（テキスト第5章）
第10回	マス・コミュニケーション調査法の基礎③ エスノグラフィー／参与観察	エスノグラフィー／参与観察の方法論を学ぶ（テキスト第6章）
第11回	M1院生の研究テーマ報告（総合演習）	研究計画書の報告を行う
第12回	マス・コミュニケーション調査法の基礎④ 調査票調査	調査票調査の方法論を学ぶ（テキスト第7章）
第13回	マス・コミュニケーション調査法の基礎⑤ 言説分析	言説分析の方法論を学ぶ（テキスト第8章）

第14回 研究テーマ／研究法の再設定 夏季休暇・秋学期に向けて研究課題を再設定する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回終わりに次週までに読んでくるべきテキストの章を指定するので、必ず熟読すること。

## 【テキスト（教科書）】

野村康（2017）『社会科学の考え方 認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会、3,600円+税

## 【参考書】

講義時に随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

①計3回の演習内での報告＝「研究テーマ設定のための基礎調査」「研究テーマ報告（総合演習）」「夏季休暇・秋学期に向けての研究課題」（70%）②マス・コミュニケーション調査法の基礎（30%）の達成度によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

少人数授業につき該当なし。

## 【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、マス・コミュニケーション理論に関する講義に知見を活かしている。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>マス・コミュニケーション論 コミュニケーション論

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of media research.

SOC600E1 - 2101

## メディア社会学基礎演習Ⅱ

小林 直毅

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアコースに入学した大学院生として求められる、メディア研究の基礎となる理論と方法を学ぶ。けっしてメディアの世界だけに内向きに狭く閉じこもった問題構成を図ることなく、社会的現象や社会的課題を学術的考察していくために、人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディアの可能性と課題を広範、かつ系統的に解明することのできる研究資質の形成を図る。

## 【到達目標】

メディア研究が、どのように問題構成を図り、研究目標を設定し、どのような研究成果を、どのようにして学術論文としてまとめていくべきかを理解し、実践していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

メディア研究の基礎として不可欠な理論と方法、その実践的可能性を論じたテキストを、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、毎回、報告とディスカッションを重ねていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第2回	研究テーマと問題構成	夏季休暇中の研究成果に即した、分担報告の決定。
第3回	メディア研究とは何か（1）	テキスト 19～78 頁の分担報告。
第4回	メディア研究とは何か（2）	テキスト 19～78 頁の分担報告。
第5回	理論と方法（1）	テキスト 79～130 頁「テキストの要求と分析の戦略」の分担報告。
第6回	理論と方法（2）	テキスト 79～130 頁「テキストの要求と分析の戦略」の分担報告。
第7回	問題構成の視点（1）	テキスト 131～189 頁「経験の諸次元」の分担報告。
第8回	問題構成の視点（2）	テキスト 131～189 頁「経験の諸次元」の分担報告。
第9回	中間総括	これまでの報告と議論を振り返って、全員でディスカッション。
第10回	実践的課題（1）	テキスト 191～246 頁「行為と経験のロケーション」の分担報告。
第11回	実践的課題（2）	テキスト 191～246 頁「行為と経験のロケーション」の分担報告。
第12回	メディア研究の課題（1）	テキスト 247～327 頁「意味の構成」の分担報告。
第13回	メディア研究の課題（2）	テキスト 247～327 頁「意味の構成」の分担報告。
第14回	総括討論	メディア研究としての各自の論文構想について議論する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

ロジャー・シルバーストーン（吉見俊哉、伊藤守、土橋臣吾訳）『なぜメディア研究か——経験・テキスト・他者——』せりか書房。

## 【参考書】

伊藤守編著（2009）『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房。  
他の参考文献等は、授業を進める過程で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

分担報告、ディスカッション（70%）、「中間総括」、「総括討論」における論文執筆へ向けての発表（30%）の達成度で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003年）

『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004年）

『水俣学講義【第2集】』（共著、日本評論社、2005年）

『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006年）

『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007年）

『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007年）

『ポピュラーTV』（共著、風塵社、2009年）

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育

への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012年）

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013年）

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014年）

『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018年）

## 【Outline and objectives】

Graduate students will be able to study theories and methods as thought of media studies.



SOC600E1 - 2102

## メディア社会学基礎演習3

藤田 真文

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回授業は4月25日（土）3限からオンライン授業を開始します。メディアコースでの研究プロセスの理解とマス・コミュニケーション論の基礎理論の習得

## 【到達目標】

M2の院生として、どのように研究目標を設定や研究方法を確定することができるか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

M2春学期は、それぞれの院生がM1で設定した研究テーマや研究方法が計画通り進行しているかを反省できるように指導していく。また同時開講の「メディア社会学基礎演習1」を受講するM1の院生に先輩としてのコメントするなど、メディアコースのアカデミック・コミュニティ形成の場ともしたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	春学期の大学院プログラムの	メディアコースの春学期進行への理解を深める
第2回	マス・コミュニケーション調査法の基礎①	社会科学の認識論を理解する（テキスト第1章）
第3回	M2以上の院生の研究テーマ報告（第1回）	後輩院生を前に自らの研究テーマを報告する
第4回	M2以上の院生の研究テーマ報告（第2回）	後輩院生を前に自らの研究テーマを報告する
第5回	マス・コミュニケーション調査法の基礎② 事例研究	事例研究の方法論を学ぶ（テキスト第2章）
第6回	M2院生の研究テーマ報告（総合演習）	研究報告用レジメを準備し報告する
第7回	M1院生の基礎調査報告（第1回）	後輩院生の報告にアドバイスする
第8回	M1院生の基礎調査報告（第2回）	後輩院生の報告にアドバイスする
第9回	マス・コミュニケーション調査法の基礎③ インタビュー	インタビューの方法論を学ぶ（テキスト第5章）
第10回	マス・コミュニケーション調査法の基礎④ エスノグラフィー／参与観察	エスノグラフィー／参与観察の方法論を学ぶ（テキスト第6章）
第11回	M1院生の研究テーマ報告（総合演習）	後輩院生の報告にアドバイスする
第12回	マス・コミュニケーション調査法の基礎⑤ 調査票調査	調査票調査の方法論を学ぶ（テキスト第7章）
第13回	マス・コミュニケーション調査法の基礎⑥ 言説分析	言説分析の方法論を学ぶ（テキスト第8章）

第14回 研究テーマ/研究方法の再設定 夏季休暇・秋学期に向けて研究課題を再設定する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回終わりに次週までに読んでくるべきテキストの章を指定するので、必ず熟読すること。

## 【テキスト（教科書）】

野村康(2017)『社会科学の考え方 認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会、3,600円+税

## 【参考書】

講義時に随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

①計3回の演習内での報告＝「研究テーマ報告」「研究テーマ報告（総合演習）」「夏季休暇・秋学期に向けての研究課題再設定」（70%）  
②マス・コミュニケーション調査法基礎の報告（30%）の達成度によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき該当なし。

## 【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、マス・コミュニケーション理論に関する講義に知見を活かしている。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>マス・コミュニケーション論 コミュニケーション論

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of media research.

SOC500E1 - 2200

**メディア理論1（メディアの歴史と思想）**

小林 直毅

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

近現代史上の重要な出来事の実験とその記録と記憶をめぐる身体の技術的、制度的な変容を、さまざまなメディアの歴史と思想として考察する。

**【到達目標】**

当面する諸現象、諸課題を、仮構的な「メディアの世界」だけに内向きに狭く閉じ込めて自己完結する「メディア研究」からの脱却を目指して、「人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディア」の歴史と思想を問い直すメディア研究の可能性と課題を考察することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

テッサ・モリス＝スズキ『過去は死なない——メディア・記憶・歴史』をテキストとして、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、報告とディスカッションを重ねていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第2回	この授業の問題構成	参加者の研究テーマに即した分担報告の決定。
第3回	過去は死なない（1）	テキストの第1章前半の分担報告。
第4回	過去は死なない（2）	テキストの第1章後半の分担報告。
第5回	想像しがたい過去（1）	テキストの第2章前半の「歴史小説」をめぐる考察を分担報告。
第6回	想像しがたい過去（2）	テキストの第2章前半の「歴史小説」をめぐる考察を分担報告。
第7回	レンズに映る影（1）	テキストの第3章前半の「写真と記憶」をめぐる考察を分担報告。
第8回	レンズに映る影（2）	テキストの第3章後半の「写真と記憶」をめぐる考察を分担報告。
第9回	活動写真（1）	テキストの第4章前半の「歴史の映画化」をめぐる考察を分担報告。
第10回	活動写真（2）	テキストの第4章後半の「歴史の映画化」をめぐる考察を分担報告。
第11回	視角（1）	テキストの第5章前半の「漫画の歴史表象」をめぐる考察の分担報告。
第12回	視角（2）	テキストの第5章後半の「漫画の歴史表象」をめぐる考察の分担報告。
第13回	ランダム・アクセス・メモリー	テキストの第6章の「多メディア時代の歴史」をめぐる考察の分担報告。
第14回	"歴史への真摯さ"の政治 経済学に向かって	テキスト第7章の分担報告と総括討論。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テッサ・モリス＝スズキ（田代泰子訳）『過去は死なない——メディア・記憶・歴史——』岩波現代文庫。

**【参考書】**

「参考文献リスト」を配布する。

**【成績評価の方法と基準】**

分担報告と討論における達成度で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【学生が準備すべき機器他】**

とくになし。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003年）

『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004年）

『水俣学講義【第2集】』（共著、日本評論社、2005年）

『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006年）

『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007年）

『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007年）

『ポピュラーTV』（共著、風塵社、2009年）

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012年）

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013年）

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014年）

『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018年）

**【Outline and objectives】**

Graduate students will be able to study the history and thought of media as technology and institution.

## メディア理論3 (ジャーナリズム思想史)

別府 三奈子

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ジャーナリズムを規定しているプロフェッション論と言論の自由の概念について、古今東西の事例を通して観察する。

### 【到達目標】

民主社会におけるジャーナリズムの存在意義を深く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

古今東西のジャーナリズムの行為を観察する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ジャーナリズムの定義
第2回	被爆者を記録する	事例：ナガサキ
第3回	技術の意味	カメラがもたらした変革
第4回	紛争の地を記録する	事例：コンボ
第5回	弾圧の地を記録する	事例：光州事件
第6回	課題発表1	記録することに意味に関する討議
第7回	言論の自由1	誕生の背景：宗教革命
第8回	言論の自由2	法律化の過程：市民革命・独立戦争
第9回	タブーと記録者	事例：聖職者
第10回	情報操作と記録者	事例：開戦
第11回	弾圧と記録者	事例：軍事政権
第12回	課題発表	記録しないことについての討議
第13回	法と倫理	言論の自由と民主社会
第14回	社会的記憶の継承	知る権利と情報公開法

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱う事例の事前リサーチ、授業課題への取り組みに数時間を要する。

### 【テキスト (教科書)】

『レクチャー 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育研究所編、早稲田大学出版部、2013年

### 【参考書】

『調査報道ジャーナリズムの挑戦—市民社会と国際支援戦略』花田達郎、別府三奈子、大塚一美、デビッド・カプラン著、旬報社、2017年。『エンサイクロペディア 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育研究所編、早稲田大学出版部、2013年

### 【成績評価の方法と基準】

授業内での課題2回の討議 50%・期末レポート 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

出身国によるジャーナリズム観の由来に対する自覚を促す。

### 【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

### 【その他の重要事項】

日々のニュース接触

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>米国ジャーナリズム思想史

<研究テーマ>写真ジャーナリズム史

<主要研究業績>『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006年。『アジアでどんな戦争があったのか 戦跡を辿る旅』めこん、2006年。

### 【Outline and objectives】

We observe the concepts of profession theory and freedom of speech, which govern journalism, through the cases of in east and west.

SOC500E1 - 2203

## メディア理論4（メディア・コミュニケーションの諸相～現状と今後～）

北原 利行

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マスメディア（新聞、放送、出版、映画など）やインターネットにおけるコミュニケーション上のさまざまな事象を、発信者側であるメディア企業、受信者側である消費者（オーディエンス）を対比させながら分析する。メディア、コミュニケーションについては、情報であるコンテンツに注目が行きがちだが、それを支えるビジネス構造的な視点が欠かせない。それを踏まえてメディアやコミュニケーションのあり方について考察し、現代社会におけるそれらの上で起きているさまざまなコミュニケーション上の諸問題への解決の方策について論じる。特にマスメディアとソーシャルメディアの関係について双方の立場から論じることができるクリティカルな視点を獲得を目指す。

### 【到達目標】

メディア、コミュニケーションについての基礎的な理論の習得、消費者・生活者の情報摂取行動についての基礎的な知識の習得を最初に講義形式で行う。その上でマスメディア、インターネット上でのコミュニケーションなどの現状におけるさまざまな諸問題についての分析力および課題解決のための論理的構築できるスキルを習得する。また、プレゼンテーションスキルの向上も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義については、レジュメを配布し、内容に沿って説明し、受講者に対して問題提起し、リアクションについての議論を行うことで、インタラクティブな形式で進行させる。受講者の問題意識をもとに、課題解決のための演習形式を取り入れて、受講者との間でのディスカッションを行い、課題解決のための思考を深めスキルの向上を図る。リアクションペーパーも随時活用して状況を把握する。授業内容については、受講者の関心領域などに対して柔軟に対応するので、下記の授業計画からの変更の可能性もある。必要に応じて文献購読・小レポートなどの課題も検討する。アクティブラーニングに関しては、途中に設ける予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講者の問題関心の確認 メディア、コミュニケーションについての基礎理論
第2回	メディア論①	メディア論の基礎
第3回	メディア論②	メディア論をもとにマスメディアについての解析
第4回	コミュニケーション論①	コミュニケーション論の基礎
第5回	コミュニケーション論②	インターネットを中心としたコミュニケーションの解析
第6回	新聞	新聞産業の構造、新聞の受容、ジャーナリズムなどの諸問題について
第7回	テレビ	テレビ産業の構造、テレビの受容、視聴率などの諸問題について
第8回	出版	出版産業の構造、書籍・雑誌の受容、電子出版などの諸問題について
第9回	映画・アニメ、その他	映画産業、アニメ産業の構造、その受容、その他メディアなどの諸問題について
第10回	インターネット	インターネットの構造、消費者の情報摂取行動
第11回	ソーシャルネット	ソーシャルネットの現状、他メディアとの関係性などについて
第12回	まとめ	まとめ
第13回		
第14回		

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に、新聞やテレビなどの多くのメディアに幅広く意識的に接触すること。インターネット上のサービス、ソーシャルネット等についても積極的に把握する。

講義内容に沿って生じた疑問などを参考書などを中心に予習・復習する。日常より問題意識を持って、メディア、コミュニケーション上の諸問題について批判的に捉えることで受講者自身が設定した演習課題についての考察を深める。

本授業の準備学習・復習時間は各100分を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指定した教科書は使用しない。講義の都度レジュメを配布する。

### 【参考書】

吉見俊哉『メディア文化論－メディアを学ぶ人のための15話』（有斐閣）、佐藤卓己『メディア社会－現代を読み解く視点』（岩波書店）、M. マクラーハン『メディア論』（みすず書房）、L. レッシング『REMIX』（翔泳社）、電通メディアイノベーションラボ『情報メディア白書』（ダイヤモンド社）など。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（講義、課題への参加度） 60%  
期末（中間）レポート 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

アニメーション市場関連についての要望が多い。また既存のメディアとSNSの関係についての関心が高い。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要に応じて別途指示。

### 【その他の重要事項】

長年にわたるメディア、コミュニケーション領域でのリサーチなどの実務経験を活かして、論理的アプローチと現実的アプローチの両面からメディア、コミュニケーションを捉えられる多面的な視座を習得できる講義を実施する。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア、コミュニケーション、広告

<研究テーマ>

マスメディア企業の戦略、企業の広告戦略、広告市場の変遷

<主要研究業績>

「2017年の新聞広告とその動向——新聞社の総合力生かす展開に期待」、2018年4月、新聞研究

「2018 広告コミュニケーションの総合講座理論とケーススタディー」（共著）、2017年12月、日経広告研究所

「情報メディア白書」（共著）、2007年～、ダイヤモンド社

### 【Outline and objectives】

First, in a lecture style, learn basic theories about media and communication, and learn basic knowledge about consumer and consumer information intake behavior. On top of that, students will acquire analytical skills for various problems at present, such as mass media and communication on the Internet, and skills to logically construct problems. The goal is also to improve presentation skills.

## メディア理論5（メディア・ナショナリズム研究）

津田 正太郎

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ナショナリズムとメディアとの関わりについて主として理論的な観点から考える。

### 【到達目標】

この授業を通して、受講生自身がナショナリズムとメディアとの関係について分析するための視点と手法を習得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

文献の輪読を中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方について	イントロダクション
第2回	文献輪読『ナショナリズムとマスメディア』序章	「ナショナリズムとメディア」という問題設定について考える
第3回	文献輪読『ナショナリズムとマスメディア』1章	コミュニケーション論における国民形成論について考える
第4回	文献輪読『ナショナリズムとマスメディア』2章	社会的コミュニケーション論の観点からナショナリズムについて考える
第5回	文献輪読『ナショナリズムとマスメディア』3章	社会構築主義的なナショナリズム論について考える
第6回	文献輪読『ナショナリズムとマスメディア』4章	多様性と連帯との関係について考える
第7回	文献輪読『ナショナリズムとマスメディア』6章	シニシズムとナショナリズムとの結びつきについて考える
第8回	文献輪読『ナショナリズムとマスメディア』7章	連帯構築においてメディアが果たすべき役割について考える
第9回	文献輪読『ナショナリズムとマスメディア』8章	排外主義の抑制のためにメディアが果たすべき役割について考える
第10回	文献輪読『ネット右翼とは何か』第1章/第2章	ネット上での排外主義に関する計量的な分析について学ぶ
第11回	文献輪読『ネット右翼とは何か』第3章/第4章	ネット上での排外主義に関する質的なアプローチについて学ぶ
第12回	文献輪読『ネット右翼とは何か』第5章/終章	ネット上での排外主義についてその技術的コンテクストや反フェミニズムとの関係性について学ぶ
第13回	『ネット右派の歴史社会学』5章/6章	2000年前後のネット上の言説からナショナリズムについて考える
第14回	『ネット右派の歴史社会学』7章/8章	2000年代後半から2010年代にかけてのネット上の言説からナショナリズムについて考える

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。レポーターだけではなく参加者全員が輪読する箇所を読んだうえで授業に参加すること。

### 【テキスト（教科書）】

津田正太郎（2016）『ナショナリズムとマスメディア 連帯と排除の相克』（勁草書房）

樋口直人ほか（2019）『ネット右翼とは何か』（青弓社）

伊藤昌亮（2019）『ネット右派の歴史社会学 アンダーグラウンド平成史 1990-2000年代』（青弓社）

### 【参考書】

特に指定しませんが、授業中に適宜、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、学期末のレポート（60%）

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度開講科目なのでフィードバックはありません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

### 【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to discuss the relationship between nationalism and media mainly from theoretical perspectives.

SOC500E1 - 2205

## メディア特殊研究 1 (ブランド広告の意味研究)

青木 貞茂

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会においてブランドは、私達が生きていく上で無視できないほど大きな意味・価値を持った存在である。このブランドを創造するのが広告情報であり、どのように私達に働きかけ、影響を与えるのか、意味・価値の生成構造について構造主義、記号論、語用論をふまえて明らかにする。

## 【到達目標】

現代のブランド広告などに関して構造主義・記号論などの方法を駆使して、その構造・意味を分析・把握することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

主にブランド広告あるいは関連情報を中心として、記号論、言語学における語用論等の方法を駆使し、様々な情報を分析素材として構造・意味解析を実行する。その隠された意味、表現構造を明らかにし、ともに情報の意味についての考察を深めていく。

授業開始日を4月24日とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全必要な予備知識などについて説明
第2回	現代社会におけるブランド、広告、文化	ブランド、広告、文化は、現代社会の中でどのような機能と役割を果たしているのか
第3回	ブランドの存在論	現代社会におけるブランドの存在意義
第4回	ブランド価値の発見	ブランドの価値、意味内容のための調査方法
第5回	ブランド価値の構造化	ブランドの価値、意味内容を定義する
第6回	ブランド価値の管理	ブランドの価値をぶれずに管理する方法
第7回	ブランド・シンボルの概念	ブランドの表現を構成するシンボルの内容
第8回	ブランドにおけるシンボル・チェーン	ブランドのシンボル間のチェーン構造とはどのようなものか
第9回	成功したブランド広告のケース分析	世界的に成功したブランド広告の事例を分析
第10回	ブランド広告の構造分析	ブランド広告を構造主義、記号論の方法で分析
第11回	言語ゲームとブランド・コミュニケーション	言語ゲーム論からみたコミュニケーション戦略
第12回	ブランド広告と物語	ブランド広告を効果的に拡散する物語
第13回	ブランドマネジメントの方法	ブランド表現、シンボルのマネジメント方法
第14回	ブランド広告と情報戦略	ブランドに関する情報発信戦略の概要

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常生活においてブランドとその広告表現について積極的な関心を持ち、情報収集を行なう。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本講義では、準備時間2時間、復習時間2時間、1回につき計4時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

青木貞茂『文化の力』(NTT出版、2008年)

青木貞茂『キャラクター・パワー』(NHK出版新書、2014年)

## 【参考書】

津金澤聡廣・佐藤卓己編『広報・広告・プロパガンダ』(ミネルヴァ書房、2003年)

佐藤卓己・渡辺靖・柴内康文編『ソフト・パワーのメディア文化政策』(新曜社、2012年)

他適宜授業内で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

なし。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>広告論、ブランド論

<研究テーマ>文化と広告、ブランド、マーケティング

<研究業績>単著『文脈創造のマーケティング』(日本経済新聞社、1994年)、『文化の力』(NTT出版、2008年)

共著『記号化社会の消費』(ホルト・サウンドース・ジャパン、1985年)、『広告の記号論』(日経広告研究所、1987年)、『文化の消費が始まった』(日本経済新聞社、1989年)、『広報・広告・プロパガンダ』(ミネルヴァ書房、2003年)、『ソフト・パワーのメディア文化政策』(新曜社、2012年)

共訳書としてレイモア『隠された神話』(日経広告研究所、1985年)

## 【Outline and objectives】

In contemporary society, brand is an existence with great significance and value that cannot be ignored in our everyday life. Brands are. We will clarify how the brands, created by advertisement information, influence us and how their significance and values are produced in light of structuralism, semiotics, and pragmatics.

## メディア特殊研究2（メディアとデータリテラシー）

萩原 雅之

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公的統計、アンケート、世論調査などのデータを扱った報道の中には、無意識に、あるいは意図的に間違った解釈や誤解を生む表現が見られる。その背景にあるメディアのメカニズムやジャーナリズムの現状を理解し、データを正しく読み解くためのスキルとリテラシーについて学ぶ。さらに、近年注目を集める「データジャーナリズム」の意義と可能性についても実例を通して考える。

## 【到達目標】

- ・データの収集、分析に関する基本知識を習得する。
- ・報道における誤ったデータ解釈や表現を指摘できる。
- ・エビデンスデータに基づく考察と議論の重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本知識や事例分析については講義を基本とするが、受講者とのディスカッションも重視する。授業内容の実践・応用を目的として関心のあるデータや統計に基づいて記事やコラムを執筆する演習も組み入れる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジャーナリズムにおけるデータリテラシー
第2回	事例分析：世論調査	世論調査を扱った記事の批判的検証
第3回	事例分析：企業リリース	企業リリースを扱った記事の批判的検証
第4回	事例分析：公的統計	公的統計を扱った記事の批判的検証
第5回	事例分析：ディスカッション	履修者が収集する記事について議論する
第6回	ハンス・ロスリングの方法論(1)	『ファクトフルネス』を読む(前半)
第7回	ハンス・ロスリングの方法論(2)	『ファクトフルネス』を読む(後半)
第8回	データ収集の実務	サンプリング、質問文作成、ネットリサーチ
第9回	データ分析の実務	平均と分布、相関と因果、多変量解析、予測
第10回	データサイエンスの活用	ビッグデータ、ソーシャルリスニング、観測技術
第11回	データビジュアライゼーション	グラフ表現技術、ストーリーテリング
第12回	演習とディスカッション(1)	データを使った記事・コラムの執筆
第13回	演習とディスカッション(2)	データを使った記事・コラムの発表
第14回	データジャーナリズムの可能性	まとめとディスカッション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の準備学習・復習時間は各回1時間を標準とする。
- ・演習で発表する場合は事前リサーチや資料作成の時間を確保する。
- ・授業の趣旨に沿って気になる記事やコラムなど収集する習慣をつける。

## 【テキスト（教科書）】

ハンス・ロスリング他『ファクトフルネス』日経BP社、2019年、1944円  
その他、各回ともレジュメや資料を事前に配布する。

## 【参考書】

松本健太郎『データサイエンス「超」入門』毎日新聞出版、2018年、1540円  
小林直樹『だから数字にダマされる』日経BP社、2016年、1620円  
谷岡一郎『社会調査のウソ』文春新書、2000年、745円

## 【成績評価の方法と基準】

平常点および議論への参加度 50%  
演習での成果物 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

留学生の理解がより深まるよう日本のみならずアジア事例も取り入れる。

## 【学生が準備すべき機器他】

演習（第5、12、13回）で発表する際にはPCを持参。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

世論調査、社会調査、マーケティングリサーチ、データサイエンス

<現職>

トランスコスモス・アナリティクス株式会社取締役フェロー、マクロミル総合研究所所長

青山ビジネススクール、早稲田大学ビジネススクール講師（マーケティングリサーチ）

総務省統計局国勢調査企画会議専門委員

<著書>

著書『次世代マーケティングリサーチ』（2011）

共著『ブランド戦略全書』田中洋編（2014）

## 【Outline and objectives】

Some news articles dealing with data such as public statistics, surveys, opinion polls have unconsciously or intentionally generated expressions that produce an erroneous interpretation and misunderstanding. The course objectives are: 1) understanding the mechanisms of the media behind it and the current state of journalism, 2) learning skills and literacy to correctly read and understand the data, and 3) thinking about the significance and possibilities of "data journalism" through an actual activity.

SOC500E1 - 2209

## メディア社会学特殊研究 1 (消費者行動分析)

諸上 茂光

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディアで発信される商品やブランドに関する情報を受け取る消費者の心理と行動を理解するために、先行する消費者行動論の理論を理解し、これを実践的に活用する能力を修得するための討議を行う。

## 【到達目標】

消費者心理・消費者行動の分析に関する基礎的な理論を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

消費者心理・消費者行動に関する基礎的な文献を輪読によって読み進めながら、ケーススタディを行う。毎回授業時には課題が課され、事前準備を基に討議を行う形式を取ります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について、輪読の担当者の決定。
第 2 回	Buying, Having and Being	輪読及び討議
第 3 回	Perception	輪読及び討議
第 4 回	Learning and Memory	輪読及び討議
第 5 回	Motivation and Global Values	輪読及び討議
第 6 回	Personality and Psychographics	輪読及び討議
第 7 回	Attitudes and Persuasion	輪読及び討議
第 8 回	Decision Making	輪読及び討議
第 9 回	Buying and Disposing	輪読及び討議
第 10 回	Organizational and Household Decision Making	輪読及び討議
第 11 回	Groups and Social Media	輪読及び討議
第 12 回	Social Class and Lifestyles	輪読及び討議
第 13 回	総合討議	全体を通じた振り返りと討論
第 14 回	まとめ	レポートの発表

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の予習として授業毎に決められた範囲について予め読んでおき、レジュメを作成する必要があります。このレジュメと、担当回の輪読資料に基づいて討議を行います。

## 【テキスト(教科書)】

Michael R. Solomon : Consumer Behavior: Buying, Having, and Being(12th Edition),Person,2016.

## 【参考書】

授業内にて適宜指定。

## 【成績評価の方法と基準】

出席及びレジュメの提出 50%  
授業内の討議への参加状況と内容 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の予習に合わせて進度を調整する。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

消費者心理・消費者行動

<研究テーマ>

消費者心理におけるコンテキストの効果の解明

<主要研究業績>

<https://researchmap.jp/morokami/>

を参照のこと

## 【Outline and objectives】

Deal with the concepts and principles of consumer behavior analysis.



## メディア社会学特殊研究2 (Youtuber 研究)

稲増 龍夫

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

YouTube のメディア社会学

#### 【到達目標】

近年、映像メディアとして、急速に影響力を増している YouTube について、そのメディア特性、ならびに、現状におけるコンテンツの拡散力について現状分析をおこない、マスメディアに代わりうる潜在力を有しているかについて考察=展望する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

指定されたテキストを輪読しつつ議論する。関連する YouTube サイトについては、授業内で紹介し、情報を共有する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概略紹介と発表分担
第 2 回	『YouTube の時代』	1 章:YouTube の誕生
第 3 回	『YouTube の時代』	2 章:オートチューン時代
第 4 回	『YouTube の時代』	3 章:リミックス
第 5 回	『YouTube の時代』	4 章:みんながアーティスト
第 6 回	『YouTube の時代』	5 章:新しい広告
第 7 回	『YouTube の時代』	6 章:新しい報道
第 8 回	『YouTube の時代』	7 章:YouTube で勉強
第 9 回	『YouTube の時代』	8 章:ニッチこそが主流
第 10 回	『YouTube の時代』	9 章:隠された欲求をみたく
第 11 回	『YouTube の時代』	10 章:バイラル動画をつくるには
第 12 回	『YouTube の時代』	11 章:動画は私たちに何をもたらすか
第 13 回	『YouTube の時代』	12 章:見る人がつくる
第 14 回	特別講演	ゲストスピーカー

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

ケヴィン・アロッカ 『YouTube の時代 動画は世界をどう変えるか』 (NTT 出版、2019)

#### 【参考書】

授業中に適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提に、発表 (50%)、議論 (50%) を総合して評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

各自の研究テーマとの連関を考慮し、修論の問題意識を固めるのに役立つという意見が聞かれたので、この

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
<研究テーマ>  
<主要研究業績>

#### 【Outline and objectives】

Media Sociology of YouTube

SOC500E1 - 2211

## 取材文章実習

高瀬 文人

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

取材文章とは「事実に基づいた思考とその表現」と言い表すことができる。事実を集め、評価し、導き出される結論を展開し、適切に表現する方法は、ジャーナリズムや学問に限らず全ての思考の基本であり、その重要性はますます高まっている。この授業ではジャーナリズムの文章（取材文章）を自分の思考法とリンクして身につけ、受講者の「学びのスキル」とする。

## 【到達目標】

- ・取材文章がどのような構造でできているかを分析し、理解できる。
- ・新聞、雑誌、書籍、ウェブなどの媒体ごとに、文章の特徴を理解できる。
- ・問題意識、事実の見かた、収集と整理、論理の展開と論証の基本的な技術を身につける。
- ・事実の確認と評価の方法を理解できる。
- ・インタビューをはじめとする取材方法を学ぶ。
- ・学んだ方法論をもとに、事実を知らせる文章を書く。
- ・学んだ方法論をもとに、複数の事実から新しい価値を生み出す文章を書く。
- ・他者が書いた文章を読解し、校正し、向上のための方針を立てる。
- ・媒体に合わせた発信方法を考え、文章を書き、仕上げる。
- ・取材者・表現者としての自らとメディア、そして社会との関わり合いについて考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

「書く」ことで思考を深める授業の特性上、全体を通じて時間内に、あるいは課題として短い作文、あるいは取材に関連する簡単な作業を課し、それについての討論・添削を予定している。

授業は基本的に討論形式とし、講師と受講者、または受講者同士の討論を活発化することで気づきや深まりを期待する。また、文法などの短いレクチャーを適宜行い、より文章のスキルを高められるように授業を設計する。

受講生の関心などを考慮し、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ジャーナリズムの文章とその思考法	新聞・雑誌記事を題材に、記事や新聞紙面・雑誌レイアウトの見せ方などの構造を分析し、そこにどのような思考や意図が含まれているかを知る。
第2回	表現方法の構造と変化① 新聞・放送・雑誌・書籍	メディアごとの記事や表現方法の特徴と歴史の中での変化を知る。また、それぞれの文章の違いを知る。
第3回	表現方法の構造と変化② ネット媒体の勃興とレガシーメディアの変容	デジタルメディアの歴史と情報の検索・伝播の構造を知り、旧来のメディアがどう変容しているかを知る。
第4回	問題意識、事実の収集・分析、展開と論証	最近の記事やメディアをめぐる状況の実例から、記事の基本的構造を知る。必要な要素を整理し、自分が記事を書く際のスキルとして意識化できる。
第5回	フェイクニュースとその攻防——事実を確認するには	「フェイクニュース」は、意図的なデマとして流される場合も多いが、きちんと仕事をしていても作ってしまうことがある。防ぐポイントは事実の裏付けにある。その手法を学び、簡単な実践を試みる。
第6回	取材文章思考①テーマとリサーチ	取材の出発点である「発想」、方向性を決めるための情報収集である「リサーチ」はどのようにしたらよいか、どんな手段があるか。簡単な実践をしながらそれらの「方法」を身につける。
第7回	取材文章思考②取材と情報整理	「取材」とは何をするのか。取材文章思考①での準備を踏まえて取材計画をどのように立て、実行するかを、「取材執筆実習」の回に向けて計画する。また、取材をどのように記録し、情報を整理するかを学ぶ。簡単なワークショップを行う予定。
第8回	取材文章思考③伝えるための文章の構造・執筆のルール	取材で得、整理した事実を組み立て、執筆の方向性を決め、執筆にかかると。その論理の組み立てと、文章の基本について、簡単なワークショップを行う中で学ぶ。

第9回	取材執筆実習①テーマ設定とリサーチの実際	この回から13回まで、受講生はテーマを設定して取材文章を仕上げ、発信する実践を行う。テーマ設定の問題意識と、それを取り上げる必然性を説明できるように考え、発表する。必要ならリサーチを行う。
第10回	取材執筆実習②取材・インタビューの実際	講師が設定するテーマにより、実際にインタビュー（被取材者）にインタビューし、取材のノウハウを学ぶ。
第11回	取材執筆実習③情報整理と執筆の実際	取材で得た情報を整理し、筋書きにまとめ、執筆する作業を行う。授業時間内に終えることができない場合は、課外の時間を使って仕上げることも想定される。
第12回	取材執筆実習④発信を踏まえた編集実習	他の受講生が仕上げた原稿を、編集者の立場になって読み、校正し、よりよい内容になるよう添削・アドバイスする。受講生はそのアドバイスを従い、自らの原稿をさらにブラッシュアップする。
第13回	取材執筆実習⑤活字媒体の発信、ネット媒体の発信	新聞、雑誌、放送、ネットなど、媒体によって適した文章の書き方がある。自分の記事をそれぞれの媒体で発信することを考えて、バリエーションを作ってみる。
第14回	取材スキルとジャーナリズム、そして社会	講義全体を通して得たスキルを振り返り、受講生自身の、これからのものの見方、考え方、表現のしかたにどう影響したかを考える。それを踏まえ、ジャーナリズムの社会における役割、さらに表現者としての自らのあり方について考えを進める。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。実習で使用する参考書は適宜案内するが、必ずしも購入する必要はない。

## 【参考書】

『(新版) 日本語の作文技術』（本多勝一著、朝日文庫）『大人のための国語ゼミ』（野矢茂樹著、山川出版社）『報道記者のための取材基礎ハンドブック』（西村隆次著、リーダーズノート）『校正記号の使い方』『原稿編集ルールブック』（ともに日本エディタースクール）

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（50%）。討論で貢献のある学生にはさらに加点する。取材文章の評価（50%）。文章の評価は、文章の完成度とともに、問題設定や情報収集の方法や思考プロセスとその過程、さらに表現に意を払っているかに重点を置く。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業の目的である「問題意識の立て方」「事実の見かた・評価のしかた」「展開・結論づけ」について、受講生は達成できていると考えられる。今期は授業に文法など文章テクニックの短い講義・実習を織り込み、より受講生の実力を高められる工夫を行いたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

スマホ、タブレット、PCなど、ネットに接続できる機器があるとよい。

## 【その他の重要事項】

教員は現役の記者、ノンフィクションライター、雑誌・書籍編集者、校正者として幅広い領域で活動しており、いま現在の実例を用いて、多様な観点をふまえて受講者と討論しながら取材文章に必要な思考と技術を学べるよう授業を設計している。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

調査報道の雑誌記者・ノンフィクションライター、広告コピーライター、雑誌編集者・単行本編集者・校正者として編集業務全般を行っている。

<研究テーマ>

調査報道の現代的あり方、リサーチ教育

<主要研究業績>

『リーガル・リサーチ』2003年、日本評論社

『ひと目でわかる六法入門 第2版』2018年、三省堂

『鉄道技術者 白井昭』2012年、平凡社

## 【Outline and objectives】

Story in Journalism Can be expressed as "It was thought based on the fact and its expression." The way to gather facts, evaluate the derived conclusions and express them properly is fundamental not only for journalism and academic things but also for all ideas, its importance is increasing more and more I will. In this classroom, you will master the sentences of journalism (writing interviews) linked with your own way of thinking.

It aims at "learning skills".

## 調査報道実習2

川島 浩誉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ビジネスにおける意思決定・ジャーナリズムにおける問題提起・政策形成における根拠と説明責任などを始めとして、データ及びデータ分析に基づく意思決定とその方法論が社会的・市場的価値を増している。本科目は、データ分析の枠組みと考え方から実装までを習得することを目的とし、そのための道具としてプログラミング言語 Python を実習形式で習得する。

## 【到達目標】

本科目は、実習形式にてプログラミング言語 Python を習得することを土台とし、Python を用いた具体的な構造化・非構造化データの分析を行うことで、データ分析の枠組みと考え方から実装までを習得し、「データと分析に基づいた主張」を理解し、行うことができるようになることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各自のノート PC を用いた実習が中心である。

説明 1 → 実習 1 → 解説 1 → 説明 2 → 実習 2 …の繰り返しを軸として講義が進む。

リアクションペーパーと小課題によって、理解度を共有する。

理解度によっては説明を変更して再度行う。

データ分析を学ぶための題材は、受講者が希望する（修論で予定している）テーマを取り入れることも可能なため、受講者にとって最も学びやすい形に対応することが可能。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期集中

回	テーマ	内容
第 1 回	Python プログラミング (1)	プログラミング環境の確認と Python コーディングのチュートリアル
第 2 回	Python プログラミング (2)	変数の種類とプログラムの流れの制御
第 3 回	Python プログラミング (3)	ファイルの読み書きと簡単な集計、課題の出題
第 4 回	Python プログラミング (4)	課題の共有とここまでの復習としての実習
第 5 回	Python プログラミング (5)	コードの設計と読みやすい書き方
第 6 回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (1)	web ページのクローリングとスクレイピングの概要
第 7 回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (2)	web ページのクローリングとスクレイピングの実習および課題
第 8 回	仮説形成と分析計画	仮説形成と分析計画
第 9 回	分析プロジェクトの立案	分析プロジェクトの立案
第 10 回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (3)	ソーシャルメディアデータの取得方法の説明
第 11 回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (4)	ソーシャルメディアデータの取得方法の実習
第 12 回	テキストの計量分析 (1)	テキストデータの計量分析の概要
第 13 回	テキストの計量分析 (2)	テキストデータの計量分析の実習
第 14 回	テキストの計量分析 (3)	テキストデータの計量分析のプログラミング、課題の出題

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

準備学習・復習において、理解が難しかった点や疑問に思った点に関しては、随時メール対応が可能のため、ご相談ください。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を印刷して配布するため必要な教科書はない。

## 【参考書】

講義で行う実習に関連した（講義資料の作成に当たって用いた）書籍として下記の 2 冊を特記する。

- ・柴田淳著、みんなの Python 第 4 版、SB クリエイティブ
  - ・樋口耕一著、社会調査のための計量テキスト分析、ナカニシヤ出版
- また、データ分析の理屈や方法に関する書籍は近年数多く出版されており、講義の中でも何冊かを取り上げ、それぞれがどのような範囲のことが書かれているものであるかを紹介する予定である。その一部を列挙すると、
- ・石川博著、ソーシャル・ビッグデータサイエンス入門、コロナ社
  - ・あんちべ著、データ解析の実務プロセス入門、森北出版
  - ・金明哲著、テキストデータの統計科学入門、岩波書店
  - ・Ryan Mitchell 著、Python による Web スクレイピング、オライリー・ジャパン
  - ・加藤耕太著、Python クローリング&スクレイピング、技術評論社

- ・クジラ飛行機 著、Python によるスクレイピング&機械学習、ソシム
- ・小町守 監修、自然言語処理の基本と技術、翔泳社
- ・畑農鏡矢・水落正明 著、データ分析をマスターする 12 のレッスン、有斐閣
- ・伊藤公一朗 著、データ分析の力 因果関係に迫る思考法、光文社
- ・森田果 著、実証分析入門 データから「因果関係」を読み解く作法、日本評論社
- ・中室牧子・津川友介 著、「原因と結果」の経済学、ダイヤモンド社
- ・マーク・ジェフリー 著、データ・ドリブン・マーケティング、ダイヤモンド社

## 【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100%

なお、レポートは 1 回のみではなく、講義内の演習と講義後の宿題として複数行われる。提出されたもの全てを総合して成績評価を行う。課題は、プログラミングそのものの課題と、プログラミングを用いて何かを調べたり何かを分析したりする課題に分かれる。課題に取り組んだ結果、講義の理解に不明な点がある場合は、次回以降の講義の中で補足説明を行う。補足説明に関しては受講生からのリクエストも受け付ける。そのため、採点としては最初の出題、提出のみではなく、不明点に関する質問や補足説明等を経た結果、理解できたことも評価対象とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本講義は少人数講義であることから、各受講生の個別の理解度に合わせて質疑を行う時間は充分にあるが、受講生が不明点を言語化できるとは限らないため、受講生が理解度を顕在化させ、教える側はそれを把握して説明の方略を変更しやすいようにするため、講義中に成績と結びつかない小課題や、加点しやすい小課題を所要所で実施する。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）に記載した。

## 【その他の重要事項】

本講義では、プログラミングの未経験者を想定しているため、他言語の経験等は全く必須ではない。

一方、データ分析の実習であることから、コンピュータそのものに慣れていないひと（ファイルやフォルダという言葉がわからない、Excel での集計をまったく行ったことがない、ソフトウェアのインストールをまったくしたことがない、など）は不明点を積極的に言語化する必要がある。

## 【担当教員の専門分野等】

<現職での専門分野>戦略コンサルティングにおけるデータアナリティクス

<研究者としての専門領域>科学計量学、計量書誌学

<過去の研究テーマ>日本における学術論文著者の構造、学術研究者の雇用市場、科学技術関係政策文書の変遷の計量

## 【Outline and objectives】

The objectives of this practical training is

1. To acquire programming skill. It consists of

1-1. the skill of specific programming language(We use Python in this lecture)

1-2. the skill of algorithm(how to order our demand to the computer)

2. Introducing how to analyze the data for your discussion.

SOC500E1 - 2214

## オーディエンス調査実習

土橋 臣吾

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルメディアのユーザーに関するエスノグラフィックな調査を行い、その知見に基づいて、ウェブサービスやアプリの企画立案を行います。マスメディアのオーディエンスではなく、ウェブやモバイルのユーザーを調査対象とすること、またいわゆる社会調査ではなく、企画立案のための調査であることを承知しておいて下さい。

## 【到達目標】

デジタル化した情報環境の影響を分析する視点の獲得を目指します。その上で、現存する各種サービスやアプリケーションの分析、ユーザーの行動調査などを行い、それに基づいた企画の能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

エスノグラフィックなユーザ調査を実施し、その知見に基づいた独自サービスやアプリの企画立案を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標／課題の設定について
2	文献輪読（1）	指定文献の輪読
3	文献輪読（2）	指定文献の輪読
4	文献輪読（3）	指定文献の輪読
5	調査方法検討（1）	文献の理解を踏まえて、ユーザ調査の方法を考える
6	調査方法検討（2）	文献の理解を踏まえて、ユーザ調査の方法を考える
7	調査視点の獲得（1）	調査のポイントを定める
8	調査視点の獲得（2）	調査のポイントを定める
9	調査結果の共有	調査結果を共有する
10	調査結果の発表	調査結果のプレゼンテーション
11	企画会議（1）	独自サービス／アプリ企画のアイデア出し
12	企画会議（2）	企画コンセプトの決定
13	企画会議（3）	独自サービス／アプリの詳細な企画内容を決定する
14	企画発表	企画案の最終プレゼンテーション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

## 【参考書】

授業内で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、各期の最終課題 50 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業でノートパソコンを使います。

## 【担当教員の専門分野等】

専門領域：メディア論、情報環境論

研究テーマ：オーディエンス研究／ユーザー研究

主要研究業績：

金井明人・津田正太郎・土橋臣吾編（2013）『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版局

土橋臣吾・南田勝也・辻泉編（2011）『デジタルメディアの社会学：問題を発見し、可能性を探る』北樹出版

上野直樹・土橋臣吾編（2006）『科学技術実践のフィールドワーク：ハイブリッドのデザイン』せりか書房

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basic skills and knowledge to design user experiences of digital media. It also enhances the development of students' skill in ethnographic research of digital media use.

## 学際研究3（歴史学の方法とその歴史・現在）

慎 蒼宇

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、歴史学の立場から学問として歴史を捉える方法について、現在の興味深い研究を素材に学んでいこうと思う。歴史学は理論と離れたものではないが、その独自の任務は実証によって問題に向かい、過去の事象を把握しえた根拠を明示することにある。その範囲は限られたものではあるが、それらを学ぶことで「歴史的思考」を豊かにするきっかけをつくることができると考えている。対象は東アジア近現代史。東アジアの歴史像、帝国主義と民族、戦争や植民地支配の再検討、民衆史・民衆運動史、現代の歴史学・歴史理論の問題点、といった点について、近年の研究を中心に「歴史学の現在」に接近を試みたい。

## 【到達目標】

東アジア近現代史を中心に、近年の歴史研究に触れることで、歴史学の問題意識や方法に対する理解を深め、各自の研究テーマに対し、大状況と小状況、支配と被支配の権力関係、歴史の連続と断絶、といったダイナミックな思考を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講読が基本になる。テキストについては最初の講義で決定する。テキストは全員読み、担当者はレジュメを作成して報告し、受講生で議論する。近年の研究については研究者をお招きし、学習会を行う。受講生の状況に応じて輪読の方法を決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方／文献の選定など
第2回	方法から考える①	歴史学の基礎についての概論
第3回	方法から考える②	戦後歴史学の特徴について考える
第4回	方法から考える③	現代歴史学の成果と課題
第5回	方法から考える④	史料論から考える
第6回	東アジアと日本①	講読と討議
第7回	東アジアと日本②	同上
第8回	東アジアと日本③	同上
第9回	近年の特集を読む①	同上
第10回	近年の特集を読む②	同上
第11回	近年の特集を読む③	同上
第12回	アクチュアルな課題①	同上
第13回	アクチュアルな課題②	同上
第14回	まとめ	総合討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

決められたテキストは必ず全員読むことが必須。報告者は報告レジュメを作成すること。テキストが決まったら、関連した参考図書も第2回目に提示するので読むことを薦める。

## 【テキスト（教科書）】

初回に打ち合わせを行い決定する。

## 【参考書】

講義のなかで適宜紹介していく。

## 【成績評価の方法と基準】

報告の水準（50%）、出席や講義での討論などの参加度（50%）で総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

## 【Outline and objectives】

We learn with the present interesting study as a material about the way to catch history as learning from the view point of historical science. A target is East Asia short distance contemporary history.

SOC500E1 - 0303

## 学際研究4（社会ネットワークと組織）

宇野 齊

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会ネットワークと組織について、理論、分析手法、現象把握を学びます。

## 【到達目標】

- 1 個人、組織、ネットワーク、社会の相互関係と現象の確認
- 2 ネットワーク分析プロセスの理解
- 3 受講者がネットワーク分析を実行できる事

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

各回テーマに関する授業とレポートおよびディスカッションを中心としてすすめます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第 01 回	ガイダンスとイントロダクション	受講者との相互理解を深め、科目の内容などを確認
第 02 回	システムとネットワーク	システム論、ネットワーク論、組織論の相互関係性の把握
第 03 回	社会ネットワーク 1	基礎的な分析手法と指標
第 04 回	社会ネットワーク 2	パーソナルなネットワーク現象
第 05 回	社会ネットワーク 3	マス/ミドルレベルでのネットワーク現象
第 06 回	組織 1	制度と認知、及び意思決定
第 07 回	組織 2	組織の中の制度的ネットワーク
第 08 回	組織 3	組織の中の認知的ネットワーク
第 09 回	社会ネットワークと組織 1	社会の中のネットワークに生じる組織
第 10 回	社会ネットワークと組織 2	組織間ネットワーク
第 11 回	分析手法 1	ネットワーク情報の収集と分析
第 12 回	分析手法 2	例題による組織内ネットワーク分析
第 13 回	電子メディアでのネットワーク 1	閉鎖的ネットワークと開放的ネットワーク
第 14 回	電子メディアでのネットワーク 2	電子メディアで生じるネットワークと組織

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて授業支援システムに事前準備を提示します。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

使用しません。

## 【参考書】

初回および必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

中間かつ／または期末のレポート（60%）  
授業中の参加度合及び授業後の授業支援システムによるコメント（40%）  
その他の貢献は追加的に考慮

## 【学生の意見等からの気づき】

紹介する参考書等から、各自の目的に応じて、相当数の読み込みをすべき、との指摘がありました。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。大学付与の電子メールアドレスを事前に登録しておいて下さい。

## 【その他の重要事項】

授業計画は授業展開と受講者の目的により若干変更の可能性があり得ます。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会ネットワーク、組織行動科学、経営学  
<研究テーマ>コンテンツ産業の組織と社会ネットワーク  
<主要研究業績>宇野齊（2008）「組織とネットワーク」二神・日置編著、クラスター組織の経営学、中央経済社、第3章

## 【Outline and objectives】

In this course, students will learn theories and analytical methods for social networks and organizations.

The first purpose is to confirm the interrelationships and phenomena between individuals, organizations, networks and society.

The second is understanding the network analysis process.

The third is to confirm that the student can execute the network analysis by the network analysis for each student.

## 学際研究5（場の質的心理学）

土倉 英志

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の認知や行為はつねにどこかの「場」でなされる。人を理解するにあたり、場から切り離してしまうのではなく、場と関連をとどめたまま理解する方法を模索しながら学んでいく。本講義では、特に質的心理学の立場から、インタビューと観察を用いた研究に取り組んでいく。第一に関心を寄せる対象はコミュニティカフェである。

## 【到達目標】

- ・インタビューに関する基本的知識を身につける
- ・質的データの分析に関する基本的な考えかたを身につける
- ・質的研究のプロセスを見とおせるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ・授業はグループワークとディスカッションを中心に進める。
  - ・フィールドワーク、インタビュー、データの書き起こしは授業時間外に実施する。
  - ・最終的に研究成果をまとめたプレゼンを行なってもらう。
- ※※ 4/16 追記：本授業は 4 月 22 日からオンラインで実施する。詳細は学習支援システムに仮登録し、お知らせや資料を参照すること。※

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	調査テーマの説明
2	調査テーマの説明	調査テーマの説明と議論
3	RQ の説明	リサーチクエスションの確認と再検討
4	調査項目の設定（1）	調査項目の確認
5	調査項目の設定（2）	調査項目の再検討
6	研究手法の説明	インタビューの練習
7	分析手続きの説明	質的データの分析の説明
8	トランスクリプトの説明	トランスクリプトの作成方法の説明
9	データの分析（1）	グループでデータを分析する
10	データの分析（2）	グループでデータを分析する
11	データの分析（3）	グループでデータを分析する
12	プレゼンの作成	研究成果の報告資料を作成する
13	プレゼンテーション	研究成果を報告し、討論する
14	まとめ	プレゼンの修正、まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業時間外にも様々な活動に取り組むことが必要になります。たとえば、指定の文献を読む、調査に出かける、インタビューの書き起こしを行なう、データの整理を行なう、研究成果の報告資料を作成する、といったことです。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

- ・特になし

## 【参考書】

- ・適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で課される課題（調査含む）への取り組み（70%）と最終プレゼンの完成度（30%）によって評価する。
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・新規科目につきアンケートを実施していない。

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

## 【その他の重要事項】

- ・調査にかかる交通費は原則、自己負担となります。

## 【担当教員の専門分野等】

- <専門領域> 社会心理学、認知科学、質的心理学
- <研究テーマ> 創造性、経験／創造による学習、コミュニティデザイン
- <主要研究業績> 教員のウェブサイトを参照してください

## 【Outline and objectives】

In this course, students learn qualitative methodologies for investigating cognition and action in the real world, not in the laboratory. In particular, we focus on the interview method. The goal of this course is to obtain basic knowledge of qualitative approaches in psychology. Students conduct field research, interview informants, transcribe interview data, analyze transcripts, and report research outcomes.

SOC500E1 - 0305

**社会科学研究法 1**

大崎 雄二

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本語を母語としない外国人留学生を対象とする。社会学、社会科学の基礎概念を再確認しながら、修士課程における学びの基軸、必要不可欠なアカデミック・リテラシーを具体的に確認し、習熟していく。

**【到達目標】**

情報・文献検索の方法、データ分析の基本、日本語論文作成の方法、プレゼンテーションの方法等を確認し、修士課程の学生に相応しい情報の収集と分析、再構築、発信が支障なくできるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

学生参加型のインタラクティブな演習、実習の形態とする。

教員からの問題提起と課題に対し、学生が質問、回答しながらより深い理解と習熟へと進むことができるよう授業を構成する。授業計画は、授業の展開によって若干の変更が生じる可能性もある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	アイス・ブレイキング	役割分担決定等
2	情報の整理と要約（1）	論文の要約① キーワード、キーフレーズ
3	情報の整理と要約（2）	論文の要約② 要約のポイント
4	プレゼンテーション（1）	レジュメ作成のポイント① 形式
5	プレゼンテーション（2）	レジュメ作成のポイント② 内容
6	プレゼンテーション（3）	スライド作成のポイント
7	プレゼンテーション（4）	効果的な発表、相互批評・検討
8	情報、文献の検索と収集（1）	データベースの活用
9	情報、文献の検索と収集（2）	付加情報と脚註
10	情報、文献の検索と収集（3）	関連文献検索、参考文献一覧作成
11	データ分析の基本（1）	データ収集、処理の基礎
12	データ分析の基本（2）	データ分析の基礎
13	小論文の作成（1）	構想の発表と議論① 発表
14	小論文の作成（2）	構想の発表と議論② 議論と修正

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

ケイン樹里安、上原健太郎『ふれる社会学』、北樹出版、2019。

**【参考書】**

授業内でテーマごとに複数紹介していく。

**【成績評価の方法と基準】**

参加 40 % + 課題 60 % で評価したい。

**【学生の意見等からの気づき】**

よりきめ細かい個別対応を進めるとともに、さらに積極的な議論ができる場作りに努力する。積極的な提案や意見は常に大歓迎。

**【学生が準備すべき機器他】**

パーソナルコンピュータを使った実習をおこなう際には事前に通知し、支障のないようにする。

課題は「授業支援システム」から提出のこと。

**【担当教員の専門分野等】**

東アジア（現代中国）地域研究（国民統合、民族政策）

**【Outline and objectives】**

This course deals with the basic concepts and principles of social sciences. It also enhances the development of foreign students' skill in making oral and literal presentation and self-regulated learning.



## 社会科学研究法2

大崎 雄二

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生を対象とする。「社会科学研究法1」の履修を前提として授業を進める。修士課程の学生に必要なアカデミック・リテラシーを身につけ、自律的、批判的な学習、研究の主体として自立することを旨とする。

### 【到達目標】

具体的なプレゼンテーションの方法等を確認しながら、修士課程の学生に相応しい情報の収集と分析、再構築、発信が十全にできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

学生参加型のインタラクティブな演習、実習の形態とする。

教員からの問題提起と課題（基本的には隔週とする）に対し、学生が質問、回答、発表をしながらより深い理解と習熟へと進むことができるよう授業を構成する。授業計画は、授業の展開によって若干の変更が生じる可能性もある。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
1	小論文の発表、講評と議論（1）	講評
2	小論文の発表、講評と議論（2）	議論と修正
3	文献講読（1）	キーワードの確認
4	文献講読（2）	キーワードの確認
5	文献講読（3）	要約のポイント
6	文献講読（4）	要約と表現
7	文献講読（5）	機能的なまとめ
8	文献講読（6）	注釈の効能
9	文献講読（7）	問題提起
10	文献講読（8）	課題設定
11	文献講読（9）	関連文献の検索
12	文献講読（10）	critical reading
13	小論文構想発表（1）	発表
14	小論文構想発表（2）	講評と検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

参加者の関心分野に応じ、相談して決める。

### 【参考書】

授業内でテーマごとに複数紹介していく。

### 【成績評価の方法と基準】

参加50%+課題50%で評価したい。

### 【学生の意見等からの気づき】

よりきめ細かい個別対応を進めるとともに、さらに積極的な議論ができる場作りに努力する。積極的な提案や意見は常に大歓迎。

### 【担当教員の専門分野等】

東アジア（現代中国）地域研究（国民統合、民族政策）

### 【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of social sciences. It also enhances the development of foreign students' skill in making oral and literal presentation and self-regulated learning.

SOC500E1 - 0307

## 外国書講読 1 (英語)

関口 浩

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

財政学関係の英語文献講読。令和2年度春学期の講義では、経済学の理論に立脚したやや難解な租税論に関する文献、そして将来の在外生活等を考えて米国の慣習・制度に関する最新の英語文献を講読する。

## 【到達目標】

国際化の進展に伴い、小学校からの英語教育も叫ばれ、英語の会話力や英語文献の読解力が従来にも増して求められている。読解も会話もその力を伸ばすためには「継続は力なり」で、失敗をおそれず繰り返し実践することである。本講義では、本学部創設以来の伝統である「応用経済学」のうち、「財政学」関連の文献を講読し、その知識を深めるとともに、米国の文化等に触れながら、外国文献の読解力を伸ばすことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

1. 基本的に演習方式と講義方式を併用して進めていく。受講生には話し合いの上、主たる担当部分が割り当てられる。まず訳出し、重要構文・専門用語等を調べ、レジュメを作り、受講生全員に前週までに配付する。講義では全員を対象に無作為に指名し、訳および説明を求める。なお進捗に応じて、担当教員による講義を加える。なお、予習をしてこない学生が多いので毎回試験を行う。
2. 原則として「外書講読(社会政策科学)3B」と合わせて受講する必要がある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	講読計画の説明	教科書の概要説明
第2回	I. 米国および海外の財政連邦主義(ないし地方財政)	1. 州・地方の歳入・歳出
第3回	I. 米国および海外の財政連邦主義(ないし地方財政)	2. 海外の財政連邦主義
第4回	II. 最適財政連邦主義	1. ティーパー・モデル
第5回	IV. 米国の慣習・制度	米国の大学新聞や学校で用いられている教材やパンフレット等を講読する。
第6回	II. 最適財政連邦主義	2. ティーパー・モデルの問題点
第7回	II. 最適財政連邦主義	3. ティーパー・モデルの証拠
第8回	II. 最適財政連邦主義	4. 最適財政連邦主義
第9回	III. 地域間の再分配	1. 再分配手段の検討
第10回	IV. 米国の慣習・制度	米国の大学新聞や学校で用いられている教材やパンフレット等を講読する。
第11回	III. 地域間の再分配	2. 再分配手段：補助金(1) 経済理論的分析
第12回	III. 地域間の再分配	2. 再分配手段：補助金(2) 経済理論的分析
第13回	III. 地域間の再分配	3. 学校財政均衡化政策(1)
第14回	III. 地域間の再分配	3. 学校財政均衡化政策(2)

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習にあたり2時間以上かけて、予習段階では各回講読箇所を読み、不明な単語を調べ、構文を中心に訳し、文意の不明な箇所を明らかにし、講義時の討論の材料となる構文や財政学的背景、米国の文化的背景について調べる。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、配付資料を頼りに2時間以上かけて取り組み、復習すること。また通学車内で予習・復習の一環として、講読部分を通読しておくこと。

## 【テキスト(教科書)】

講読教科書として以下のものを予定しているが、詳細は第1回講義の際に説明する。

1. Jonathan GRUBER, *Public Finance and Public Policy (5th edition)*, Worth Publishers, 2016.
2. 米国の慣習・制度に関する英語文献。

## 【参考書】

1. 長谷川啓之編『英和英経済用語辞典』富士書房、昭和55年。
2. 佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。
3. 参考文献はその都度提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

1. 詳細については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。

2. 目安として、夏の定期試験(50%)を中心に、報告資料作成水準(30%)、出席票記述事項(10%)、講義への参加度合(10%)を総合し、講義最終回提出物(必須)の提出有無を加味して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

予習をしてきた他の受講生の迷惑にならないように、必ず予習をして講義に臨むこと。また、財政学に関する専門用語がかなり出てくるので、大学生レベルの英和辞典と専門用語辞典を用意してほしい。

## 【その他の重要事項】

1. 昨年度に続いて、租税に関する基礎知識をつけるために、講義の進行に応じて、何回か都心の学外施設(租税資料館等)を利用して講義を行う予定である。そのため本講義の前後の時間帯に講義等がある学生は支障をきたすことが予想される。登録に際しては十分注意すること。また受講者の事情により講義時刻開始を早めなければならない回が生じることも予想されるので、第1回講義には必ず出席すること。後日の対応は不可であるので十分に注意すること。
2. 本講義を受講する学生は講義の性質を考えて、「財政学Ⅰ」、「財政学Ⅱ」、「地方財政論」を受講済みか同時受講していることを、原則、必須要件とする。これらの要件を満たしていない学生は、機械登録ができたとしても、評価の対象としないので注意すること。
3. 海外留学、4年次の履修、過年度生の履修等で事情のある学生は第1回講義開始時に申し出て指示を受けること。

## 【Outline and objectives】

We read and understand the book about the slightly difficult local public finance theory and tax theory based on an economic theory.

## 外国書講読2（英語）

関口 浩

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学関係の英語文献講読。令和2年度秋学期の講義では、経済学の理論に立脚したやや難解な租税論に関する文献、そして将来の在外生活等を考えて米国の慣習・制度に関する最新の英語文献を講読する。財政学関係の英語文献講読。

## 【到達目標】

国際化の進展に伴い、小学校からの英語教育も叫ばれ、英語の会話力や英語文献の読解力が従来にも増して求められている。読解も会話もその力を伸ばすためには「継続は力なり」で、失敗をおそれず繰り返し実践することである。本講義では、本学部創設以来の伝統である「応用経済学」のうち、「財政学」関連の文献を講読し、その知識を深めるとともに、米国の文化等に触れながら、外国文献の読解力を伸ばすことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

1. 基本的に演習方式と講義方式を併用して進めていく。受講生には話し合いの上、主たる担当部分が割り当てられる。まず訳出し、重要構文・専門用語等を調べ、レジュメを作り、受講生全員に前週までに配付する。講義では全員を対象に無作為に指名し、訳および説明を求める。なお進捗に応じて、担当教員による講義を加える。なお、予習をしてこない学生が多いので毎回試験を行う。
2. 原則として「外書講読（社会政策科学）3A」と合わせて受講する必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	講読計画の説明	教科書の概要説明
第2回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分(1)
第3回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分(2)
第4回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分(3)
第5回	II. 米国の慣習・制度	米国の大学新聞や学校で用いられている教材やパンフレット等を講読する。
第6回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分(4)
第7回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分(5)
第8回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分(6)
第9回	I. 課税と厚生	1. 課税と資源配分(7)
第10回	II. 米国の慣習・制度	米国の大学新聞や学校で用いられている教材やパンフレット等を講読する。
第11回	I. 課税と厚生	2. 物品税の厚生費用の測定(1)
第12回	I. 課税と厚生	2. 物品税の厚生費用の測定(2)
第13回	I. 課税と厚生	2. 物品税の厚生費用の測定(3)
第14回	II. 米国の慣習・制度	米国の大学新聞や学校で用いられている教材やパンフレット等を講読する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習にあたり2時間以上かけて、予習段階では各回講読箇所を読み、不明な単語を調べ、構文を中心に訳し、文意の不明な箇所を明らかにし、講義時の討論の材料となる構文や財政学的背景、米国の文化的背景について調べる。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、配付資料を頼りに2時間以上かけて取り組み、復習すること。また通学車内で予習・復習の一環として、講読部分を通読しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

講読教科書として以下のものを予定しているが、詳細は第1回講義の際に説明する。

1. Arnold C. HARBERGER, *Taxation and Welfare*, Little Brown and Company, 1974.
2. 米国の慣習・制度に関する英語文献。

## 【参考書】

1. 長谷川啓之編『英和英経済用語辞典』富士書房、昭和55年。
2. 佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。
3. 参考文献はその都度提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

1. 詳細については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
2. 目安として、夏の定期試験(50%)を中心に、報告資料作成水準(30%)、出席票記述事項(10%)、講義への参加度合(10%)を総合し、講義最終回提出物(必須)の提出有無を加味して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

予習をしてきた他の受講生の迷惑にならないように、必ず予習をして講義に臨むこと。また、財政学に関する専門用語がかなり出てくるので、大学生レベルの英和辞典と専門用語辞典を用意してほしい。

## 【その他の重要事項】

1. 昨年度に続いて、租税に関する基礎知識をつけるために、講義の進行に応じて、何回か都心の学外施設(租税資料館等)を利用して講義を行う予定である。そのため本講義の前後の時間帯に講義等がある学生は支障をきたすことが予想される。登録に際しては十分注意すること。
2. 本講義を受講する学生は講義の性質を考えて、「財政学Ⅰ」、「財政学Ⅱ」、「地方財政論」を受講済みか同時受講していることを、原則、必須要件とする。これらの要件を満たしていない学生は、機械登録ができたとしても、評価の対象としないので注意すること。
3. 海外留学、4年次の履修、過年度生の履修等で事情のある学生は第1回講義開始時に申し出て指示を受けること。

## 【Outline and objectives】

We read and understand the book about the slightly difficult local public finance theory and tax theory based on an economic theory.

SOC500E1 - 0307

## 外国書講読 1 (英語)

武田 俊輔

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Graham Crow, What are community studies? (Bloomsbury USA Academic, 2018) をテキストとして、コミュニティについての社会学的研究について英語で学ぶ。

## 【到達目標】

- 英語で書かれた社会学のテキストを読めるようになること。
- 文献の内容を理解することで、コミュニティについての社会的な考え方や調査方法、調査倫理について理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講者が分担して、テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する。英語の授業ではないので、1回に進む分量は5ページ程度と少ない。報告者は文献を読んだ上で、(図書館が閉鎖されて使えない状況下においては、あくまで手元の図書やオンライン上の文献を用いて)内容を調べ、事前に報告者は文献を読み、他の受講生に対して説明することが求められる。その上で、全員で質疑応答とディスカッションを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的とテーマ、レジュメの作り方について
2	Chapter 1 の講読	Chapter 1 の講読、担当者の報告、ディスカッション
3	Chapter 2 (2.1 ~ 2.2) の講読	Chapter 2 (2.1 ~ 2.2) の講読、担当者の報告、ディスカッション
4	Chapter 2 (2.3) の講読	Chapter 2 (2.3) の講読、担当者の報告、ディスカッション
5	Chapter 3 (3.1) の講読	Chapter 3 (3.1) の講読、担当者の報告、ディスカッション
6	Chapter 3 (3.2) の講読	Chapter 3 (3.2) の講読、担当者の報告、ディスカッション
7	Chapter 3 (3.3) の講読	Chapter 3 (3.3) の講読、担当者の報告、ディスカッション
8	Chapter 4 (4.1) の講読	Chapter 4 (4.1) の講読、担当者の報告、ディスカッション
9	Chapter 4 (4.2) の講読	Chapter 4 (4.2) の講読、担当者の報告、ディスカッション
10	Chapter 4 (4.3) の講読	Chapter 4 (4.3) の講読、担当者の報告、ディスカッション
11	Chapter 5 (5.1) の講読	Chapter 5 (5.1) の講読、担当者の報告、ディスカッション
12	Chapter 5 (5.2 ~ 5.3) の講読	Chapter 5 (5.2 ~ 5.3) の講読、担当者の報告、ディスカッション
13	Chapter 5 (5.4 ~ 5.5) の講読	Chapter 5 (5.4 ~ 5.5) の講読、担当者の報告、ディスカッション
14	Chapter 6 の講読・総括討論	Chapter 6 の講読、担当者の報告、ディスカッション。および全体に関する総括討論。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週のテキストの講読部分を事前に辞書を引きながら熟読し、紹介される文献についての調べて理解を深めるとともに、不明な点や疑問点、派生的な関心について明確にすること。それが質疑応答・ディスカッションを行う上での前提となる。英語の授業というより社会学やコミュニティに関する授業なので、社会学事典や『コミュニティ事典』(春風社、2017年)なども合わせて下調べすることが望ましい。また授業終了後にこの講読をふまえて、「コミュニティ」についてレポートを提出してもらうことになる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

Graham Crow, 2018, What are community studies?, Bloomsbury USA Academic.

## 【参考書】

玉野和志(編),2020,『都市社会学を学ぶ人のために』世界思想社。  
 地域社会学会編,2011,『新版 キーワード地域社会学』ハーベスト社。  
 中筋直哉・五十嵐泰正,2013,『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房。  
 その他、授業内で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%) : テキストの担当部分、紹介される文献の下調べ、派生的な関心についての報告の質、および各回の討議への参加・貢献度にもとづき評価する。  
 レポート (30%) : 原典講読にもとづく課題レポートの内容によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初回のため、特になし。

## 【Outline and objectives】

Students learn sociological research on communities. The textbook is "What are community studies?"(Bloomsbury USA Academic, 2018) written by Graham Crow .

SOC500E1 - 0308

## 外国書講読2（英語）

武田 俊輔

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当者が分担執筆している Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützel, Sebastian Polak-Rottmann(eds), Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery (Routledge,2020) をテキストとして、現代日本の地域社会について学ぶ。ヨーロッパの日本学（Japanology）の研究者たちが人口減少の進む日本の地域社会をどのように論じているかについて学ぶことで、日本の地域社会について理解するための視点を獲得する。

## 【到達目標】

英語で書かれた日本社会に関するテキストを読めるようになること。  
日本の地域社会について、海外との比較の視点も持ちつつ社会的な視点で理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講者が分担して、テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する。単なる要約ではなく不明点や疑問点を明確にすること、また各章で紹介される地域社会の状況について事前に報告者は下調べして、他の受講生に対して説明することが求められる。その上で、全員で質疑応答とディスカッションを行う。

なお授業計画は学生の英語力や関心によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的とテーマ、レジュメの作り方について
2	Chapter 1（前半）の講読	Chapter 1（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
3	Chapter 1（後半）の講読	Chapter 1（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
4	Chapter 2（前半）の講読	Chapter 2（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
5	Chapter 2（後半）の講読	Chapter 2（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
6	Chapter 4（前半）の講読	Chapter 4（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
7	Chapter 4（後半）の講読	Chapter 4（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
8	Chapter 5（前半）の講読	Chapter 5（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
9	Chapter 5（後半）の講読	Chapter 5（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
10	Chapter 6（前半）の講読	Chapter 6（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
11	Chapter 6（後半）の講読	Chapter 6（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
12	Chapter 8（前半）の講読	Chapter 8（前半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
13	Chapter 8（後半）の講読	Chapter 8（後半）の講読、担当者の報告、ディスカッション
14	総括討論	本書のここまでの内容をふまえた日本の地域社会に関する総括討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週のテキストの講読部分を事前に辞書を引きながら熟読し、理解を深めるとともに、内容に関する不明点や疑問点、派生的な関心について明確にすること。それが質疑応答・ディスカッションを行う上での前提となる。英語の授業というより社会学や地域社会に関する授業なので、そうした観点からのディスカッションに時間をできるだけ使う。

また授業終了後にこの講読をふまえて、日本の地域社会に関するレポートを提出してもらうことになる。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützel, Sebastian Polak-Rottmann(eds), 2020, Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery, Routledge.

テキストは担当教員が用意する（もし購入できる人がいればその方が望ましい）。

## 【参考書】

その都度、授業内で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（70％）：テキストの担当部分、紹介される文献の下調べ、派生的な関心についての報告の質、および各回の討議への参加・貢献度にもとづき評価する。

レポート（30％）：原典講読にもとづく課題レポートの内容によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度が初回のため、特になし。

## 【Outline and objectives】

Students learn about contemporary local community in Japan. The textbook is "Japan's New Ruralities: Coping with Decline in the Periphery" (Routledge,2020) edited by Wolfram Manzenreiter, Ralph Lützel, Sebastian Polak-Rottmann.

They can get perspectives to understand local depopulated communities by learning how European researchers who major in Japanology analyze such communities.

SOC500E1 - 0307

## 外国書講読 1 (英語)

鈴木 宗徳

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

未邦訳の学術的な英文テキストを講読し、アカデミックな英文の読解に慣れる。

## 【到達目標】

英語の学術的文献を正確に理解する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎週 2~3 ページずつテキスト講読を進めるが、受講者は必ず全訳を準備して授業に臨む。授業では一文ずつ訳読しながら理解を深めてゆく。文の構造や文脈について解説を加える。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	テキストの説明
第 2 回	テキスト講読 (1)	訳読と内容の検討
第 3 回	テキスト講読 (2)	訳読と内容の検討
第 4 回	テキスト講読 (31)	訳読と内容の検討
第 5 回	テキスト講読 (4)	訳読と内容の検討
第 6 回	テキスト講読 (5)	訳読と内容の検討
第 7 回	テキスト講読 (6)	訳読と内容の検討
第 8 回	中間テスト	内容の理解度を測る
第 9 回	テキスト講読 (7)	訳読と内容の検討
第 10 回	テキスト講読 (8)	訳読と内容の検討
第 11 回	テキスト講読 (9)	訳読と内容の検討
第 12 回	テキスト講読 (10)	訳読と内容の検討
第 13 回	テキスト講読 (11)	訳読と内容の検討
第 14 回	テキスト講読 (12)	訳読と内容の検討

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回必ず予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

Helen Margetts, Rethinking Democracy with Social Media, The Political Quarterly, 19(1), 2019, pp.107 - 123.

テキストは初回に配布するが、担当者個人の Dropbox からファイルをダウンロードできるので (<http://urx2.nu/PSSq>) 事前に 1~2 段落読んで難易度を確認しておくこと。

## 【参考書】

授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績 (45%)、期末テストの成績 (45%)、授業への参加姿勢 (10%)。2 回欠席するごとに、成績評価を一段階ずつ下げます (S→A +、A + →A、A→A - …)。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

In this course, students practice reading academic English texts.

## 外国書講読2（英語）

鈴木 宗徳

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

未邦訳の学術的な英文テキストを講読し、アカデミックな英文の読解に慣れる。

### 【到達目標】

英語の学術的文献を正確に理解する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎週2～3ページずつテキスト講読を進めるが、受講者は必ず全訳を準備して授業に臨む。授業では一文ずつ訳読しながら理解を深めてゆく。文の構造や文脈について解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テキストの説明
第2回	テキスト講読(1)	訳読と内容の検討
第3回	テキスト講読(2)	訳読と内容の検討
第4回	テキスト講読(3)	訳読と内容の検討
第5回	テキスト講読(4)	訳読と内容の検討
第6回	テキスト講読(5)	訳読と内容の検討
第7回	テキスト講読(6)	訳読と内容の検討
第8回	中間テスト	内容の理解度を測る
第9回	テキスト講読(7)	訳読と内容の検討
第10回	テキスト講読(8)	訳読と内容の検討
第11回	テキスト講読(9)	訳読と内容の検討
第12回	テキスト講読(10)	訳読と内容の検討
第13回	テキスト講読(11)	訳読と内容の検討
第14回	テキスト講読(12)	訳読と内容の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ず予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

Giulia Evolvi, Hate in a Tweet: Exploring Internet-based Islamophobic discourses, Religions, 9(10), 307, 2018, pp.1-14 (冒頭の Abstract はとばして、Introduction から読み始める。)

テキストは初回に配布するが、担当者個人の DropBox からファイルをダウンロードできるので (<http://urx2.nu/PSsq>) 事前に1～2段落読んで難易度を確認しておくこと。

### 【参考書】

授業中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績(45%)、期末テストの成績(45%)、授業への参加姿勢(10%)。2回欠席するごとに、成績評価を一段階ずつ下げます(S→A +、A + →A、A→A - …)。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline and objectives】

In this course, students practice reading academic English texts.

SOC500E1 - 0307

## 外国書講読 1 (仏語)

高橋 愛

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期は「出会い」をテーマとし、回想録、手紙、小説、詩において作家たちが綴った感動的な出会いの場面を読み、さまざまなタイプの文章に慣れ、読解力を向上させる。詩を通して名曲となったシャンソンも聞く。教科書には詳注・解説がついており、それらを確認しながら中級の復習も行い、文章が書かれた時代背景にも注目して理解を深める。

## 【到達目標】

イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、辞書を引きながら専門分野の文献を読み、理解できるレベルの読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、教科書の説明
2	講読、第1回目	Jacques Prévert, « Barbara »
3	講読、第2回目	Henri Contet, « C'est merveilleux ! »
4	講読、第3回目	Charles-Louis Philippe, <i>La Rencontre</i>
5	講読、第4回目	Alphonse Daudet, <i>L'Arlésienne</i>
6	講読、第5回目	Jean de La Fontaine, « Le Loup et l'Agneau » ( <i>Fables</i> )
7	講読、第6回目	Lettre d'Arthur Rimbaud à Paul Verlaine
8	講読、第7回目	André Gide, « Cet instant décida de ma vie » ( <i>La Porte étroite</i> )
9	講読、第8回目	La première rencontre de Pierre et Marie Curie
10	講読、第9回目	Simone de Beauvoir, « Avec lui, je pourrais toujours tout partager » ( <i>Mémoires d'une fille rangée</i> )
11	講読、第10回目	Jean-Jacques Rousseau, « A l'instant de cette lecture...je devins un autre homme » ( <i>Les Confessions</i> )
12	講読、第11回目	Gustave Flaubert, « Ce fut comme une apparition » ( <i>L'Éducation sentimentale</i> )
13	講読、第12回目	Gérard de Nerval, <i>Sylvie, Souvenir du Valois, Adrienne</i>
14	講読、第13回目	Stendhal, « On m'appelle Julien Sorel, madame » , ( <i>Le Rouge et le Noir</i> )

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、次週の授業で読む部分を指定するので、準備のうえ授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

池澤克夫編『邂逅』、第三書房、1997年

## 【参考書】

授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとまなない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

## 【学生の意見等からの気づき】

予習をして難しかった部分や訳出しにくかったところは遠慮なく質問してほしい。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels.



## 外国書講読2（仏語）

高橋 愛

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦を中心に、エリュアール、カミュ、ポーヴォワール、サルトルといった作家たちがこの悲劇的な時期に何を考え、どのような発言や証言を行ったのかを発表された年代順に選んで丁寧に読む。教科書には各テキストの表現と内容に関する注があるので、それらも確認しながら中級の復習を行い、それぞれの文章が書かれた時代背景等にも注目して理解を深める。

## 【到達目標】

イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、辞書を引きながら専門分野の文献を読み、理解できるレベルの読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回、次週までに予習する範囲を教員が指定し、その範囲の文章を構文や時制などに注意しながら全員で読み進める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	講読、第1回目	Max-Pol Fouchet, « Nous ne sommes pas vaincus... »
2	講読、第2回目	Robert Desnos, « Demain »
3	講読、第3回目	Jean Starobinski, « Un nouveau poétique ? » ( <i>La Résistance et ses poètes</i> ) 前半
4	講読、第4回目	Jean Starobinski, « Un nouveau poétique ? » ( <i>La Résistance et ses poètes</i> ) 後半
5	講読、第5回目	Paul Eluard, « Gabriel Péri » ( <i>Au rendez-vous allemand</i> ) 前半
6	講読、第6回目	Paul Eluard, « Gabriel Péri » ( <i>Au rendez-vous allemand</i> ) 後半
7	講読、第7回目	Paul Eluard, « Courage » ( <i>Au rendez-vous allemand</i> ) 前半
8	講読、第8回目	Paul Eluard, « Courage » ( <i>Au rendez-vous allemand</i> ) 後半
9	講読、第9回目	Simone de Beauvoir, « Mort de Bourla » ( <i>La Force de l'Age</i> ) 前半
10	講読、第10回目	Simone de Beauvoir, « Mort de Bourla » ( <i>La Force de l'Age</i> ) 後半
11	講読、第11回目	Albert Camus, « Le temps du mépris » ( <i>Combat</i> , le 30 août 1944) 前半
12	講読、第12回目	Albert Camus, « Le temps du mépris » ( <i>Combat</i> , le 30 août 1944) 後半
13	講読、第13回目	Jean-Paul Sartre, « La République du silence » ( <i>Situation III</i> ) 前半
14	講読、第14回目	Jean-Paul Sartre, « La République du silence » ( <i>Situation III</i> ) 後半

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回次週の授業で読む部分を指定するので、準備のうえで授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

安藤玲子編『戦争と人間』、第三書房、1981年

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎週指定する課題の達成度と授業への参加度を重視し、平常点（100%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

予習をして難しかった部分等は遠慮なく質問してほしい。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels.

SOC500E1 - 0307

## 外国書講読 1 (独語)

三浦 美紀子

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまなテーマの文章を丁寧に読んで、読解力を増強し、ドイツ語圏事情をより詳しく理解する。

## 【到達目標】

50 行程度のまとまったテキストを丁寧に読むことができる。  
 テキスト内容を理解したかどうかチェックするため、ドイツ語の質問文に答えることができる。  
 穴埋め、文の書き換えといった文法問題を解いて、文法力をさらにアップさせる。  
 テキストと文法問題の文から、ドイツ語圏の日常生活や社会の仕組みを理解し、説明できる。  
 テキストの内容をまとめ、日本と比較して、ドイツ語の文で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、4 月 24 日とし、学習支援システムに第 1 回の課題を提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	自己紹介	ガイダンスのあと、動詞の現在人称変化と動詞の位置、人称代名詞の格変化を復習しながら、自己紹介する会話を読む。
2	地理と気候	冠詞の格変化に注意しながら、ドイツ語圏の位置と気候についての文章を読む。
3	食生活	前置詞に注意しながら、ドイツの代表的な料理と飲み物についての文章を読む。
4	ドイツ語という言語	ドイツ語という言語の系統を知るために、解説文を読む。
5	ドイツ語圏の偉人たち	ベスタロツィやマックス・ヴェーバーなどについての文章を読む。
6	ドイツの大学	ドイツの大学と学生たちの現状を概観する文章を読む。
7	話法の助動詞	話法の助動詞について復習しながら、与えられた語を使って文を作る練習をする。
8	祝日と休暇	主な祝日について概観し、余暇の過ごしたかについての文章を読む。
9	形容詞の付加語適用法と名詞化	形容詞の格変化を復習し、変化語尾を補いながら、練習問題の文を読む。
10	ドイツの治安事情	ドイツの治安と市民感情についての文章を読む。
11	形容詞の比較表現	形容詞を比較級・最上級にししながら、ヨーロッパや日本の治安に関する文を読む。
12	教育制度	ドイツの教育制度とその特色についての文章を読む。
13	分離動詞と再帰動詞	与えられた分離動詞や再帰動詞を使って、教育や学校についての文を作る。
14	期末試験	試験、まとめと解説を行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。  
 テキストを事前に読み、演習問題を予習して準備する。  
 授業後、正答が出せなかった箇所に重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

## 【テキスト (教科書)】

「知りたいドイツ語～読みながらステップアップ」、Siegfried Kohlhammer・Taro Saito 著、朝日出版社、2018 年、本体 2300 円

## 【参考書】

指定しない

## 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

成績の内訳は、平常点 (数回の課題提出) 60%、レポート課題 15%、期末の課題 25%とする。

読解力がどの程度アップしたかを 2 回のレポート課題 (テキストのレジュメ、および日本との比較を 10 文程度のドイツ語にまとめる) と期末の課題で確かめる。

実力をつけるには日ごろの努力が欠かせないので、提出課題に見る不断の学習状況を平常点で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【Outline and objectives】

Improve reading comprehension by means of various texts on Germany and become more familiar with actualities in Germany and Europe.

SOC500E1 - 0308

## 外国書講読2（独語）

三浦 美紀子

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマの文章を丁寧に読んで、読解力を増強し、ドイツ語圏事情をより詳しく理解する。

## 【到達目標】

50 行程度のまとまったテキストを丁寧に読むことができる。  
 テキストの内容を理解したかどうかをチェックするため、ドイツ語の質問文に答えることができる。  
 穴埋め、文の書き換えといった文法問題を解いて、文法力をさらにアップさせる。  
 テキストと文法問題の文から、ドイツ語圏の現状について、グローバルな視点から理解し、説明することができる。  
 テキストの内容をまとめ、日本と比較して、ドイツ語の文で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教科書と音声教材を用いた演習形式。原則的に、講読するテキストは学生が分担して読んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	政治制度	ドイツと日本の議会制度の仕組みとその違いについての文章を読む。
2	受動態と zu 不定詞	与えられた語を用いて、受動の文や zu 不定詞を使った文を作る。
3	ドイツの歴史概観	ゲルマン民族移動以後、神聖ローマ帝国やフランス革命の影響を経て、ドイツ帝国成立、ナチス政権までの歴史について読む。
4	過去形と現在完了形	過去形と現在完了形を使って、2017 年に至るまでのドイツの出来事を表す文を作る。
5	音楽の国ドイツ	ドイツにオーケストラ等の音楽機関が多い理由と公的支援に関する文章を読む。
6	副文	与えられた文を副文にして、ドイツと日本の日常生活を説明する文を作る。
7	ドイツに宗教事情	ルターによる宗教改革、プロテスタントとカトリック信者の分布、現在の宗教事情についての文章を読む。
8	関係代名詞	定関係代名詞と不定関係代名詞を使った文を訳していく。
9	二つのドイツ	1945 年の全面降伏から 1990 年の再統一に至るまで、第二次大戦後のドイツ史について読む。
10	分詞の用法と冠飾句	現在分詞と過去分詞を形容詞として用いた文と、ジャーナリズムや文学作品の講読に欠かせない「冠飾句」について学ぶ。
11	EU とドイツ	EU 成立の歴史とドイツが果たした役割についての文章を読む。
12	接続法	接続法第 1 式と 2 式の作り方と用法の関係を把握して、その用法にかなった訳し方を学ぶ。
13	ドイツの外国人、難民、移民	第 2 次大戦後の経済復興期から現在に至るまで、ドイツにやってきた人々の流れをたどる文章を読む。
14	期末試験	試験、まとめと解説を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。  
 テキストを事前に読み、演習問題を予習して準備する。  
 授業後、正答が出せなかった箇所に重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

## 【テキスト（教科書）】

「知りたいドイツ語～読みながらステップアップ～」、Siegfried Kohlhammer・Taro Saito 著、朝日出版社、2018 年、本体 2300 円

## 【参考書】

指定しない

## 【成績評価の方法と基準】

成績の内訳は、期末試験 50%、レポート課題 20%、平常点 30%（授業での学習状況、参加度）とします。

読解力がどの程度アップしたかを期末試験と 3 回のレポート課題で確かめます。

レポート課題は、テキストのレジュメ、および日本との比較を 10 文程度のドイツ語にまとめる提出物です。

実力をつけるには日ごろの努力が欠かせませんから、予習を含めた不断の学習状況を平常点で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【Outline and objectives】

Improve reading comprehension by means of various texts on Germany and become more familiar with actualities in Germany and Europe.

SOC500E1 - 0307

## 外国書講読1（中国語）

大崎 雄二

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍、雑誌、新聞等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

## 【到達目標】

1. ローマ字（ピンイン）は補助的な使用のみにしていく
2. 文成分の分析が正確にできる
3. 文章語独自の表現や構造等に慣れる
4. 辞書を引くことに習熟しながら「類推する力」を涵養する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

主語、述語、修飾語、補語等の文成分や文構造の分析を徹底しながら文章を正確に理解する練習を重ねる。最初はローマ字（ピンイン）付きのテキストを用いるが、常用語から段階的にテキストのピンインは消去していく。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	精読の基礎（1）	文成分／構造分析① 主語
2	精読の基礎（2）	文成分／構造分析② 述語
3	精読の基礎（3）	文成分／構造分析③ 連体修飾語
4	精読の基礎（4）	文成分／構造分析④ 連用修飾語
5	精読の基礎（5）	文成分／構造分析⑤ 補語
6	精読の基礎（6）	文成分／構造分析⑥ その他の文成分
7	精読の基礎（7）	辞書を使いこなす①
8	精読の基礎（8）	辞書を使いこなす② web の活用
9	精読の基礎（9）	辞書にない単語の検索
10	精読の基礎（10）	辞書にない事項の検索
11	文章の精読（1）	現代中国を読み解く①
12	文章の精読（2）	現代中国を読み解く②
13	文章の精読（3）	現代中国を読み解く③
14	文章の精読（4）	現代中国を読み解く④

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 確実な予習
2. 「中級」までの文法の系統的復習
3. 新聞、雑誌、web 等の記事検索
4. 関連項目の調査、読書等

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

## 【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

## 【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価する。公正で的確な評価の具体的な方法については、皆で改めて検討してみたい。

## 【学生の意見等からの気づき】

「この授業を履修してよかったと思う」100%の維持を目標に、全員の満足度の高い情報提供と訓練の場を構築していきたい。

## 【その他の重要事項】

せっかく「初級」、「中級」と積み上げてきた中国語、もう一踏ん張りして、仕事や研究で実際に「使える中国語」に取り組んでほしい。「上級」とはいえ、専攻課程ならば基礎を終えた2年次程度の内容である。

将来の留学や研究、業務に役立てるため本格的に読解力の向上に取り組みたい好奇心旺盛な学生は大歓迎。漢語文化圏における「現在進行形」の政治や経済、社会、文化に興味をもち、記事をもとに全員で活発な議論が展開できることを期待している。

## 【Outline and objectives】

Advanced Chinese (Reading)

## 外国書講読2（中国語）

大崎 雄二

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍、雑誌、新聞等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

## 【到達目標】

「1」で培った力をもとに新聞、雑誌、書籍などの文章の読解をおこなう。授業では、

1. 長く難解な文の読解（文成分、文の構造分析の徹底）
2. 辞書に載っていない新語や表現の解釈のための情報収集等の共同作業を通してさらに実力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

新聞や雑誌、書籍の文章の読解を通じ、「言語の翻訳」だけでなく背景理解＝「文化や制度の翻訳」にまで踏み込み、常用、慣用的表現にも習熟していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	時事的な文章の精読（1）	文成分、構造分析をしながらの精読（1）
2	時事的な文章の精読（2）	文成分、構造分析をしながらの精読（2）
3	時事的な文章の精読（3）	文成分、構造分析をしながらの精読（3）
4	時事的な文章の精読（4）	文成分、構造分析をしながらの精読（4）
5	時事的な文章の精読（5）	文成分、構造分析をしながらの精読（5）
6	時事的な文章の精読（6）	文成分、構造分析をしながらの精読（6）
7	時事的な文章の精読（7）	文成分、構造分析をしながらの精読（7）
8	多読、速読（1）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（1）
9	多読、速読（2）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（2）
10	多読、速読（3）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（3）
11	多読、速読（4）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（4）
12	多読、速読（5）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（5）
13	多読、速読（6）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（6）
14	多読、速読（7）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（7）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 確実な予習
  2. 「中級」までの文法の系統的復習
  3. 新聞、雑誌、web等の記事検索
  4. 関連項目の調査、読書等
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

学生の興味やレベルに合わせて教材を考え、プリントで配布する。

## 【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learningには、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

## 【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価する。公正で的確な評価の具体的な方法については、皆で改めて検討してみたい。

## 【学生の意見等からの気づき】

「この授業を履修してよかったと思う」100%の維持を目標に、全員の満足度の高い情報提供と訓練の場を構築していきたい。最新の集計結果については最初の時間に回覧する。

## 【その他の重要事項】

辞書を丹念に引きながら文成分を確認していくという地道な努力を重ねていくうちに、WEB上の記事や新聞などがだんだんとよくわかるようになり、自分でも驚くほどの力がついていることある日突然気が付くはず。一日も早いその日の到来をお楽しみに！

## 【Outline and objectives】

Advanced Chinese (Reading)

SOC500E1 - 0309

**社会学原典講読**

徳安 彰

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

宗教社会学の古典であるピーター・L・バーガーの『聖なる天蓋』をテキストにして、原典講読を行う。原典の講読をととして、宗教の社会的な捉え方と近代社会における宗教のあり方についての理解を深める。

**【到達目標】**

原典講読を通して、社会的な宗教の捉え方の基礎を理解できるようになる。それと同時に、近現代社会における宗教のあり方について、みずから社会的に考え、理解することができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

受講者が、原典テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する。報告にもとづいて、受講者全員で質疑応答や討議を行う。また必要に応じて、派生的なテーマについても、受講者が学習と報告を行い、全体の討議に資するようにする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ピーター・バーガーと宗教社会学の導 入的概説
第2回	講読(1)	第1章前半
第3回	講読(2)	第1章後半
第4回	講読(3)	第2章前半
第5回	講読(4)	第2章後半
第6回	講読(5)	第3章前半
第7回	講読(6)	第3章後半
第8回	講読(7)	第4章前半
第9回	講読(8)	第4章後半
第10回	講読(9)	第5章前半
第11回	講読(10)	第5章後半
第12回	講読(11)	第6章
第13回	講読(12)	第7章+補論
第14回	まとめ	全員による総括的討議

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

ピーター・L・バーガー『聖なる天蓋』ちくま学芸文庫（2018年）

受講希望者は自分でテキストを購入しておくこと。

**【参考書】**

とくに指定はせず、必要に応じて授業内で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（70%）：テキストの担当部分の報告の質、派生的なテーマについての報告の質、および各回の討議への参加・貢献度によって評価する。

レポート（30%）：原典講読にもとづく課題レポートの内容によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

テキストの講読の仕方を指導することによって、受講生のテキスト理解が深まるようにしたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

とくになし

**【その他の重要事項】**

とくになし

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>社会システム理論

<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム

<主要研究業績>学術研究データベースを参照

**【Outline and objectives】**

We read "The Sacred Canopy: Elements of Sociological Theory of Religion" (by Peter L. Berger) chapter by chapter. We focus on the sociological understanding of religion and the position and situation of religion(s) in the modern society.

SOC500E1 - 0309

## 社会学原典講読

小林 直毅

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生権力」だけにはとどまらず、『臨床医学の誕生』や『知の考古学』などの著作となって現れた Michel Foucault の思想を源流とする「身体の社会学」の成果と課題を、この分野の基本的文献を読み解くことで考察する。

### 【到達目標】

20 世紀後半以降の社会学の思想的展開とその優れた実践的成果のひとつとして「身体の社会学」を、「生権力」「身体」「言説」「知」「近代」「文化」「政治」「メディア」といった多角的視点から理解し、考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

### 【授業の進め方と方法】

今日では「身体の社会学」の原典ともいえるもっとも基本的な文献のひとつである、Bryan S. Turner (2008) *The Body and Society: Explorations in Social Theory, Third Edition*, Sage Publications. を講読する。毎回の授業では、参加者が各自の関心に応じてテキストの章を分担し、それぞれの内容のレジュメを準備して報告、討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	現代の社会学思想の成り立ちを考える。
第 2 回	The Mode of Desire	テキストの第 1 章を講読し、討論する。
第 3 回	Sociology and the Body	テキストの第 2 章を講読し、討論する。
第 4 回	The Body and Religion	テキストの第 3 章を講読し、討論する。
第 5 回	Bodily Order	テキストの第 4 章を講読し、討論する。
第 6 回	Eve's Body	テキストの第 5 章を講読し、討論する。
第 7 回	The End of Patriarchy?	テキストの第 6 章を講読し、討論する。
第 8 回	The Disciplines	テキストの第 7 章を講読し、討論する。
第 9 回	Government of the Body	テキストの第 8 章を講読し、討論する。
第 10 回	Disease and Disorder	テキストの第 9 章を講読し、討論する。
第 11 回	Ontology of Difference	テキストの第 10 章を講読し、討論する。
第 12 回	Bodies in Motion	テキストの第 11 章を講読し、討論する。
第 13 回	The Body and Boredom	テキストの第 12 章を講読し、討論する。
第 14 回	Epilogue: Vulnerability and Values	テキストの第 13 章を講読し、討論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

Bryan S. Turner (2008) *The Body and Society: Explorations in Social Theory, Third Edition*, Sage Publications.

### 【参考書】

Alan Petersen and Robin Bunton (eds.) (1997) *Foucault, Health and Medicine*, Routledge.

Deborah Lupton (2012) *Medicine as Culture: Illness, Disease and the Body, Third Edition*, Sage Publications.

### 【成績評価の方法と基準】

分担報告、討論における達成度で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003 年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003 年）

『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004 年）

『水俣学講義【第 2 集】』（共著、日本評論社、2005 年）

『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006 年）

『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007 年）

『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007 年）

『ポピュラー TV』（共著、風塵社、2009 年）

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育

への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012 年）

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013 年）

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014 年）

『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018 年）

### 【Outline and objectives】

Graduate students will be able to read and understand the basic literature of sociology of body originating from Foucault's thought.

SOC600E1 - 0100

**論文指導 1**

社会学専攻専任教員

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.



## 論文指導 1

荒井 容子

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.

SOC600E1 - 0100

**論文指導 1**

大崎 雄二

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1,2回	研究の基礎 (1)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第3,4回	研究の基礎 (2)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第5,6回	研究の基礎 (3)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第7,8回	研究の基礎 (4)	先行研究および資料/データ収集の方法、レジュメ/論文の作成方法
第9,10回	研究テーマの設定 (1)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第11,12回	研究テーマの設定 (2)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第13,14回	研究テーマの設定 (3)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第15,16回	研究テーマの設定 (4)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第17,18回	研究方法の習熟 (1)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第19,20回	研究方法の習熟 (2)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第21,22回	研究方法の習熟 (3)	調査・研究方法の習熟、資料/データの収集と調査の実践
第23,24回	論文執筆とその検討 (1)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第25,26回	論文執筆とその検討 (2)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第27,28回	論文執筆とその検討 (3)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設け、その達成度を100%として評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.

## 論文指導 1

岡野内 正

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。>

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.

SOC600E1 - 0100

**論文指導 1**

慎 蒼宇

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.

## 論文指導 1

鈴木 智之

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.

SOC600E1 - 0100

**論文指導 1**

田嶋 淳子

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本論文指導は zoom により 4 月 23 日より開始します。指導を希望する学生は必ず事前に仮登録の上、担当教員まで連絡を下さい。指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の基礎 (1)	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 2 回	研究の基礎 (2)	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 3 回	研究の基礎 (3)	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 4 回	研究の基礎 (4)	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 5 回	研究テーマの設定 (1)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第 6 回	研究テーマの設定 (2)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第 7 回	研究テーマの設定 (3)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第 8 回	研究テーマの設定 (4)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第 9 回	研究方法の習熟 (1)	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 10 回	研究方法の習熟 (2)	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 11 回	研究方法の習熟 (3)	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 12 回	論文執筆とその検討 (1)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第 13 回	論文執筆とその検討 (2)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第 14 回	論文執筆とその検討 (3)	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.

## 論文指導 1

徳安 彰

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の開始日は4月21日（火）とする。

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論

<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム

<主要研究業績>学術研究データベースを参照

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.

SOC600E1 - 0100

**論文指導 1**

藤田 真文

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.



## 論文指導 1

別府 三奈子

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャーナリズム研究領域の修士論文を執筆するための手法を学ぶ。

### 【到達目標】

指導教員の下で、修士論文を完成させるために必要な調査と分析を積み重ねる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

担当教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」は修士論文作成過程の一例である。各院生のテーマ、手法、進捗を見ながら指導方法を調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジюме／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジюме／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジюме／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジюме／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

研究テーマに即して、指導教員が指定する。

### 【参考書】

『社会科学の考え方』野村康、名古屋大学出版会、2017年  
『マス・コミュニケーション研究』デニス・マクウェール著、慶応義塾大学出版会、2010年

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

テーマに合わせて、必要に応じて助言する。

### 【その他の重要事項】

本講座は、学部学位論文、または同等の研究論文を書いたことがある修士課程1年生を対象とする。研究対象は、社会問題の解決に向けたメディア活動に関わるものとする。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis in the journalism research area.

SOC600E1 - 0100

**論文指導 1**

鈴木 智道

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.

## 論文指導 1

稲増 龍夫

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第8回	研究テーマの設定（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第9回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第10回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第11回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第12回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第13回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第14回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to complete a master thesis.

SOC600E1 - 0101

**論文指導2****社会学専攻専任教員****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis.

SOC600E1 - 0101

**論文指導2**

小林 直毅

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis.

SOC600E1 - 0101

**論文指導2**

慎 蒼宇

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis.

## 論文指導2

鈴木 智之

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

## 【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

## 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis.

SOC600E1 - 0101

**論文指導2**

田嶋 淳子

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis.



## 論文指導2

藤代 裕之

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis.

SOC600E1 - 0101

**論文指導2**

藤田 真文

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis.

## 論文指導2

堅田 香緒里

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis.

SOC600E1 - 0101

**論文指導2**

土橋 臣吾

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis.

## 論文指導2

宇野 齊

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

## 【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

通年科目であるが、隔週開講を原則とする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認(1)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認(2)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認(3)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認(4)	資料/データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善(1)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善(2)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善(3)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第8回	研究発表による構想の改善(4)	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第9回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第10回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第11回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第12回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第13回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第14回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

## 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis.

SOC700E1 - 0100

**博士論文指導 I A****社会学専攻専任教員****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

## 博士論文指導 I A

津田 正太郎

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0100

## 博士論文指導 I A

諸上 茂光

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

## 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

## 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.



## 博士論文指導 I B

### 社会学専攻専任教員

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

#### 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

#### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

#### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0101

## 博士論文指導 I B

津田 正太郎

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

## 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

## 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

## 博士論文指導 I B

諸上 茂光

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0102

**博士論文指導Ⅱ A****社会学専攻専任教員****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文の執筆を開始する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

## 博士論文指導Ⅱ A

鈴木 智之

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文の執筆を開始する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0103

**博士論文指導ⅡB****社会学専攻専任教員****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文を、年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

## 博士論文指導ⅡB

鈴木 智之

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程2年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文を、年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0104

**博士論文指導Ⅲ A****社会学専攻専任教員****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

**【到達目標】**

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

**【テキスト（教科書）】**

指導教員が指定する。

**【参考書】**

必要に応じて指導教員が紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.



## 博士論文指導Ⅲ A

岡野内 正

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。>

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0104

## 博士論文指導Ⅲ A

慎 蒼宇

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

## 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

## 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

## 博士論文指導Ⅲ A

鈴木 智道

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0104

## 博士論文指導Ⅲ A

鈴木 智之

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

## 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

## 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

## 博士論文指導Ⅲ A

徳安 彰

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業の開始日は4月21日（火）とする。

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論

<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム

<主要研究業績>学術研究データベースを参照

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0105

## 博士論文指導Ⅲ B

## 社会学専攻専任教員

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

## 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

## 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

## 博士論文指導Ⅲ B

岡野内 正

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。>

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0105

## 博士論文指導Ⅲ B

慎 蒼宇

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

## 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

## 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.



## 博士論文指導Ⅲ B

鈴木 智道

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

### 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

### 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

### 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0105

## 博士論文指導Ⅲ B

鈴木 智之

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

## 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導(1)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導(2)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導(3)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導(4)	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導(1)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導(2)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導(3)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導(4)	調査・研究方法および資料/データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(1)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(2)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導(3)	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導(1)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導(2)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導(3)	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

## 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

## 博士論文指導Ⅲ B

徳安 彰

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

## 【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

## 【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

## 【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論  
 <研究テーマ>グローバル化の中の社会システム  
 <主要研究業績>学術研究データベースを参照

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis.

SOC700E1 - 0200

**社会学総合演習 A****専任教員****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士後期課程の学生が、査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れてまとめた研究論文を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究論文執筆のスキルを高めることを目的としている。また、参加する院生がお互いの研究論文を検討することを通じて、研究論文執筆のスキルを相互に学ぶ機会とする。

**【到達目標】**

査読付きの学術雑誌への論文掲載や学会での研究発表に向けて研究論文を執筆し、その内容を報告し、フィードバックを得る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れて作成した研究論文を報告する「投稿論文検討会」を、7月中旬頃に開催する。履修学生は事前の所定期限（6月末を予定）までに、当日検討する研究論文を担当教員に提出すること。投稿論文検討会までの論文作成指導は指導教員が、それ以後の論文改善指導は「模擬査読」担当がおこなう。履修対象は博士後期課程の大学院生であるが、それ以外の大学院生にも参加を奨励する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】****春学期集中**

回	テーマ	内容
第1回	論文作成指導(1)	指導教員による
第2回	論文作成指導(2)	指導教員による
第3回	論文作成指導(3)	指導教員による
第4回	論文作成指導(4)	指導教員による
第5回	論文作成指導(5)	指導教員による
第6回	投稿論文検討会	1 時限
第7回	投稿論文検討会	2 時限
第8回	投稿論文検討会	3 時限
第9回	投稿論文検討会	4 時限
第10回	投稿論文検討会	5 時限
第11回	論文改善指導(1)	模擬査読担当者による
第12回	論文改善指導(2)	模擬査読担当者による
第13回	論文改善指導(3)	模擬査読担当者による
第14回	論文改善指導(4)	模擬査読担当者による

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし

**【参考書】**

特になし

**【成績評価の方法と基準】**

総合演習用に提出された研究論文と当日の報告内容を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし

**【Outline and objectives】**

The purpose of this seminar is to help doctoral students improve their research and writing skills for peer reviewed papers. Each participant is expected to give advice to other students as well as learn from the teaching staff's advice.

## 社会学総合演習 B

### 専任教員

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆にむけて、博士後期課程の学生が自分の博士論文の構想を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究を進めることを目的としている。また、参加する院生が相互にそれぞれの問題意識や研究方法から学ぶ機会とする。

#### 【到達目標】

先行研究を踏まえ、自身の問題意識を明確化し、研究内容について理解を深め、研究のさらなる進展またはよりよい研究の成果にむけて検討を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

博士論文の構想を報告する「博論構想報告会」を1月下旬頃に開催する。履修学生は事前の所定期限（12月下旬を予定）までに、報告タイトルを担当教員に提出すること。博論構想報告会の前の博論構想指導、報告会の後の博論執筆指導は、いずれも指導教員がおこなう。履修対象は博士後期課程の大学院生であるが、それ以外の大学院生にも参加を奨励する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】

##### 秋学期集中

回	テーマ	内容
第1回	博論構想指導(1)	指導教員による
第2回	博論構想指導(2)	指導教員による
第3回	博論構想指導(3)	指導教員による
第4回	博論構想指導(4)	指導教員による
第5回	博論構想指導(5)	指導教員による
第6回	博論構想報告会	1時限
第7回	博論構想報告会	2時限
第8回	博論構想報告会	3時限
第9回	博論構想報告会	4時限
第10回	博論構想報告会	5時限
第11回	博論執筆指導(1)	指導教員による
第12回	博論執筆指導(2)	指導教員による
第13回	博論執筆指導(3)	指導教員による
第14回	博論執筆指導(4)	指導教員による

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし

#### 【参考書】

特になし

#### 【成績評価の方法と基準】

博論構想報告会当日の内容を評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to help doctoral students finish their Ph.D. dissertation. Each participant is expected to report his/her plan for the dissertation and improve it by advice from teaching staff and other students.

SOC500E1 - 0200

## 社会学研究 1

ジョージ・ハン

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class, we will explore the world of English rhetoric, the art of effective communication. Understanding how people communicate is empowering to both readers and creators of texts. We will examine the ways in which others communicate and will critically analyze the methods they use so we can judge the effectiveness of their arguments. As you learn what works and what doesn't work in creating an effective argument in English, you will focus on applying those lessons within your own writing so that you may become an effective producer of English texts yourself.

## 【到達目標】

- Summarizing/paraphrasing others' ideas.
- Reflecting and analyzing ideas.
- Responding to other's ideas.
- Reading critically.
- Understanding the components of an argument.
- Understanding the structure of an argument.
- Reasoning for or against a claim.
- Presenting ideas from external sources.
- Synthesizing multiple sources.
- Formulating and presenting an original argument.
- Supporting your argument with evidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

The primary focus of this course is on clarity, organization, rhetorical patterns, style, and overall good writing practices in academic English. Students will also be expected to maintain a reading journal based on the readings provided by the instructor (from William Zinsser's *On Writing Well*). Each reading will be read outside of class and discussed together in groups and/or as a whole class. The essay writing in this class will utilize the process approach. Students will produce multiple drafts of each essay with each subsequent draft incorporating suggestions/revisions from classmates and/or the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance/Introductions	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Syllabus and course explanation</li> <li>• General essay structure</li> <li>• Rd. Jackie Robinson's <i>Free Minds and Hearts at Work</i></li> <li>• <i>Free Minds and Hearts at Work</i> class discussion</li> <li>• Draft 1</li> </ul>
第 2 回	Summary & Response	<ul style="list-style-type: none"> <li>• How to write a summary and response</li> <li>• Peer review - What kind of things should we look for in ours and our classmates' writing?</li> <li>• Rd. Zinsser Chs. 1-2</li> <li>• Draft 2</li> </ul>
第 3 回	Summary & Response continued	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Discuss Zinsser Chs. 1-2</li> <li>• Comma usage</li> <li>• Summary &amp; Response Final Draft</li> </ul>
第 4 回	Critique Essay	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rd. Zinsser Chs. 3-4</li> <li>• Discuss Zinsser Chs. 3-4</li> <li>• Cutting clutter</li> <li>• Rd. Kaplan's <i>Cultural Thought Patterns in Inter-Cultural Education</i></li> <li>• Find and read an article about contrastive and/or intercultural rhetoric</li> <li>• Introduce your article (summary and response)</li> </ul>

第 5 回	Critique Essay continued	<ul style="list-style-type: none"> <li>• What is a critique and how to write one</li> <li>• Discuss Kaplan</li> <li>• When to use passive/active voice</li> <li>• Rd. Zinsser Chs. 5-7</li> <li>• Draft 1</li> </ul>
第 6 回	Critique Essay continued	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Discuss Zinsser Chs. 5-7</li> <li>• Citing sources (APA format)</li> <li>• Logos, Pathos, Ethos</li> <li>• Draft 2</li> </ul>
第 7 回	Research Paper	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Logical fallacies</li> <li>• Final draft</li> </ul>
第 8 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Logical fallacies continued</li> <li>• Organization of a research paper</li> <li>• Rd. Zinsser Chs. 8-9</li> </ul>
第 9 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Synthesizing sources</li> <li>• Discuss Zinsser Chs. 8-9</li> <li>• Draft 1</li> </ul>
第 10 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Peer Review</li> <li>• Draft 2</li> </ul>
第 11 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Peer Review</li> <li>• Final Draft</li> </ul>
第 12 回	Poster Presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Preparing a poster presentation</li> </ul>
第 13 回	Poster Presentation continued	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Work on poster presentations</li> </ul>
第 14 回	Poster Presentation continued	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Poster presentations</li> </ul>

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Course readings; essay writing; presentation preparation

## 【テキスト（教科書）】

Materials provided by instructor

## 【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

## 【成績評価の方法と基準】

Summary & Response Essay: 20%

Critique Essay: 25%

Research Essay: 25%

Poster Presentation: 20%

Class Discussions: 10%

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>英語教育学

<研究テーマ> CALL; Drama in Language Education

<主要研究業績>

## 【Outline and objectives】

In this class, we will explore the world of English rhetoric, the art of effective communication. Understanding how people communicate is empowering to both readers and creators of texts. We will examine the ways in which others communicate and will critically analyze the methods they use so we can judge the effectiveness of their arguments. As you learn what works and what doesn't work in creating an effective argument in English, you will focus on applying those lessons within your own writing so that you may become an effective producer of English texts yourself.

## 社会学研究2

多田 光宏

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フェイクニュースやナショナリズム、エコロジー運動などに典型的に見られるような昨今の社会分裂を念頭に、社会システム理論などの文献（日本語および諸外国語）の精読を通じて、社会の創発特性（存在論）と、リアリティの社会的構築（認識論）との、双方の機制を理解することを目指します。さらにこれを通じて、付随的に、知識社会学的な分析視角も学びます。

## 【到達目標】

優れた博士論文の執筆を目指す学生が、難解で抽象的な社会学理論の文献でも正確かつ粘り強く読みこなせるようになり、それをもって得られた知見により、自身の研究テーマをより複眼的かつ重層的に分析できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

演習形式による文献精読とそれを踏まえたディスカッションで授業を進めます。参加者全員でいっしょに指定の文献を読みますが、必要に応じて、参加者が各人の具体的な関心にもとづいて授業内で発表をおこなってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期集中

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の趣旨や進め方などを説明します。
第2回	社会システムの創発特性の機制1	テキスト①の購読
第3回	社会システムの創発特性の機制2	テキスト①の購読
第4回	社会システムの創発特性の機制3	テキスト①の購読
第5回	リアリティの社会的構築の機制1	テキスト②の購読
第6回	リアリティの社会的構築の機制2	テキスト②の購読
第7回	リアリティの社会的構築の機制3	テキスト②の購読
第8回	リアリティの社会的構築の機制4	テキスト②の購読
第9回	リアリティの社会的構築の機制5	テキスト②の購読
第10回	社会的リアリティの分裂の機制1	テキスト③の購読
第11回	社会的リアリティの分裂の機制2	テキスト③の購読
第12回	社会的リアリティの分裂の機制3	テキスト③の購読 テキスト④の購読
第13回	社会的リアリティの分裂の機制4	テキスト④の購読
第14回	総括討論	本授業で学んだ理論的知見を踏まえて各自の研究テーマを分析し、現代社会の構成と現状についての討論をおこないます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

なおとくにテキスト①については、初回授業までに各自で丁寧に読み通しておいてください（比較的平易かつ短い論文です。ドイツ語オリジナル版か英訳版かは各自で好きなほうを選んで構いません。授業時には外国語辞書も持参のこと）。

## 【テキスト（教科書）】

以下のテキストを予定します。各自で事前に入手して授業に持参してください（①については上の「授業時間外の学習」も参照してください）。

① Luhmann, Niklas.[1987] 1995, "Was ist Kommunikation?" *Soziologische Aufklärung Bd.6: Die Soziologie und der Mensch*, Opladen: Westdeutscher Verlag 1995, 113-124.(=1992, "What is Communication?" *Communication Theory*, 2(3): 251-259.)

②ニクラス・ルーマン『エコロジーのコミュニケーション——現代社会はエコロジーの危機に対応できるのか』新泉社（庄司信訳 2007年）。

③アルフレッド・シュッツ「平等と社会的世界の意味構造」『アルフレッド・シュッツ著作集 第3巻 社会学理論の研究』マルジュ社（渡部光・那須壽・西原和久訳 1991年）、305-364頁。

④ジグムント・バウマン「移動する私たちの分断～健やかなるときも病めるときもつねにともに」『グローバリゼーション——人間への影響』法政大学出版局（澤田眞治・中井愛子訳 2010年）、119-144頁。

## 【参考書】

1) 多田光宏, 2013, 『社会的世界の時間構成——社会学的现象学としての社会システム理論』ハーベスト社。

2) 多田光宏, 2016, 「リスク社会（U.ベック）」西村大志・松浦雄介編『映画は社会学する』法律文化社, 231-242頁。

3) Tada, Mitsuhiro, [2018] 2019, "Time as Sociology's Basic Concept: A Perspective from Alfred Schutz's Phenomenological Sociology and Niklas Luhmann's Social Systems Theory," *Time & Society*, 28(3): 995 - 1012.

4) ニクラス・ルーマン『プロテスト——システム理論と社会運動』新泉社（徳安彰訳 2013年）。

5) エリック・ホブズボーム『20世紀の歴史——両極端の時代（上・下）』筑摩書房（大井由紀訳 2018年）。

ほか、適宜教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内での発表、読読とその予習復習、討論への参加などにおいて、その程度と質とを総合的に評価します（100%）。なお、欠席が3回を超えた場合や、担当の発表などをおこなわなかった場合は、原則として単位は認定しません。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目（集中講義）につきアンケートを実施していません。

## 【その他の重要事項】

あらかじめ社会学の基礎知識を習得していることが望ましい。

## 【担当教員の専門分野等】

社会学

## 【専門領域】

社会学理論、現代社会論、ナショナリズム問題、知識社会学、社会学史

## 【主要研究業績①】

多田光宏, 2020, 「無知の無知を超えて——社会学から見た国民国家と教育」(forth coming).

## 【主要研究業績②】

Tada, Mitsuhiro, 2018, "Language, Ethnicity, and the Nation-State: On Max Weber's Conception of 'Imagined Linguistic Community,'" *Theory and Society*, 47(4): 437-466.

## 【主要研究業績③】

多田光宏, 2016, 「東日本大震災と福島第一原発事故から遠く離れて——『自主避難者』に関する熊本大学文学部での社会調査実習」『社会と調査』一般社団法人社会調査協会, 17: 97-103.

## 【Outline and objectives】

In this course, participants aim to improve their level of understanding about the emergent property of society and the social construction of reality through in-depth class-reading of sociological-theoretical works (e.g., social systems theory and sociology of knowledge). In this way, they will acquire the ability to adequately analyze today's social discrepancies, which are typically seen in social phenomena like fake news, nationalism, or the ecology movement.

SOC500E1 - 0202

## 社会学研究3

飯田 豊

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「新しい〇〇が△△を変える」という言い回しが、世の中には色々ある。たとえば、ビッグデータが経済を変える、AIが仕事を変える、デジタル教科書が教育を変えるなど、特にデジタルメディアに関する事例は枚挙にいとまがない。だが、何か“新しいメディア”に興味があったとして、それを深く知ろうと思えば、既にある（＝相対的に古い）メディアの技術特性と比べながら考えざるをえない。したがって、メディアについて理解するうえで、技術史の思考法はきわめて有用である。電話やラジオ、テレビが日常生活と不可分に結びついた20世紀を経て、インターネットやスマートフォンが普及した現在、メディアと人間、あるいは技術と社会の関係はどのように変わってきたのだろうか。この授業では、われわれの日常に根ざしたさまざまなメディア技術の成り立ちに目を向け、その将来までを展望する。

## 【到達目標】

- ①近代社会におけるメディア・コミュニケーションの発展が、どのようにして技術的に実現されてきたのかを高度に理解し、それを適切に説明できるようになる。
- ②「メディア」と「技術」の相互関係を高度に理解し、それを適切に説明できるようになる。
- ③メディアの技術変容と不可分に関わりながら発展してきたメディア論、情報社会論の方法論を理解し、それを適切に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

テキスト（教科書）に即して、下記のスケジュールにもとづいて講義をおこなうが、受講者によるスモールグループディスカッションや口頭発表を取り入れ、議論を深めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

## 春学期集中

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	メディア技術史とは何か
第2回	技術としての書物	紙の本 VS 電子本への古くて新しい回答
第3回	写真はどこにあるのか	イメージを複製するテクノロジー
第4回	映画の歴史を巻き戻す	現代のスクリーンから映像の幼年時代へ
第5回	音楽にとっての音響技術	歌声の主はどこにいるのか
第6回	声を伝える／技術を楽しむ(1)	電話のメディア史
第7回	声を伝える／技術を楽しむ(2)	ラジオのメディア史
第8回	テレビジョンの初期衝動(1)	「遠く(tele)を視ること(vision)」の技術史 戦前・戦中期
第9回	テレビジョンの初期衝動(2)	「遠く(tele)を視ること(vision)」の技術史 戦後期
第10回	ローカルメディアの技術変容(1)	初期ケーブルテレビの考古学
第11回	ローカルメディアの技術変容(2)	「ポストメディア」の考古学
第12回	文化としてのコンピュータ	その「柔軟性」はどこからきたのか
第13回	開かれたネットワーク	インターネットをつくったのは誰か
第14回	誰のための技術史？	アマチュアリズムの行方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。テキスト（教科書）を事前に読んでおくこと。各自の関心に応じて、参考書に目を通しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

飯田豊編著『メディア技術史：デジタル社会の系譜と行方〔改訂版〕』北樹出版、2017年、2090円

## 【参考書】

エルキ・フータモ『メディア考古学：過去・現在・未来の対話のために』太田純貴訳、NTT出版、2015年  
 キャロリン・マーヴィン『古いメディアが新しくなった時：19世紀末社会と電気テクノロジー』新曜社、2003年  
 佐藤俊樹『社会は情報化の夢を見る：〔新世紀版〕ノイマンの夢・近代の欲望』河出文庫、2010年  
 佐藤卓己『現代メディア史 新版』岩波書店、2018年

## 【成績評価の方法と基準】

受講者自身の研究関心を踏まえたレポート課題に加え、授業に対する参加の度合を考慮し、総合的に判断する。

具体的な評価の配分は、レポート（50%）、授業に対する参加の度合い（50%）とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業内でのディスカッションと授業後のコミュニケーション・ペーパーを通して、受講者の意見・問題関心を把握する。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア論、メディア技術史、文化社会学

<研究テーマ>

メディアの技術的な成り立ちを踏まえて、これからのあり方を構想することに関心があり、歴史的な分析と実践的な活動の両方に取り組んでいます。

<主要研究業績>

飯田豊『テレビが見世物だったころ：初期テレビジョンの考古学』青弓社、2016年

飯田豊『メディア論の地層：1970 大阪万博から 2020 東京五輪まで』勁草書房、2020年

飯田豊・立石祥子編著『現代メディア・イベント論：パブリック・ビューイングからゲーム実況まで』勁草書房、2017年

水越伸・飯田豊・劉雪雁『メディア論』放送大学教育振興会、2018年

高野光平・加島卓・飯田豊編著『現代文化への社会学：90年代と「いま」を比較する』北樹出版、2018年

神野由紀・辻泉・飯田豊編著『趣味とジェンダー：〈手づくり〉と〈自作〉の近代』青弓社、2019年

## 【Outline and objectives】

If you are interested in a “new media” and want to learn more about it, you will have to compare it to the technical characteristics of the old media. How has the relationship between media and humans, or technology and society, changed? In this class, we will look at the formation of various media technologies that are rooted in our daily lives, and look into the future.



## 社会調査法 1

## 中筋 直哉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学および政策科学の研究の実際場面で社会調査を活用するには、研究の目的および研究に適用する社会理論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを分析することが欠かせない。この科目では、社会学の調査研究の古典を複数講読することを通して、それら各々のユニークな問題関心とそこから導き出された独特の調査設計・データ分析法を学び、さらに履修者各自の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析法を構想し、相互討論を通して洗練することを試みる。

## 【到達目標】

受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づく修士論文の執筆計画を立案できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義と履修者による発表および討論。各回 2 時限の連続講義で、第 8 回のみ試験 1 時限。オンライン授業の第 1 回は 4 月 22 日（水）6 限の時間通りです。詳細は学習支援システムに仮登録し、「お知らせ」で確かめてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期前半

回	テーマ	内容
1	総論 1	社会学・政策科学と社会調査
2	総論 2	社会調査の諸類型
3	総論 3	社会調査の倫理と真正性
4	フィールドワークの光と影 1	B. マリノフスキ『西太平洋の遠洋航海者』をめぐって 1
5	フィールドワークの光と影 2	同上 2
6	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる 1	A. クラインマン『八つの人生の物語』をめぐって 1
7	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる 2	同上 2
8	テキストデータの分解・再構築 1	小林直毅編『「水俣」の言説と表象』をめぐって 1
9	テキストデータの分解・再構築 2	同上 2
10	社会関係を計量する 1	C. フィッシャー『友人のあいだで暮らす』をめぐって 1
11	社会関係を計量する 2	同上 2
12	政策科学に貢献する社会調査 1	辻中豊ほか『現代日本の自治会・町内会』をめぐって 1
13	政策科学に貢献する社会調査 2	同上 2
14	総括的討論	各自の問題関心に基づく調査デザインの発表と相互討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自テキスト以外の関連文献を収集し、比較検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

上記授業計画の「内容」に記載

## 【参考書】

各回ごとに授業中に指示

## 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 30 %、報告の内容評価 30 %、筆記試験 40 %。よく考えられた報告を行うことと、筆記試験において修士論文に相応しい調査計画を立案できていることが A の条件。オンライン授業の場合も従来の評価基準に沿って評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

入手しやすい、近年の文献を取り上げる

## 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉地域社会学  
 〈研究テーマ〉地域社会の構造分析  
 〈主要研究業績〉『よくわかる都市社会学』（2013、ミネルヴァ書房）、『群衆の居場所』（2005、新曜社）

## 【Outline and objectives】

This lecture aims to study various relations sociological theory and method by reading and discussing classics of sociology.

SOC500E1 - 0204

## 社会調査法2

斎藤 友里子

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分析結果（解釈ではない）は統計ソフトの扱い方を憶えれば「一応だせる」。ただし、分析手法や統計学に関する知識が欠如していれば、堂々と嘘をつくことになりかねない。また、データに基づき主張するには、実質的なテーマをどのように統計解析に落とし込むかが肝要となる。この授業では、モデルの基礎を数学的に学びつつ、実際にデータを用いて分析する。これにより、社会学的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。「発見すること」「理論を確かめること」と分析の関連——計量研究における分析視角がもつ重要性についても理解を深めたい。

## 【到達目標】

数理統計学の基礎をふまえながら、主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と SPSS を用いた実習により、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

## 春学期集中

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会学と多変量解析
第2回	散らばりの指標と推測統計の基礎知識	散らばりの指標に関する学習を通して統計学の表記法に慣れるとともに推測統計の考え方について概説する
第3回	線形代数の基礎知識	線形代数の基礎について概説する
第4回	多変量データとベクトル・行列	多変量データと線形代数の関係について論じる
第5回	説明変数・目的変数と二変量重回帰モデル	二変量重回帰モデルの考え方について解説する
第6回	重回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線型代数を用い解説する
第7回	重回帰分析の導入	重回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第8回	最小二乗推定と多重共線性	重回帰モデルの推定方法の1つであるOLSと、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第9回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第10回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第11回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第12回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第13回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第14回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回～第4回 線型代数と統計学に基礎的な表記の予習・復習

第5回～第14回 教材の復習と出された実習課題の遂行。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。教材を配布するほか、授業中に適宜指示する。

## 【参考書】

ボンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990；ウオナコット&ウオナコット『統計学序説』培風館、1981；他授業中に適宜指示。

## 【成績評価の方法と基準】

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用して執筆されたレポートにより評価する（100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>数理社会学・理論社会学・社会意識論

<研究テーマ>共同性とフェアネスの関係、ジャスティスの社会学、公平評価の数理モデル。

<主要研究業績>

2011『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』（斎藤友里子・三隅一人編）東京大学出版会。

2011『「新自由主義の受容」は何により促されたか—市場化と価値意識』斎藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』東京大学出版会。

2011『不公平感の構造—格差拡大と階層性』斎藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』東京大学出版会（大槻茂実との共著）。

## 【Outline and objectives】

You can get some "output" of a statistical application software once you learn how to use it. However, if you have no knowledge of statistical theory or method per se, there is quite a possibility that you end up lying about what you have found through the analysis. If you do not want this, you need to know how to fit your research question into the framework of statistical analysis. This course will offer an opportunity to learn how to pursue your research question, quantitatively.

## 社会調査法3

田嶋 淳子

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査法の基本的理解と、その実践力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得るよう試みる。

## 【到達目標】

さまざまな質的調査法を理解すると同時に利用し、自らの社会調査データを用いて論文を書き上げること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説する。その上で、受講生のデータ（あるいは自身の関心がある領域の質的資料を任意に選んでもらう）を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験させる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	質的調査とは何か	量的調査との違い／調査倫理の問題
第2回	質的調査法の歴史と到達点1	インタビュー／参与観察／ドキュメント分析／観察
第3回	質的調査法の歴史と到達点2	エスノグラフィー／ライフストーリー／GTA／会話分析
第4回	実践的課題1（資料を集める）	質問とは何か／ラポールをめぐる論争／調査者の立ち位置
第5回	実践的課題2（資料を分析する）	記録をつくる／テーマをたてる／データの特性を整理する
第6回	実践的課題3（資料を記述する）	書くとはどういうことか／調査倫理ふたたび
第7回	ワークショップ1	データ・質的資料の持ち寄り
第8回	ワークショップ2	最初の感想とそこから見えるもの
第9回	ワークショップ3	どう記録をつくるのか
第10回	ワークショップ4	テーマをたてる
第11回	ワークショップ5	データの特性を理解する
第12回	ワークショップ6	改めてテーマをたてる
第13回	ワークショップ7	ふたたびデータの特性を考える
第14回	総合討論	質的調査法の意義

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を授業支援システムにアップします。

## 【参考書】

1. ウヴェ・フリック著、小田博志監訳、2011『質的研究入門』春秋社。

## 【成績評価の方法と基準】

討議への参加（40%）、演習課題への取り組み（60%）

## 【学生の意見等からの気づき】

非該当

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学

<研究テーマ>日本とイタリアにおける中国系移住者コミュニティ

<主要研究業績> 2010『国際移住の社会学－東アジアのグローバル化を考える』明石書店、2019『イタリアにおける中国系ニューカマーズの定着とコミュニティ形成過程』『華僑華人研究』第16号、20－39ページ。「中国系ニューカマーズと地域社会における受容過程」

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative survey.

SOC500E1 - 0206

## 社会学原典研究 1

徳安 彰

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教社会学の古典であるピーター・L・バーガーの『聖なる天蓋』をテキストにして、原典講読を行う。原典の講読をととして、宗教の社会的な捉え方と近代社会における宗教のあり方についての理解を深める。

## 【到達目標】

原典講読を通して、社会的な宗教の捉え方の基礎を理解できるようになる。それと同時に、近現代社会における宗教のあり方について、みずから社会的に考え、理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

## 【授業の進め方と方法】

受講者が、原典テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する。報告にもとづいて、受講者全員で質疑応答や討議を行う。また必要に応じて、派生的なテーマについても、受講者が学習と報告を行い、全体の討議に資するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ピーター・バーガーと宗教社会学の導 入的概説
第 2 回	講読 (1)	第 1 章前半
第 3 回	講読 (2)	第 1 章後半
第 4 回	講読 (3)	第 2 章前半
第 5 回	講読 (4)	第 2 章後半
第 6 回	講読 (5)	第 3 章前半
第 7 回	講読 (6)	第 3 章後半
第 8 回	講読 (7)	第 4 章前半
第 9 回	講読 (8)	第 4 章後半
第 10 回	講読 (9)	第 5 章前半
第 11 回	講読 (10)	第 5 章後半
第 12 回	講読 (11)	第 6 章
第 13 回	講読 (12)	第 7 章 + 補論
第 14 回	まとめ	全員による総括的討議

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

ピーター・L・バーガー『聖なる天蓋』ちくま学芸文庫（2018 年）

受講希望者は自分でテキストを購入しておくこと。

## 【参考書】

とくに指定はせず、必要に応じて授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）：テキストの担当部分の報告の質、派生的なテーマについての報告の質、および各回の討議への参加・貢献度によって評価する。

レポート（30 %）：原典講読にもとづく課題レポートの内容によって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの講読の仕方を指導することによって、受講生のテキスト理解が深まるようにしたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくになし

## 【その他の重要事項】

とくになし

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論

<研究テーマ>グローバル化の中の社会システム

<主要研究業績>学術研究データベースを参照

## 【Outline and objectives】

We read "The Sacred Canopy: Elements of Sociological Theory of Religion" (by Peter L. Berger) chapter by chapter. We focus on the sociological understanding of religion and the position and situation of religion(s) in the modern society.

SOC500E1 - 0207

## 社会学原典研究2

小林 直毅

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生権力」だけにはとどまらず、『臨床医学の誕生』や『知の考古学』などの著作となって現れた Michel Foucault の思想を源流とする「身体社会学」の成果と課題を、この分野の基本的文献を読み解くことで考察する。

### 【到達目標】

20 世紀後半以降の社会学の思想的展開とその優れた実践的成果のひとつとして「身体社会学」を、「生権力」「身体」「言説」「知」「近代」「文化」「政治」「メディア」といった多角的視点から理解し、考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

今日では「身体社会学」の原典ともいえるもっとも基本的な文献のひとつである、Bryan S. Turner (2008) *The Body and Society: Explorations in Social Theory, Third Edition*, Sage Publications. を講読する。毎回の授業では、参加者が各自の関心に応じてテキストの章を分担し、それぞれの内容のレジュメを準備して報告、討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	現代の社会学思想の成り立ちを考える。
第 2 回	The Mode of Desire	テキストの第 1 章を講読し、討論する。
第 3 回	Sociology and the Body	テキストの第 2 章を講読し、討論する。
第 4 回	The Body and Religion	テキストの第 3 章を講読し、討論する。
第 5 回	Bodily Order	テキストの第 4 章を講読し、討論する。
第 6 回	Eve's Body	テキストの第 5 章を講読し、討論する。
第 7 回	The End of Patriarchy?	テキストの第 6 章を講読し、討論する。
第 8 回	The Disciplines	テキストの第 7 章を講読し、討論する。
第 9 回	Government of the Body	テキストの第 8 章を講読し、討論する。
第 10 回	Disease and Disorder	テキストの第 9 章を講読し、討論する。
第 11 回	Ontology of Difference	テキストの第 10 章を講読し、討論する。
第 12 回	Bodies in Motion	テキストの第 11 章を講読し、討論する。
第 13 回	The Body and Boredom	テキストの第 12 章を講読し、討論する。
第 14 回	Epilogue: Vulnerability and Values	テキストの第 13 章を講読し、討論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

Bryan S. Turner (2008) *The Body and Society: Explorations in Social Theory, Third Edition*, Sage Publications.

### 【参考書】

Alan Petersen and Robin Bunton (eds.) (1997) *Foucault, Health and Medicine*, Routledge.

Deborah Lupton (2012) *Medicine as Culture: Illness, Disease and the Body, Third Edition*, Sage Publications.

### 【成績評価の方法と基準】

分担報告、討論における達成度で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003 年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003 年）

『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004 年）

『水俣学講義【第 2 集】』（共著、日本評論社、2005 年）

『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006 年）

『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007 年）

『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007 年）

『ポピュラー TV』（共著、風塵社、2009 年）

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育

への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012 年）

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013 年）

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014 年）

『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018 年）

### 【Outline and objectives】

Graduate students will be able to read and understand the basic literature of sociology of body originating from Foucault's thought.

